

紫紺の詩



エール

— リカバリーだ Meiji! —

明治大学附属明治高等学校・中学校同窓会
2021年 総明会会報

エール

ーリカバリーだ Meiji!ー

隆明会の協議の中で、様々な意見がありました。

「今、世の中はコロナに縛られている。」「5年後10年後に振り返り今年がコロナだったと思わせるようなテーマ」「コロナの話題は暗くて重いので、テーマは前向きで明るく軽い方が良い」など全部で15ものテーマを提案いただき、選定作業を進めました。

メインテーマ「エール」について

我々隆明会は、応援指導班のOBが6名と多い代になります。隆明会らしさといえば、この応援する気持ちの強さにあると考え、応援に因んだテーマを掲げさせていただきました。

コロナ禍で世界中の人々が困難に接しているこの年に、我々が総明会の幹事になったこと、そんな我々に出来ること。それは総明会の活動を通して、明高・明中OB・OGの先輩方、後輩達に「エール」を送ることではないか。我々の活動が、応援歌となって、OB・OGの皆さまの耳目に届き、少しでも元気づけることができたかと、想いを込めました。

本年度は、隆明会がリーダーを務め、両腕をあげ「元気でー」の発声とともに先輩方や後輩へ応援歌「紫紺の詩」を届けます。そして、声いっぱい「フレーフレー明治！」とエールをお送りいたします。

サブテーマ「リカバリーだ Meiji!」について

コロナ禍で色々な制限、自粛を強いられている皆様は、少なからずのダメージを負っていると思います。会報を届けるころにはこの状況も少しは良くなっていると思いコロナ禍からの回復をはかっていくという気持ちを込めて、明治を絡めて考えました。

提案されたテーマの中で最も多かったのが、「再び」、「再び前へ」、「再始動」、「再起」など「再」という字を使った言葉、「リスタート Restart」、「リカバリー Recovery」など“Re-”を接頭語とするワードでした。共に、コロナ禍からの復帰を意味する言葉になります。どれも前向きで良いイメージなのですが、最終的に語感の良さから本案を選定いたしました。

このテーマを英語で表すと、“Let's recover damage together!”になります。駄洒落、言葉遊びのようなダブルミーニングを含意しております。これも、前向きで明るく軽い我々隆明会らしさを表していると考えております。

明治中學校 校歌

作詞 武島 羽衣
作曲 楠美恩三郎

一章

帝都の真中駿河臺
遙かに望む富士のねの
高きに理想の影追ひて
集る健児勇ましや

二章

学びの高嶺文の海、
嶮しく荒き行末を
懼れず笑みて進みゆく
我等が意氣は天を呑む

三章

忠と孝の大糸を、
色どる正義、愛、誠
我等が胸をかざるべき
大和錦の美ならずや

四章

世界に王たる日の本の
國民の基と身をなして
我等が校の名を揚げむ
我等が國の威を揚げむ

校歌

作詞 児玉 花外
作曲 山田 耕筈

一、

白雲なびく駿河台
眉秀でたる若人が
撞くや時代の暁の鐘
文化の潮みちびきて
遂げし維新の栄になふ

明治その名ぞ吾等が母校
明治その名ぞ吾等が母校

二、

権利自由の揺籃の
歴史は古く今もなほ
強き光に輝けり
独立自治の旗翳し
高き理想の道を行く

我等が健児の意気をば知るや
我等が健児の意気をば知るや

三、

靈峰不二を仰ぎつつ
刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望あり
いでや東亜の一角に
時代の夢を破るべく
正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ

きごう
揮毫

紫紺の詩

筆 向殿政男

「紫紺の詩」は総明会設立50周年を記念して総明会会員の皆様から寄せられた意見を基に決定し、総明会名誉会長向殿先生に揮毫いただきました。

「紫紺の詩」の「詩」という文字は「歌(音)」ではなく、総明会会員の皆様の心に残る「詩(言葉)」、「会報」を表す言葉の意味しています。

総明会とは

総明会とは、旧制、新制明治中学校、明治大学八丈高等学校、明治高等学校の卒業生ならびに同校に在籍したことがあるものの同窓会組織である。

総明会の設立の起源は、1912年(明治45年)開校時にあった「学友会」にまで遡ることができ、1926年(大正15年)1月の「同窓会」設立へと続く。その後中断の時期を経て1964年(昭和39年)有志による「明治中学校・高等学校同窓会設立発起人会」が設立、1年間の準備期間を経て1965年(昭和40年)に第1回同窓会が開催され現在の総明会へと続いている。

総明会の活動は、「会員相互の結束と親睦を図り、且つ母校のためにこれを賛助すること」を目的としており、総明会会員を対象とした年に1回開催される総会・懇親会を中心に、各委員会が企画する行事、「総明会チャリティゴルフ大会」・「評議員 班・クラブOB・OG会」・60才以上の会員を対象とした「明朗会」等を開催している。

その他、母校に対する活動として、卒業する高校3年生を対象とし、「明治大学付属明治高等学校建学の精神にのっとり、伝統ある校風のもとに学業に励んで優秀な成績を収めたことを賞する」、2007年度(平成19年度)からは、成績優秀者のみならず、班部活動、対外活動、学校行事など、学校生活全体を通じた活躍や貢献したもののへの総明会賞の授与、母校記念行事への寄付活動、クラブ活動への支援を行っている。卒業生に対しては、大学在学中の若手を通じての総明会活動紹介、同窓会開催支援や就職相談会の開催等を行っている。

この他、総明会会員である明治大学、明治高校の教職員を通じての組織基盤の強化、「法曹部会」による高校在校生を対象とした司法試験向けの各種支援も行っている。
なお「総明会」の名称であるが、1970年(昭和45年)の第20回総会において、初代校長鶴澤総明先生の名前をいただき、且つ明治中学校・高等学校同期会と同窓生総体の連帯を意味するものとして命名されたものである。



瑞宝中綬章・略綬(左)
出典:内閣府ホームページ
<https://www8.cao.go.jp/shokun/shurui-juuyotaisho-kunsho/zuihosho.html>

向殿政男名誉会長 「春の叙勲・瑞宝中綬章」を受章

令和3年春の叙勲において、総明会の向殿政男名誉会長（昭和36年卒・明駿会）が「瑞宝中綬章」を受章されました。この名誉ある報に接し、6月20日広報委員会にて向殿名誉会長にリモートインタビューを実施いたしました。ご協力に深謝いたしますとともに心よりお祝い申し上げます。

叙勲の経緯と現在の心境を教えてください。

文部科学省を経由して明治大学理事会での推薦がありました。教育・研究に対する叙勲であり、43年間の明大工学部・理工学部での貢献が国の仕事をサポートしたというのが叙勲の理由です。明治が大好きな私は恩返しをしようという気持ちで校友会会長・総明会会長もやりました。明治大学が私をサポートし、私をここまで育ててくれたことが最大の受章理由だと思います。

先生のご功績である「安全学」研究について教えてください。

2020年6月に鉄道総合技術研究所会長に就任しましたが、鉄道に関しては大学院の時に信号機の安全の研究をしていました。信号機が万一壊れた時には必ず「赤信号か、信号が消える」ようにしないとイケない。絶対に青信号になってしまっってはイケない。この安全技術を

フェールセーフ（機械誤作動発生時に安全に制御すること）といいますが、これをテーマに博士論文を書きました。新幹線にも使われている技術です。研究が好きなので研究所に行きたかったのですが明治大学に残ることになり、大学で安全の研究をしましたが学生は興味を示さない。当時は安全については企業側も相手してくれず、世間も評価しなかった分野でしたが、安全学は地道かつ重要な研究です。私はライフワークとして安全学の研究を続けました。

仙台市営地下鉄に全国で初めて採用された自動運転システムでは、ファジィ理論を使った制御が用いられており、私もファジィ理論に関係していました。

ファジィ理論とはどのような理論ですか？

あいまいさを認める数学的な理論です。人間のあいまいさ、幅広い度合いを認めるソフトな（やわらかい）理論で、専門家がやっていることを数値化しコンピュータにやらせること（エキスパートシステム）ができます。例えば酒蔵の杜氏がやっている酒造りを職人の勘だけを頼りにするのはなく、言葉と実践によりデータを集めて、コンピュータでも同じように出来るようになります。また、掃除機や炊飯器などの家電にも使われており、社会に広く応用されています。

今のAIやニューラルネットワークは進化発展してきており、ディープラーニング（深層学習）ができるようになり人間の脳と同じような構造になってきています。その基礎にファジィ理論があると思います。

明治大学での叙勲勲章伝達式のご感想はいかがでしたか。

文部科学省主催としては中止となり、伝達式は、勲章と勲記を明治大学に取りに行くことになりました。大六野学長・立川理工学部長・荒川総合数理学部長がお見えになって一緒に叙勲の伝達式を挙げて教育・研究が楽しくできました。私のゼミを出て博士になった方は40人ほどあります。多くはファジィや情報科学専門です。明治大学は優しくおらかな方が多く、大きな恩を感じています。

東京オリンピック開催まで約1か月（6/20取材当時）ですが、「安全学」からのご見解を教えてください。

リスクゼロはありえないので残ったリスクと私たちの生活の両立が大事です。安全に対しては責任体制を明確することです。感染症専門家の役割（感染症対策）、政治家の役割（価値観を含めて状況を見ながら感染症抑制と経済活動のバランスをとる決断をする）、民衆の役割（自身ができる対策をとる）の分担を明確にして

すべてが力を合わせていくことが最も大切です。そのなかで取り返しのつかない人が亡くなるようなリスクは最優先で避けなくてはイケないと思います。リスクを抑えてからベネフィットを求める順番が大事です。将来あの時の日本の対応が良かったと評価されなければイケないですね。

今年の幹事学年テーマは「エールリカバリーだMeiji」です。総明会会員への「エール」をいただけますでしょうか。

母校明治を好きになってほしいです。不平を言うのではなく、自分の周りを自分の楽しいように変化させる考え方を持つことです。日本が好きになる、自分の家族が好きになると同じように明治を好きになってほしい。現状を楽しくする考え方を持ってほしいと思います。

明治高校が好きという仲間がまとも、先輩から後輩へと良さをつなげていくのが明治高校の伝統につながると思っています。明るく楽しく前向きにやりましょう。

また、コロナで大変な思いをされていると思いますが、こういう時こそ新しいことをするチャンスです。ピンチをチャンスに変えられるようなチャレンジをしていただきたいと思います。

向殿名誉会長、「瑞宝中綬章」受章誠におめでとうございます。



2021年6月14日明大駿河台キャンパスにて行われた勲章・勲記伝達式～左より荒川総合数理学部長、大六野学長、向殿名誉教授(総明会名誉会長)、立川理工学部長

明治が繋いだ 神輿と先輩・後輩

偶然の出会い

2021年(令和3年)の春、総明会の先輩が神輿を製作するとの情報が入り、早速取材のお願いをし、お話を聞くことになった。その先輩とは、昭和31年卒 明楽会の佐藤健一氏である。

佐藤氏は、明治高校で陸上部、明治大学では競争部に所属し、1957年(昭和32年)の第33回箱根駅伝に4区で走られた。



30年間レンタルで使用していた「南部屋五郎右衛門」の神輿。

うである。明治高校の卒業生で箱根駅伝を走ったのは、今のところ佐藤氏だけである。現在も日本陸上競技連盟・東京陸上競技協会の会員として携わっており、今年の東京オリンピックの開催準備にも関わっていた。そして総明会の評議員でもある。

佐藤氏の住む品川区南大井の、南大井第四町会は、第二次世界大戦時、武器製造のための金属類回収令により神輿の献納を命じられた。それ以降30数年は、毎年レンタルした神輿を使用して

いたそうである。その神輿をレンタルしていた神輿屋の息子さんが明治高校卒だということを、総明会会報の広告で知ったのはつい数年前で、大変驚いたそうである。その神輿屋は、元禄二年浅草に創業の神輿と太鼓を製作する「南部屋五郎右衛門」である。息子さんは、石渡 浩司氏(平成2年卒 明愛会)。平成30

年に14代南部屋五郎右衛門に就任した。石渡氏は、2017年(平成29年)に幹事学年として会報を担当してくれた。素晴らしい出会いである。

町内会を元気に

昨年からの新型コロナウイルスが蔓延して祭は中止となった。しかし佐藤氏は、町内会の五穀豊穡・家内安全を祈願し災いや厄を除き町内会を元気にするため「新型コロナウイルス復興記念大神輿」というプロジェクトを立ち上げ、75年ぶりに町会神輿を再建することにしたのである。

そこで、土田 正昭氏(昭和61年卒 新世輝)に相談したところ、石渡氏は、土田氏と

同じ歴史研究部の後輩であること。現在、総明会の広報副理事を務めていることなどを知り、石渡氏に神輿製作を依頼する事を即決したそうである。

土田氏のお父様土田饒氏(昭和31年卒 明楽会)は、佐藤氏の同級生であり、大親友である。饒氏は残念ながら昨年12月にお亡くなりになったが、佐藤氏とは、とても仲が良く、饒氏はお酒が飲めないにも関わらずコーヒーで朝まで付き合ってくれたり、毎年旅行に行くなど、とても仲良くされてきたそうである。

息子の正昭氏は、お父様の会社、帽子製造卸「東栄」を、1994年(平成6年)に継いで、2015年(平成27年)社長に就任して頑張っている。その縁で今でも佐藤氏は時々「東栄」に顔を出しているそうである。



左上：石渡 浩司氏(平成2年卒 明愛会)、右上：土田 正昭氏(昭和61年卒 新世輝)
左下：石渡 司郎氏(石渡 浩司氏のお父様)、右下：佐藤 健一氏(昭和31年卒 明楽会)

神輿製作プロジェクトの始動

今年の春から打ち合わせを経て、ようやく神輿の仕様などが決まった。これから、1年ほどかけて神輿の製作が行われる。

石渡氏のお父様である、司郎氏もコロナ禍の中、祭事が次々に中止となった中で神輿の発注に、とても張り切っているそうである。神輿の製作工程は全て職人による手作業で、いくつかの工程に分かれての分業となる。

いい機会なので神輿の製作工程を簡単に説明しよう。

① 木地の製作

神輿の大きさや屋根の形に合わせて、屋根や台輪(神輿の一番下の土台)・枙組(屋根を支える組木の部分)・鳥居等の木地を樫や檜などの材料で製作する。

② 彫刻の製作

神輿の仕様に合わ



せて、神輿本体に取り付ける彫刻を熟練の彫刻師が製作。一般的な神輿には胴回りの彫刻、総彫りと呼ばれる神輿には胴回り・鳥居・台輪等に樫の彫刻が付く。



③ 金具の製作

神輿の木地が出来上がると、それに合わせて鋳金具の製作がはじまる。木地に合せて型紙を製作し、鋳などの道具を駆使し、型紙に合わせた真鍮の板に柄を刻んでいく。出来上がった鋳金具には、金色や銀色のメッキ加工を行う。



④ 漆塗り、金箔押し

鋳金具の製作後、木地は漆職人の元へ渡し、下塗、後塗り、研ぎの工程を複数回繰り返すことで、下地を厚くする。最後の仕上げに上塗りを行い完成となる。屋根の下に位置する枙組などには、漆塗りを行った上で金箔を張る。



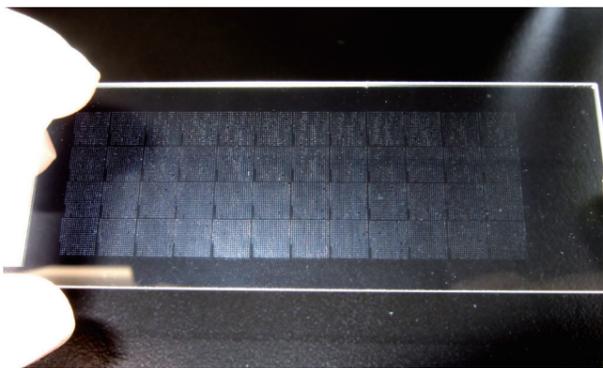
先輩・後輩のタテの繋がりを

佐藤氏は、総明会の会名がないことから、明治高校の同窓会を開催して、いろいろな先輩・後輩との交流を図っている。

昔は、総明会会員の名簿なども作り交流の幅を広げる努力をしていたそうである。現在の総明会も、もっとタテの繋がりを強くして欲しい。もっと先輩・後輩が様々な形で幅広く交流できる会であって欲しいと、佐藤氏は願っている。これが佐藤氏からのエールである。今回の神輿の製作も、まさに総明会のタテの繋がりが生み出したものであり、佐藤氏の言うタテの繋がりのいい例ではないかと思う。

神輿の完成は、来年の夏くらいに予定だ。間に合えば、次回の会報で完成した神輿を紹介したいと思う。どんな神輿ができあがるのか楽しみにして欲しい。

次号へつづく



たんぱく質マイクロアレイの実写

IgA抗体を医薬品へ

本プロジェクトでは、抗原に対するIgAの一次防御機能に着目。医薬品として承認されれば**世界初**のものとなる。

IgA 抗体	IgG 抗体
<p>分泌型 血清型</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 腸管や気道などの粘膜や初乳に多く存在 局所(目や鼻)の細菌やウイルスの感染の防御 粘膜上では二量体の形態をとる 	<ul style="list-style-type: none"> 血中で最も多く存在する抗体 細菌やウイルスに結合し、体内への侵入を防御 体内に侵入した細菌やウイルスに結合し、白血球の活性化に働き、細菌やウイルスを無毒化

抗体は、生体防御に寄与するタンパク質で、免疫グロブリン (immunoglobulin) とも呼ばれる。ヒトの免疫グロブリンには、IgG、IgM、IgA、IgD、IgEという5つのクラスがある。

抗体の結合が検出可能で、コロナウイルス関連の抗原は300種類以上が搭載されている。このシステムは世界初の取り組みであり、これにより新型コロナウイルスに対応する18種類の中和抗体を取得。そのうち3種類は「B」抗体と言う人体の粘膜に多く存在する抗体で、残り15種類は血中に存在する「G」抗体と呼ばれる物である。欧米が開発を進める抗体医薬品は全て「G」の抗体を使用しているが、高木教授の研究チームは新型コロナウイルスの感染経路である呼吸経路と人体の粘膜の関連から「B」抗体からの抗体医薬品の開発を目指しており、承認されればこれも世界初となる。

治中学校に入学。高校では天文部で、則先生の下で活動していた理系の人である。大学進学の際も当時、利根川進博士がノーベル賞を受賞して一躍脚光を浴びた事から最先端の遺伝子工学・分子生物学に興味を持ち、農学部農芸化学科への進学を決定。入学後は「イネもみ枯細菌病」発生のメカニズム解明に関する研究で修士号を取得した。その後新天地を目指し、明治大学から東京大学へ進学し、分子細胞生物学研究所(当時)で抗生物質などを天然有機化合物から探索や生産に関する研究で平成13年に博士号を取得された。

その後はバイオベンチャー企業に入社。後年にクレイグ・メロー博士とアンドリュー・ファイアー博士がRNAiとしてノーベル賞を受賞する研究となる、mRNAやsiRNA(低

分子干渉RNA)を有効成分とする核酸医薬品開発プロジェクトを立ち上げて研究を4年間続けられた。

2006年(平成18年)には国立研究開発法人産業技術総合研究所(産総研)に転職。産総研がお台場に新たな研究所を構えることになったことを機に、新しいプロジェクトの立ち上げに参画した。新しいプロジェクトは、放線菌が産生する有用な有機化合物などを網羅したライブラリーを作り、糖尿病やがんなど様々な病気の研究をする研究者にアッセイ系(実験系)導入の支援をするプロジェクトである。まさに高木教授のこれまで取り組んだ研究と合致している。

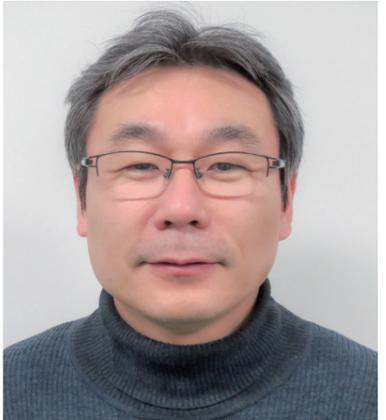
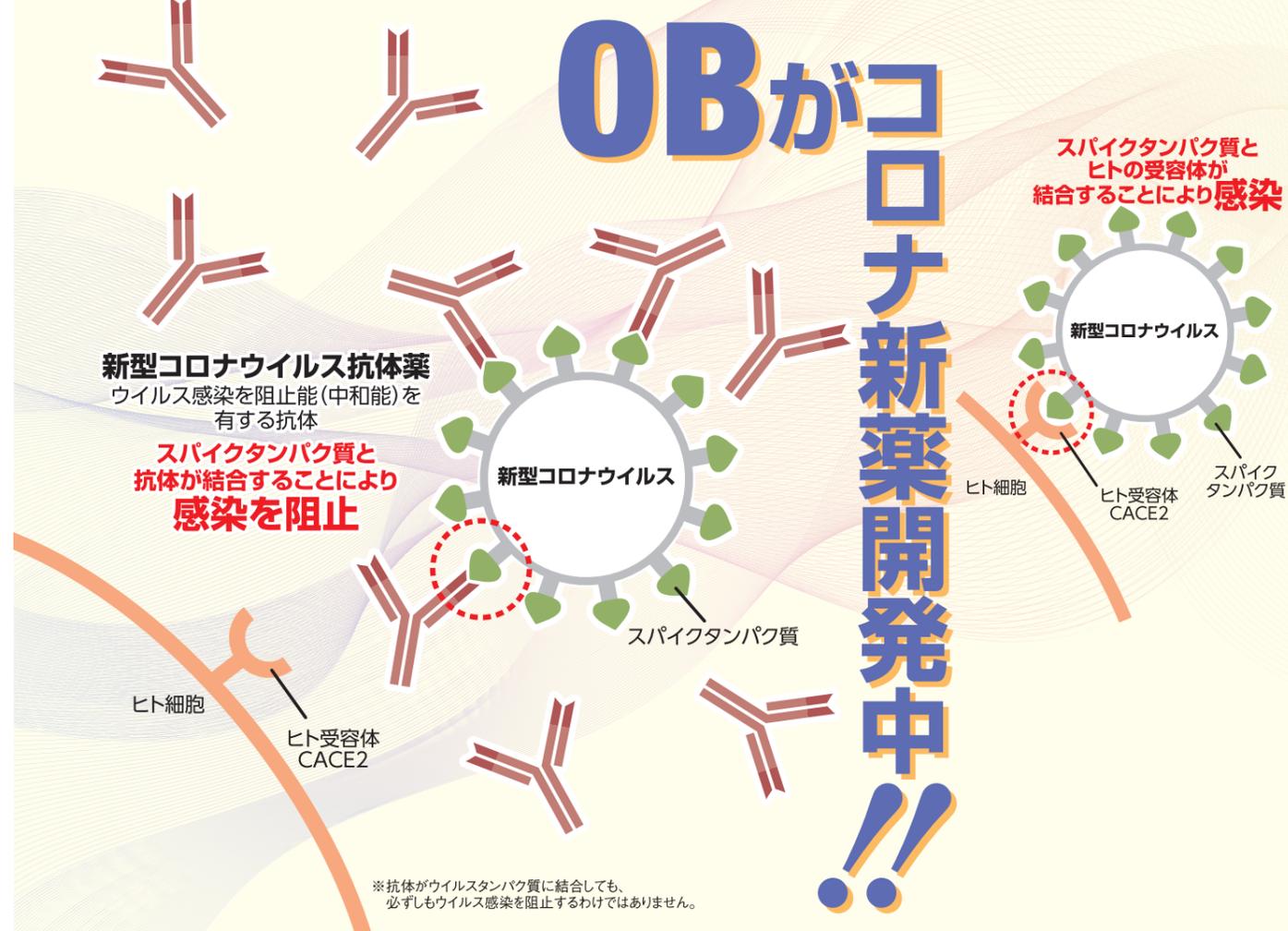
2012年(平成24年)、東日本大震災を契機に福島県の復興プロジェクトとして福島県立医科大学に医療・産業トランスレーショナルリサーチセンターが開設。将来につながる新産業育成の研究が目的であり、高木教授はその立ち上げに参画。付属病院での手術で切除されたがん細胞から、がん研究がんと遺伝子解析・がん評価モデル作製などを行ってきた。特に抗がん剤の評価はベンチャー企業勤務の頃から長く続けられた分野で、これらの結果を製薬会社に提供し、副作用の出にくい新たな抗がん剤の開発に活用されている。そして高木教授のこれまで続けてきた抗体医薬の研究が新型コロナウィルスの治療にも通用すると明らかになり、にわかに脚光を浴びているのである。

高木教授は博士として社会に出た当時の1996年〜2000年(平成8年〜12年)に政府が進めた「ポストク二万人計画」のありを受け「ロスジェネ世代」真只中の

一人だ。この政策の結果大量の博士号取得者が職にあぶれて生活に困窮する事態を招き、日本における理化学の衰退の原因の一つとも指摘されている。そのような厳しい状況にも関わらず、高木教授は転職の先々で多くの新規事業の立ち上げに参加しプロジェクトマネージャー能力を発揮されている。この高い先見性が今回の誰よりも早い新型コロナウイルス抗体医薬の開発プロジェクトとして実を結んでいるのはなかるうか。

欧米主導の抗体医薬開発に挑む「秘策」

高木教授が研究を進める抗体医薬開発を取り巻く世界の現状について更に詳しく聞く。本邦に於いて抗体医薬の分野での顕著な功績は、2018年(平成30年)にノーベル生理学・医学賞をジェームズ・P・アリソンと共同受賞した本庶佑博士による免疫活性化抗体の発見(1992年(平成4年))である。この発見は人体が本来持つ免疫でがん細胞を攻撃させる新しいタイプの治療薬「ニボルマブ(商品名オプジーボ)」の2014年(平成26年)の販売承認を導いたのであった。抗がん剤は従来の合成化合物よりも抗体医薬の比重が現在圧倒的に高まっており、抗生物質ではなく、体の免疫機能で病気を克服する考え方にシフトが進んでいる。今までは、がんや病原体を殺すが細胞や病原体に耐性が出来てしま、い、たちごこ状態が繰り返されて来た。これを人体本来の免疫を活性化させて健康を保ち、食事や睡眠だけではなく抗体医薬で対処する発想への転換が進みつつあり、多くの病気の治療法が抗体医薬への転換されて



「コロナ治療薬」開発最前線

コロナ禍に日本から照らされた光明

「コロナ回復者から「抗体」取得 福島県立医大、医薬品など開発へ」昨年の4月末、日本経済新聞・毎日新聞・福島民友新聞などの各メディアが新型コロナウイルス治療薬の開発に繋がる世界初のプロジェクト計画の発表についての記事を逐一に配信した。新型コロナウイルスの感染状況が拡大し、日本全土に初めての緊急事態宣言が発令された最中で、感染症対策に光明をもたらすニュースとして世間に広く伝えられた。発表当日の記者会見に立ったのは福島医科大学医療産業トランスレーショナルリサーチセンターの高木基樹教授。この高木教授、明治高校のOBにして、昨年幹事学年を担った平成4年卒「快汗、どすこい塾」の一員なのである。

高木教授の率いる新型コロナウイルス治療薬の開発プロジェクトとは一体どのような物なのか、一言で表すならば「抗体医薬の開発」だ。抗体とは体内に侵入した抗原(新型コロナ

コロナウイルス)の特徴を覚えて攻撃するタンパク質で、抗体医薬品は人体由来の中和抗体を活用した、感染症診断・予防・治療と違った用途が期待されている。現在までに日米欧で約70種の抗体医薬品が承認され、がんや自己免疫疾患(関節リウマチ、ベーチェット病、ネフローゼ症候群、クローン病)などの難病の治療に欠かせない存在となっている。現在日本国内でも接種が進んでいるファイザー社やモデルナ社によるmRNA(メッセンジャーRNA)ワクチンは人体内で中和抗体を生み出し感染症を予防するが、ワクチン接種しても人体内で作られる中和抗体の量には個人差があり、中和能の無い抗体しか体内で生成出来ない場合は効果が限られる可能性がある。従来は血漿療法が解決策であったが、回復者からの供給量には限界があり、未知の感染症には対応が難しい。中和抗体は工場生産した安定した品質の物を直接投与できる。ワクチン・血漿療法のアプローチを補える。感染症対策は診断薬・予防薬・治療薬と3つの薬のセットが基本となる。抗体医薬はこの3つの薬を開発・製造する全ての工程に携わる重要な役割を担えるのだ。

抗体医薬の開発・製造の為に高木教授らが今回開発したのは「免疫モニターチップ(タンパク質マイクロアレイ)」だ。新型コロナウイルス感染症の回復者から提供された血液サンプルから4000種類のヒトに関連する微生物(常在菌や病原体)がスライドガラス(約25×7.5センチメートル)程度の大きさの1枚のマイクロアレイに搭載されている。1回の解析で4000種類の抗原に対する

特集 君にエール



隆明会OB紹介 高松市副市長 田村真一

いくと高木教授は見ている。

人類と感染症との戦いは長い。その先駆けは1801年のエドワード・ジエンナーによる天然痘治療法の確立だ。牛痘回復者から採取した偽の病原体を接種させて以降、約200年に渡りワクチン接種の仕組みはほぼ変わらず技術革新は起きて来なかった。2021年(令和3年)の現在、急速に接種が進むmRNAワクチンの技術は、10年に渡り米国モデルナ社がけん向けのワクチンとして研究を進めてきた成果による物なのである。

mRNAワクチンの研究開発は日本に於いては取り組まれておらず、本庶佑博士も「日本の会社では相手にされず、海外に出た」とかつて述べたと言っている。なぜ本邦では進まないのか。高木教授はこの問題点はお金だけではないと語る。日本の製薬会社の規模は欧米のトップ企業と比べると小さい。国内最大の武田薬品も昨今海外企業の買収を進めて規模拡大を進めているが、その武田薬品でさえ、米国でがん研究を進めている現状がある。米国は世界のがん研究の集積地なので、研究者人口が圧倒的に多く、またモノや情報も入りやすい。日本の製薬界がリスクを取らない経営方針を取り続け、新型コロナウィルス対応では企業も国もリスクを取らないと言っている。ヒトもカネも10倍以上の格差があり、少数精鋭主義の日本の医薬品開発の現状の厳しさを指摘する。

そのような状況下でも高木教授は新規性を追究して世界初の抗体医薬の開発を目指している。それは「IgA抗体」の活用で

ある。コロナウィルスは口鼻から入って肺炎になる。粘膜上にあるIgA抗体は、異物を外に出す一番槍の役割だが実用化例はまだ無く、成功すれば世界初となる。血液内に多く含まれる「IgG抗体」を活用した抗体医薬の開発は欧米でノウハウも多く、工場生産が可能だ。IgA抗体を利用した医薬品開発は工場生産が出来ない所が多く、感染症に効くが開発してこなかった。しかしこのコロナ禍を契機に開発競争が激化し、ライバルが増えるのではないかと高木教授は見ている。

マイクロアレイと中国企業とコロナウィルス

「タンパク質マイクロアレイ」はmRNAを二つずつ切り出して作っている。コロナウィルスの部品となるたんぱく質を別々に発現させて、分離・精製してマイクロアレイに張り付ける作業は地道で膨大に思えるかもしれないが、実は新型コロナウィルスのサンプル用タンパク質は既に販売ルートがあり、中国企業がコロナウィルスのパンデミック発生前の2020年2月頃から売っていたと言っている。これは中国企業がパンデミックの前から新型コロナウィルスの情報を持っていたとの疑念を持たざるを得ないが、裏付ける証拠がある訳でも無い。時間の経過が真相に近づく可能性に期待したいが、現時点では何とも言えない状況である。新型コロナウィルスを研究する方ならではの貴重なエピソードである。

なお、本稿執筆時点では世界中で様々な変異株が出現しているが、これらの対応は随時収集しているそうで、流れ作業のフローが

確立されており、研究体制が確立されていると言っている。

抗体医薬のこれから

抗ウイルス薬は進歩に伴って抗生物質から抗体医薬に変わるのだろうか。製薬会社は売れる物を作るのが前提だ。次の未知の感染症が発生した場合、格段に使い易くなるだろうと高木教授は考えている。何よりヒトに投薬した実績は何物にも代え難い経験なので、今後の抗体医薬開発のペースはより加速するだろうと言っている。更に米国は国防的観点から、軍事予算を活用した感染症対策の研究も進めており、お金のかけ方が格段に異なると指摘する。ビジネス・学術国防と感染症対策のアプローチの姿勢は国によって大きく異なり、リスクとしての評価の差異が如実に現れる。「日本は島国なので感染症への考え方が独特で元々考えが足りない。歴史的にも他国と比べて実例が少なく、元来感染リスクが低く見積もられてきた」と評価する。これからの研究については「我々の技術は世の中で使われて初めて意味がある。研究開発を続けてきた技術が日本国民の為にできるよう、抗体医薬をいち早く実用化したいと強く思っている。元来、世界では新型コロナウィルスの感染拡大は10年に1回のペースで定期的に発生している。今後それらへの対応が日本もすぐに出来るようにすべきであり、それが我々の考え方だ」と強い使命感と未来を見据えた考えを語って下さった。

最後に現役の学生達に向けてのメッセージを頂いた。「日本の若い研究者達は興味を持って臨まないと、世界と勝負出来ない。日

まずは自己紹介をお願いします。

明治高校平成6年卒の田村真一です。ご縁あって今年の特集に登場させて頂いた皆さまありがとうございます。また、会報担当を含め隆明会の幹事メンバーの尽力に敬意を表したいと思います。これまでも何人かの隆明会OBには霞が関界隈で会ったことがあります。また、またま数年前にバレーボール部だった友人が国土交通省に人事交流で来てくれ、皆さんご存じの「銀座升本」に通ううちに、隆明会懇親会と出会うなど旧友との輪が広がっていきました。明治高校同級生という強固なつながりに改めて感謝ですね。さて、本題の自己紹介ですが、私は、明治中学から白雲なびく駿河台で学び、当時は片手で数えるくらいしかいなかった外部受験を経て東京大学法学部へ進み、その後、現在の国土交通省に入省しました。現在は、さぬきうどんで有名な香川県の高松市で、副市長として、まちづくりや、産業・観光・文化芸術・スポーツの振興などを担当しております。

高松市はどういうところなのでしょう。

風光明媚な港町で、商業が盛んな都市です。温暖な気候で、雨がほとんど降らないですね。香川県約95万人のうち約42万人が高松市に集中しており、国の出先機関や大企業の四国支店も集中しているの、それなりに都会です。思ったほど物価が安くなくて、ランチは「銀座升本」より高いです(笑)。休日になると、さぬきうどん目当てに関西や広島辺りから

本はノーベル賞の生物科学分野で多数の受賞者が居たが、理系の大学院進学数減少は事実で博士号取得者も減少している。科学は産業の基盤なので、学生にはもっと興味を持ってバイオテクノロジーの分野に来てもらいたいと強く願う。その為に自分出来る事は中々無いが、先般のプロジェクト計画発表の記者会見も情報発信が大切と思って開いている。是非ともバイオテクノロジーに興味を持ってほしい。抗体医薬で新たな地平を切り開くべく、日々研究に邁進される先輩からの力強いエールである。

(会報委員会より「OB・OG活動報告」内の快汗、どすこい塾の記事を高木教授に執筆頂きました。併せてそちらもお読みください)



来る人も多いですね。市内には栗林公園(りつりんこうえん)という有名な庭園があつて、地元の人いわく、日本三名園(偕楽園、兼六園、後楽園)よりよほど良い。特に岡山の後楽園とは比べ物にならないようです。また、市外ですが、直島、小豆島など現代アートで有名な場所もあり、3年ごとに開催される瀬戸内国際芸術祭が2022年(令和4年)にあります。また、四国八十八か所めぐりをしているお遍路さんも多く、私もマイカー遍路で既に一周しています。道中なんとなく弘法大師空海が一緒だった気がします。高松市に限らず四国は楽しめる所が多いので、機会があればお越しください。

現在は副市長という仕事ですが、具体的にどのような仕事なのでしょう。

市長の市政運営をサポートするのが役割で、具体的には、将来的なまちづくりの方向性を決める、個々の開発プロジェクトを滞りなく進めるといった仕事をしていきます。何事も事前の協議や調整が重要となるのですが、特に、私の場合は国の機関との協議や調整をやっていますね。また、市役所に限らずですが、役所は良くも悪くも縦割りであったり前例踏襲であったりする傾向にあるので、そういった傾向がよい方向に作用しない場合には、私が乗り出して解決するといったこともやっていますね。あとは、市長代理として、イベントや式典において人前で挨拶する機会が多いですね。これがなかなか大変でして、会場の人々に視線を配る、



イベントや式典にちなんだ内容を一言盛り込む、前に挨拶した者と内容を重複させないなど、留意すべき事項が多いですね。まあ、原稿を見ながら挨拶すれば楽なのですが、それは私の美学なのか変なプライドなのか許さないので、毎回緊張しています。

人前で挨拶する機会って結婚式以外ではあまりないですからね。さて、ご存じの通り、現在の明治中学・高校は共学校になっており、近年では他大学への進学者も増えてきています。今後の卒業生は田村君のようなパターンも増えていくことが予想されますので、当時としてはレアな足跡が参考にもなるかと思ひ、今回のOB紹介に登場してもらったわけです。まずは、もう30年近く前ですが、明治中学・高校時代で思い出に残っていることは何でしょうか。

今は共学になったので、もう見られない光景ですが、当時は男子校だったので、休み時間にパンツ一丁で一人でプロレス？をしている友人がいたのが妙に印象に残っていますね。あとは、長野県・南志賀高原にあった学寮でのバレーボール部の合宿ですかね。夏はとにかく暑い合宿であまり楽しくなかったのですが、春はスキー合宿で、しかもOBの先輩が経営する塾の生徒(女子を含む)と合同だったので楽しみましたね。スキー上級者は妙に格好つけて滑ったり、普段見せないような優しさをさせる先輩が増えた(笑)。

家公務員は最近人気なくなっているようで残念ですが、当時は確か試験合格に約40倍、採用に約2倍だったので、隔世の感がありますね。

読者の中にも現職の公務員やこれから公務員を目指す学生も多く、参考になると思いますが、まずは国家公務員や国土交通省を選んだ理由を教えてください。

少年時代から天下国家のために働くことが格好いとの思いがあったのですが、実際、国家公務員総合職(旧一種)は、早い段階から責任ある仕事を任せられ、職務のフィールドも幅広いので、良い選択だったと思います。経済的な利得を第一に考えずに青臭い正義感でもそもも論を語ることができたり、多くの関係者に会って情報交換できたりするのも公務員

男子校あるあるですね。今話に出ましたが、部活はバレーボール部でした。

中学3年間バレーボール部でした。体力づくりのために運動部とは決まっていますが、長距離走が苦手なので、走り続けなくてよさそうだからという消極的理由から選択しましたが、意外にも続けられましたね。今ではやっていないであろうハードな練習や、昭和な感じのしきたりもありましたが、部活動を通じて、やり抜く力みたいなものを身につけられた気がします。試合でも、千代田区で優勝し、都大会に出場できたことが思い出に残っていますね。都大会では一回戦ボロ負けだったのでたいした成果ではありませんが、なかなか勝てなかったライバル校である区立一橋中学に勝ち、(明治中学が勝つと一橋中学が準優勝になるので)一橋中学の女子生徒の声援を受けながら、どこかの中学校に圧勝して千代田区の頂点に立てたということが良い思い出です。

どの部分が「良い」思い出なのかは様々な解釈ができそうです。さて、高校時代は外部受験を控えて陰ながら努力していたと推察します。当時は、外部受験をすると明治大学への推薦を辞退しなければならなかったと思いますが、あえて外部受験を考えたきっかけは何だったのでしょうか。

中学3年の終わり頃、将来は中央省庁で働く国家公務員を目指そうと思ひ立ち、それなら東京大学に行った方がよいと思ったことがきっかけですね。まあ、実際に外部受験するかは高校Ⅲ年で決断するだけではないでしょうか。その中でも、国土交通省を選んだのは、まちづくり、治水、道路、鉄道、航空などインフラや交通といった、国民生活や経済活動の基盤づくりを担当する身近な役所でイメージがしやすかったからでしょうか。道を歩いて目に入るものは概ね所管行政の範囲ですし、道路案内標識や一級河川の看板で「国土交通省」と自己主張しているんですよ。

そういえばよく街中で目にしますよね。もう入省して20数年が経ちますが、これまで国土交通省ではどのような仕事をしていたのでしょうか。

総合職の場合は採用省庁の内外を問わず幅広い分野の職務に就きます。特に、法律等の事務系職種は人事異動サイク



ればよいし、自分の可能性を見極めてみただけだし、最終的に受験しなかったとしても勉強したことは無駄にはならないので、とりあえず始めてみようと思ひました。今でもそうなのかわかりませんが、明治高校は文系・理系関係なく幅広い教科を学習するスタイルだったので、学校の勉強も基礎固めに役立ちましたね。とはいえ、推薦辞退という退路を断つての挑戦は十八歳には重い決断でしたね。

外部受験を考える現役高校生へのアドバイスはありますか。

何かを学ぶ上で心掛けていることは、自分が「何がわからないのかを知る」ことです。その手段として「他人に説明する」こと(実際は独り言。周囲に注意)を実践するよと思っています。大学入試は志望校によって出題のタイプが異なるので実際にはそれぞれに合った学習が必要ですが、東京大学の文系科目の場合、クイズのような細かい知識を問われるわけではなく、教科書レベルの知識を関連付けて説明することが問われるタイプの学習が必要だったので、誰かに説明する、想定される質問・回答を考える、実際に書いてみるといった学習をしていました。私の場合は、英語、国語、数学、日本史、世界史が試験科目でしたが、数学を含めて解答は論述形式で答えるので、作文し続ける体力というか腕力も必須ですね。余談ですが、右手が使えない場合に備えて左手で書く練習も試みましたが、さすがにこれは無理でしたね(笑)。

ルも1、2年で採用省庁以外に出向経験のある者がほとんどですね。私の場合、20数年の役人人生で、6割が国土交通省、4割がそれ以外の機関で働いています。国土交通省の職務経験では、これまで、政策調整、予算等の内部管理的な分野もあれば、公共事業のための土地取得を円滑にする視点から、相続等で所有者が不明になっている共有地問題に取り組んだり、出先機関が実施する年間約3万件の入札・契約の制度づくりに携わったりといったものもあります。読者がイメージしやすいところでは、航空分野ですかね。航空行政は、シカゴ条約という世界共通のルールに準拠して各国が自国の航空運送事業者を監督するのですが、米国の存在感が圧倒的な世界です。使用される単位からしてヤード・ポンド法です。



努力の甲斐あって無事に合格となったわけですが、ニュースで見ると胸上げはされたのでしょうか。また、大学生活はどのようなことを。

あれはアメリカンフットボール部が体重の軽い者に声をかけています。私には胸上げの声はかかりませんでした。「君、いい体をしているね」と入部の勧誘がありました。丁寧に断りましたが、また、面白みに欠けますが、大学生活はいたって平凡で、基本的には大学に通って講義を受けていました。興味を持った講義は広く受けていたので、毎日何かしらの用事で大学に通ってましたね。1、2年生は京王井の頭線の駒場キャンパスで、明大前に近かったので、一度だけ明治大学の和泉キャンパスを偵察しに行ったことがあります。見知った顔には会えませんでした。3、4年生は赤門のある本郷キャンパスになるのですが、書店巡り等でお茶の水界限にもよく出没していました。明治大学の刑事博物館や師弟食堂も利用しましたね。学業以外では、テニスサークルに入って学園祭でタロット占いをしたり、法律相談所という変わった組織でボランティア活動的なことをしたり、アルバイトで塾の先生をやったり、色々な経験をしました。総じていえば、大学生生活のウエイトは、3年生以外は「学習6、アルバイト等4」、3年生は公務員試験の勉強もしていたので「学習9、アルバイト等1」でしたね。周囲の者もだいたい似たり寄ったりで、特に理系の者は実験が大変だと言っていましたね。国

航空機のボーイング社、エンジンのゼネラル・エレクトリック社のような製造事業者がないこともあり、ルーレイキングにおいて、わが国の存在感は大きくありません。国産のジェット旅客機開発には国土交通省も期待していたのですが、昨年に事業化凍結となってしまいました。航空行政の分野は、事業者監督、空港整備・管理、航空管制、航空安全(パイロットの免許、航空機の安全確保など)と多岐にわたり、私が担当していたのは、航空安全の全体総括や予算・人員確保といった業務でしたが、印象に残っているのは、外国航空機の安全確保という、わが国ではあまり注目されていなかった分野に一步踏み出したことですね。航空機は旗国主義といつて、登録がある国の監督に服するが原則で、どこの国の登録機かは表示でわかります。JA日本、N米、G英国などありますので、機会があれば羽田空港等で見て下さい。例外として、旗国以外の空港に停泊している間は当該国の当局も一定の安全検査(ランプ・インスペクション)ができるルールになっているのですが、それまでは登録国の監督を信頼してわが国はあまり積極的ではなかったですね。ところが、わが国の航空会社は結構な頻度で外国当局から現地での安全検査されたり、私が出席した国際会議でランプ・インスペクションの重要性が問題提起されたりもしていたので、LCC(ロー・コスト・キャリア)の乗り入れが増加しつつある中、それでいいのか、否！みたいな感じで、半ば



国土交通省以外ではどのようなことを。宮城県で警察官をやったり、千葉県庁で働いたりしたこともあるとか。

先ほど話した通り約4割は国土交通省以外の機関で働いていますので、現在の高松市役所のほか、これまで千葉県庁、宮城県警察、農林水産省といった機関で働いています。いくつか印象深い経験をお話ししますと、平成17年から2年間は、宮城県警察で交通指導課長として交通指導取締りや交通事故・事件の捜査を担当しました。刑事訴訟法上の司法警察員という身分なので、裁判所に対して捜索、逮捕等の令状を請求したり、執行したりする権限はあるのですが、そのような司法警察活動を実際にやるわけではなく、全体のマネジメント、課員のバックアップ、対外的な協議が主な仕事ですね。初の管理職だったのですが、警察組織は幹部が現場に姿を見せるのが重要らしく、深夜の飲酒検問に立ち会ったり、栄養ドリンク持参で捜査本部の捜査員を慰労したり、警察署長を頻りに訪問して交通警察活動に注力してもらうようお願いしたり、管理職としての動き方が勉強できたのは良い経験でした。また、地味な貢献ですが、ある部下職員が、1件につき氏名、住所等20項目程度のデータを盛り込んで送付状を作成するという事務作業が300件分程度あって、期限まで余裕がないので休日出勤してカット・アンド・ペーストでやりますということだったので、何とかせねばとの思いから、四苦八苦しながら調べてエクセルのマクロを

組んであげたという嬉しい上司愛？を見せたりもしましたね(笑)。システム・エンジニアの方から見ればたいしたことないのですが、素人なりに、1件目の各データを順次転記し印刷しデータ消去し2件目：という命令を組めばいいはずといった仮説を立て、実現方法を模索するという、今でいうところのプログラミング思考で対応しました。試行錯誤しながら、なんちゃってプログラムが完成し、実行してうまくいったときは、爽快な気分でした。さらに、警察組織らしいということも記憶に残っていることは、「心に制服を」という標語があって、私生活でも職業倫理を忘れるなといった趣旨なのですが、良いことばですね。今では制服こそ着ませんが、心構えとして持ち続けています。

もうひとつ紹介すると、2011年(平成23年)から4年間、千葉県庁に出向し、うち2年ほど産業振興課長という職務に就いていたのですが、この時期は特に自分でも活き活きと活動していた気がします。県の課長クラスになると、方針決定や予算配分にある程度の裁量があり、また、経営者や団体幹部等と直に情報交換する機会もあるので、自分の考えで政策形成していけるからでしょうね。自分で思い描いたプランをあの手この手で実現させる、難しいです。できませんという抵抗を突破する、そういった成功体験って仕事を前向きに進める力になるので大切だと思います。またまたマニアックで恐縮ですが、自己満足度が高い事例な

積極的にチャレンジしてみたいかがでしようか。さて、今回は国家公務員ということで登場させていたので、最後に立場上(笑)国家公務員をPRしたいと思います。私は機会にも恵まれ、国家公務員と地方公務員(県、市)と双方の経験があります。その効果としての社会・経済に与える影響です。国家公務員の場合、自分の担当する政策分野において、現在の社会・経済情勢に現在の手段は対応できているのかについての最終責任を負う立場にあって、パワーやマネーや情報もあるので、対応するにしても対応しないにしても、常に本質に立ち返って論理整合的な理屈を考えておかなければなりません。自治体であれば「法律でそうなるから、国がそう言っていますから」と言えば終わりですが、国の場合は「じゃあ法律改正すればいいだろう、どうしてそういう見解になっているのか」となりま

ので紹介します。当時はリーマンショックの影響がまだ残っている中で、東日本大震災後の六重苦(円高、法人税率、労働規制、温室効果ガス削減目標、電力不足、経済連携協定の遅れ)が言われており、県当局としては投資の促進や雇用機会の確保が課題だったわけですが、臨海コンビナートの企業から、投資判断に当たった際の制約要因の一つに、工業用地の一定割合を緑地にしなければならぬという規制があるので最大限に緩和してほしいと言われていました。これは昭和48年に公害問題等を背景に、環境保全と調和しながら工場の立地を進める工場立地法というものができて、千葉県では工場の敷地の10パーセントを緑地にしないという千葉市等の条例による規制があったのがひとつと、これとは別に、森林や街路樹等の緑を増やすという環境行政の視点から、工場の敷地の10パーセント以上は緑地にしようという県や市の緑化協定制度がもうひとつあったのですが、これらを工場立地法では下限を5パーセントにすることができると、そこまで引き上げてほしいというのが事業者の要望だったわけですね。行政側の登場人物が、千葉県と千葉市ほか4市で、それぞれ産業部局と環境部局という対立構造になりやすい者が入り乱れる案件でしたので、現職の公務員ならわかるとは思いますが、まあ敬遠したくなりますね。事実、私の着任前は、「緑を減らす方向性自体がダメ」「規制緩和しても投資は進まない」「他の市がやっていない」「県が市の条例

国家公務員になると多彩な職務経験を積めるんですね。さて、今年のテーマは「エール」ということで、これから大学進学や国家公務員等の社会人を目指す学生さんへのメッセージで締め括ってみたいと思います。

を緩和してくれと言うこと自体が地方分権の趣旨に反する」などのやらない理由ばかりが言われていました。結局、担当課長である私が総合プロデューサー兼黒幕のように動いて、利害関係者を巻き込んだり、上司をアサインして決定権者に働きかけてもらったりしたことや、リーダー格である千葉市が最初に協力してくれたこともあったので、最終的にはドミノ倒しのように各市で条例が改正されて5パーセントにまで下がりました。一緒に頑張ってくれた職員やその時の情勢のおかげですが、最後まで筋を通して曲げない根気強さや、一つのプランがだめでも次々と他のプランを試してみる発想が大切なのではないかと思います。また、話はまったく変わりますが、年に4回、県議会の商工労働委員会に出席して、出たところ勝負の質疑応答をするのですが、どのような質問なのかはその瞬間までわからず、当意即妙な応答が求められるので、なかなかスリル満点な仕事でしたね。あの県議が「中小企業が：臨海コンビナートが：」と私の担当分野をずっと語っていたのに、最後の一言で「：結局、大切なのは観光だと思いが、観光課長どうなの。」となったので、隣に座っていた観光課長が慌てるという光景もあったり。千葉県庁時代は色々な経験を積ませてもらい成長できたので、関係者の皆さんには感謝ですね。

将来の夢って、だんだん現実的になりますよね。私も幼い頃は機動戦士ガンダムの影響かロケット工学者が夢だったのですが、実現可能な夢ということもあって、最終的には法学部に入り、国家公務員となった次第です。人によつては、最初は文系だったのが理系に変わったなど私とは逆のパターンもあるのではないのでしょうか。私は、将来の夢は夢に終わらせずに実現してこそその夢であつて、実現したものが夢である、でいいと思つています。そして、その実現した夢からさらに次の夢に向かう、要すれば、今は手が届かないが、少し進むと手が届く目標を設定してそれを現実していくことを繰り返すことを心掛けたらよいのではないかと考えています。先ほどの例で言えば、ロケット工学者も国家公務員も、それ以外の仕事も、広く社会の役に立っているという点では同じですからね。別の視点から言えば、小さな成功体験の積み重ねが重要です。小さな成功体験が次の成功につながる、人間誰しも達成できない目標に向かって努力を続けるのは至難の業です。勉強であれ、仕事であれ、重要なのはモチベーションです。そういう意味で、大学受験、資格試験等は自分自身の成長や将来の夢を考えるための良い機会ですので、

積極的にチャレンジしてみたいかがでしようか。さて、今回は国家公務員ということで登場させていたので、最後に立場上(笑)国家公務員をPRしたいと思います。私は機会にも恵まれ、国家公務員と地方公務員(県、市)と双方の経験があります。その効果としての社会・経済に与える影響です。国家公務員の場合、自分の担当する政策分野において、現在の社会・経済情勢に現在の手段は対応できているのかについての最終責任を負う立場にあって、パワーやマネーや情報もあるので、対応するにしても対応しないにしても、常に本質に立ち返って論理整合的な理屈を考えておかなければなりません。自治体であれば「法律でそうなるから、国がそう言っていますから」と言えば終わりですが、国の場合は「じゃあ法律改正すればいいだろう、どうしてそういう見解になっているのか」となりま

把に言つて、仕事には、自分一人が頑張つて成果を出すものと他人を動かして成果を出すものがある、それぞれに求められる能力が異なるのですが、特に、後者の能力は、書籍や書類を読んで勉強するだけではダメで、実践して失敗して反省して改良してといったことの繰り返しが必要です。その意味で、国家公務員総合職は、若いうちから責任ある立場に放り込まれ、社会・経済に対してそれなりに影響を与える仕事を任せられる機会が多く、良きにつけ悪しきにつけ「お前に任せるから何とかしろ」と裁量性も大きいので、自身を成長させたい者にはうってつけだと思います。また、最近では、まだまだ不十分との声もありますが、産休・育休、テレワークなど働き方改革も進んでいますし、総合職で入省し働き続ける女性も多くなっている、男女問わず働きやすい環境になりつつあるのかなと思います。上司を気にせず先に帰るのも一般的になつていきますし、部下への指示も「おい、お前・・・しろよ」だったのが「○○君。○○さんね・・・しといてよ」とマイルドになつている気もしますね。このような魅力ある職務なので、安月給に耐えられる者は、国家公務員の門を叩いて下さい。最後に、読者の皆さんへのエールです。「無駄な努力はないが、努力を無駄にするか否かは君次第だ！」

明治大学 学長

大六野 耕作



仲間へのエールを!

明治大学長の六六野耕作でございます。本来であれば、本年11月に開催予定でありました総明会・懇親会場で皆さまにお目にかかり直接ご挨拶すべきところですが、コロナ禍のためこれが叶いませんので、会報誌「紫紺の詩」の紙面をお借りし、一言ご挨拶申し上げます。

明治大学は今年、創立140周年を迎えました。駿河台キャンパス内に所在する「明治大学博物館」では、本年11月の下旬まで、「校友山脈～明治大学の教育と人材～」と題する特別展を開催しています。58万人を超える校友の中から、顕著な業績を残された人々と、その方々を育んだ本学の教育を主題としたこの展示を先日見学いたしました。各界に渡る多士済々の校友諸氏の活躍は、まさに「山脈」の名にふさわしく、本学の輝かしい歴史として脈々と引き継がれていることを改めて実感いたしました。もちろんその中には、生粋の「明治魂」を明治高等学校・中学校で育まれた総明会会員の皆様も多くいらっしゃいます。多感な思春期を「良い仲間たち」とともに謳歌し、卒業後も総明会を通じてタテ・ヨコの深い絆を大切にしながら、大変な時節にあっても互いを鼓舞し「エール」を送り合える仲間がいること、これこそ総明会会員の皆様に与えられたかけがえのない特権と言えるのではないのでしょうか。

文部科学省においても長らく「高大接続改革」の重要性が提唱されております。政治、経済、文化、あらゆる事柄が世界的広がりを持ち、その影響が瞬時に他へ波及する現代において、高等教育（明治大学）とその基礎となる中等教育（明高）が果たすべき役割は、今後ますます重きをなすことでしょう。大学・高校・中学校の紐帯をさらに強固にし、より一層充実した教育を展開して参りたいと存じます。総明会の皆様におかれましても、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、井家上哲史会長をはじめ、本年の幹事学年である平成6年度「隆明会」の皆様に対し心から御礼申し上げますとともに、総明会及び関係者の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

学校法人 明治大学 理事長

柳谷 孝



共に「前へ！」

このたびはコロナ禍の困難な状況下にもかかわらず、「エールーリカバリーだ Meiji!」を活動テーマに掲げた平成6年卒「隆明会」の皆様のご尽力により、2021年総明会会報『紫紺の詩』が発行されますことを、心よりお慶び申し上げます。また、井家上会長をはじめ、総明会の皆様方には、日頃より本学に多大なるご理解とご支援を賜っており、厚く御礼申し上げます。

さて、近年の明治高校卒業生の活躍は目を見張るものがあります。顕著な功績を挙げられた明治高校卒業生を表彰する「卒業生顕彰式」にも毎年出席させていただいておりますが、総代や早期卒業生を含む各学部の学業成績優秀者や、公認会計士試験、国家公務員総合職試験など各種難関試験の大学在学中の合格者など、まさに明治大学をリードする存在であります。こうした明治高等学校のプレゼンスの向上は、安藏校長先生をはじめ、永年に亘って教育の質的向上に努めてこられた教職員の皆様のご尽力の賜物であり、また総明会の皆様のご指導とご支援のおかげでございます。

ところで、本年1月17日に、本学はおかげさまで「創立140周年」を迎えました。創立140周年記念事業の一つとして、「初年次教育」、「教養教育」、「国際教育」を展開する“場”の創出を目的とした、和泉新教育棟「和泉ラーニングスクエア」が来年3月に竣工予定です。各種記念事業を支える「創立140周年記念事業募金」に対しまして、昨年11月に総明会から100万円のご寄付を賜りました。学校法人明治大学を代表し、心より御礼申し上げます。

また、本学は本年11月1日開催予定の創立140周年記念式典の場において、第二次長期ビジョン「MEIJI VISION 150 -前へ-」を発表いたします。次の創立150周年、更にその先も、本学が「世界に開かれた大学」そして「世界に発信する大学」として未来に輝き続けていくために、総明会の皆様と共に「前へ！」邁進してまいりたいと存じます。

結びになりますが、1日も早く新型コロナウイルスが終息し、皆様と紫紺の旗の下に再び集う日が来ることを願うとともに、総明会のますますのご発展と会員各位のご健勝をご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

明治大学付属明治高等学校・中学校

校長

安藏 伸治



コロナ禍の日々

2020年の年明けから、新型コロナウイルス感染症が国内でも広がり、3月初旬から全国の小中高の一斉休校が文部科学省から通達されました。

皆さんの母校明治高校・中学も6月初旬まで教室での授業はできず、学校のホームページや緊急連絡網システム、またZoomによるホームルーム、電話での連絡という何とも歯痒い日々を過ごしました。6月2日から出席番号奇数・偶数による分散登校を2週間ほど行い、学校内や教室での消毒、手洗い（男子はなかなか手をあらいません）、ソーシャルディスタンスの確保、教室の換気などの新しい行動基準を徹底し、第3週からやっと全員登校にもどり、いつもの「明大明治」が復活しました。

登校初日の生徒達の満面の笑顔、彼らを迎える教職員の笑顔は忘れられません。ネットやリモートで教育情報の伝達はできますが、やはり教育は同じ時間と空間を共有しながら対面で行うものであるということを再確認いたしました。コロナ禍という異常な環境ではありますが、新しい行動基準を皆が守るということで、校内からの感染クラスターは発生せず、順調に授業や班部活動が進行しております。

こうした災いの中、もし感染拡大が再発し再度の休校要請があっても対応できるように、2000年から明治大学で運用している、「Oh-o! Meijiシステム」という事務連絡のポータル・システムとクラス・ウェブシステムをフル装備で明治高校と明治中学に導入しました。

これにより予習、復習、課題付与、課題の提出、多様なファイルやリンクの提供などが時空を問わず可能となりました。わが国の中等教育では、最高レベルでの情報環境を整備することができました。

コロナ禍は、これまでのコミュニケーションのあり方や行動様式に大きな変容をもたらしました。私達はこれまで大地震や風水害など様々な困難にあつてきましたが、今回のパンデミックは、その対象を目視することができず、知らぬ間に私達の生活を蝕んできました。

しかし、冷静な対応の中で昨年の国内死亡数は例年より9,000名ほど少なく、コロナ対策により肺炎やインフルエンザなどのコロナ以外の感染症死亡数は大きく減少、世界における奇跡を達成しました。いかなる艱難に遭遇しようとも、冷静な判断と行動により、「リカバリー」しながら、「前へ」進んで行こうではありませんか。

Meiji ですから。

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会

総明会会長

井家上 哲史



蓄積の時

会員の皆様そして関係の皆様におかれましては、長引く新型コロナウイルス感染症流行のもといかがお過ごしでしょうか。多大な影響を受けておられる方々には謹んでお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い生活の回復を祈念しております。

さて令和3年の総明会会報および「M」がここに無事届けられますことを広報委員会や幹事学年そして関係の皆様と共に喜びたいと思います。今年の幹事学年は、平成6年卒隆明会の皆さん、「エールーリカバリーだ Meiji!」を活動テーマに挙げ、新型コロナウイルスの影響が長引く中で活動を進めてきました。総明会会報の発行に伴い、寄付広告のお願いを例年の幹事学年は行っているところですが、コロナ禍の昨年に引き続き今年も幹事学年による寄付広告の募集活動を中止して参りました。今年はその補う目的で総明会本部より皆様に幹事学年活動支援をお願いしました。急なまた不躰なお願いにもかかわらず、幹事学年活動支援にご協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

人が集まって行事をすすめるということがやりにくい先のなかなか見えない中で、同窓会の活動が綿々と引き継がれていきます。昨年の幹事学年平成5年卒明鐘会の皆さんは、総会懇親会は中止でしたが会報と就活会を中心に活動されました。

今年の幹事学年隆明会の皆さんは、総明会会報を発行し、就活会を昨年に続きオンラインで実施する計画であり、今年も懇親会は中止ですが、総会を日比谷コンベンションホールにて対面で開催すべく準備しています。

いろいろと制約の多い中でも工夫を凝らして活動を継続していること、これが総明会の今後につながるものと確信しています。

また、このような中でも教職員の皆様と父母の皆様の献身的な努力のおかげで母校生徒は勉学・学校生活が継続されており、今年も生徒の様々な活躍を見聞きしています。

エールを送りましょう。リカバリー、やがて見えてくるこのコロナ禍後の生活とそこでの同窓会活動に向けて、しばらくは経験の蓄積の時です。

CONTENTS

- 01 テーマ「エールーリカバリーだ Meiji !ー」

- 02 特集 エールトピックス① 向殿政男名誉会長
「春の叙勲・瑞宝中綬章」受章
- 04 特集 エールトピックス② 明治が繋いだ神輿と先輩・後輩
- 06 特集 エールトピックス③ OBがコロナ新薬開発中！！

- 09 特集 君にエール 1 隆明会OB紹介 高松市副市長 田村 真一

- 14 総明会会長／明治高校・中学校長 挨拶
- 15 明治大学理事長／明治大学学長 挨拶
- 16 総明会名誉会長 挨拶
- 18 第57回総明会総会のご案内
- 20 総明会 オンライン就活会開催のご案内

- 21 特集 君にエール 2 山田 伸夫先生 インタビュー
- 24 特集 君にエール 3 並木 啓先生 インタビュー
- 30 特集 君にエール 4 栗田 茂先輩 インタビュー
- 32 特集 君にエール 5 オンライン同期会

- 34 2021年度 学校報告
- 36 Pickup Club 地理研究部が「日本地理学会賞」を受賞！
- 38 新型コロナウイルスへの学校での対応について
- 40 新任先生紹介
- 41 班・部活動の記録／資格試験・表彰
- 43 退任先生インタビュー
◎鈴木康巳先生 ◎星野 均先生 ◎則 茂雄先生

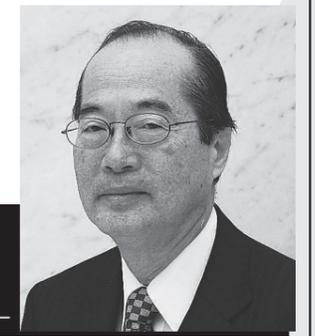
- 48 OB・OG 活動報告

- 62 令和3年度 総明会活動報告
- 68 幹事学年サポート協力金の御礼とご報告
- 69 総明会(明治大学付属明治高等学校同窓会) 会則
- 72 前年度幹事学年挨拶・次年度幹事学年挨拶、本年度幹事学年挨拶
- 73 編集後記

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会

総明会名誉会長

向殿 政男



基本を大事にして
大胆に挑戦を

エールーリカバリーだ Meiji !ー

新型コロナウイルスの世界的な拡大で、私たちの日常が大きくかわり、価値観さえ大きく変わろうとしています。今年の世界経済フォーラム、いわゆるダボス会議での標語が、ザ・グレート・リセット(The Great Reset)でした。社会や経済のシステム、そして働き方や生き方まで全てリセットし、新しく考え直し、作りなおそうという内容と解釈できます。

コロナ禍のため、総明会の活動も大きく制約をされ、ホスト学年はきっと大変な思いをされていると思います。しかし、ピンチはチャンス。こういう時にこそ、思い切って新しいこと、これまで誰もやらなかった新しいことにチャレンジする絶好の機会です。母校明治中学・高校を支援し、卒業生の絆を強くし、皆を楽しくするという総明会の基本理念に基づいていけば、今なら何をやっても、失敗しても、誰も文句はいわないでしょう。それが次なる新しい挑戦を生み、新しい伝統を生み出します。

私は、これからどうなるか分かりませんが、今、大変恵まれた、素晴らしい老後を過ごすことできています。

昭和の戦中生まれが、戦後、平成、令和と無事に生きながらえてこられたのは、丈夫に生んで大事に育ててくれた両親に感謝するとともに、これまでに出逢った人々、特に総明会のような皆様のお陰であると、深く感謝しています。

ところで、これまで出逢った人がすべて、素晴らしい人だったなんていうことは当然、ありません。

必ず、人には良いところと悪いところがあります。昔、総明会顧問の山崎敬生先輩から教えてもらった、「その人の良い面とお付き合いし、お互いに良いところを出し合えば、きっと楽しい人生が送れる」という言葉がありました。まったく、その通りだと思います。ところで、良いところ、悪いところと言いましたが、それは相対的なもので、絶対的なものではありませんし、好き嫌いという主観的な面も大きいと思います。

大事なことは、こちら側の態度であって、基本的には、素直に、謙虚に、お互いを尊重し、学び合うという態度で接することが秘訣のような気がします。この基本精神を大事にして、時代の流れに、また与えられた役割に、自分で言うのもおこがましいのですが、柔軟に、真面目に、良い加減に(?)対応してきました。

振り返ってみると、幸運に恵まれたことも事実です。世の中に正解などない中、基本精神に基づいてそれなりにやってきて、今があると考えています。私の人生には終わりがありますが、総明会の活動には終わりはありません。

活動を引き継いで、次なる世代にバトンを渡してください。コロナの後のニューノーマルの時代に向けて、基本理念を大事にしつつ、グレート(偉大)なりセット(新しい出発)を意識して、活動を引き継いで行かれることを期待しています。



総明会総会開催に際して

第57回総明会総会の開催に先立ち、開催に至りました経緯等についてご報告させていただきます。
 昨年からの世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響はなかなか終息の兆しが見えない状況にあります。昨年は、新型コロナウイルス対応の1年目ということもあり、様々な状況を判断し総会の開催を中止させていただきました。令和3年に入り総明会活動も年初以来評議員会の開催を中止し書面報告書を郵送、理事会もオンラインにて開催、各種行事は中止という状況がありました。

令和3年度の総明会活動では、会務報告・会計報告・監査報告に加え会長副会長の改選という重要な承認事項もあり、併せて2年間にわたり評議員会の開催ができなかったという状況を度重なる理事会で協議、検討を重ねてまいりました。最近ではワクチン接種も広がり世の中的にも感染対策意識、対策が向上してきていることもあり第57回総会は会場での開催ということで準備を進めることといたしました。

今回会場となる日比谷図書館コンベンションホールは、緊急事態宣言下でもコロナ感染対策がしっかりとされた会場としてイベントの開催実績もあります。総明会としても、さらにコロナ感染対策を講じて実施いたしますので開催にご理解を賜りますようお願いいたします。

開催に際しましては、総明会独自の感染防止対策として事前予約制、出席人数の縮小といった制約も設けさせていただくことにはなりますが、現時点で万全の対策を講じての総会開催ということをご理解いただきますようお願いいたします。また、会場においでいただけない会員の皆様向けに総会の模様は当日ライブ配信させていただきますのでぜひご参加いただけますようお願いいたします。また、総会終了後約1ヶ月間は前頁のQRコードからもご覧いただくことが可能です。

以上、ご理解をいただき第57回総明会総会にご出席・ご参加いただきますようお願い申し上げます。



第57回『総明会』総会のご案内

2021年(令和3年)11月14日(日)

千代田区立日比谷図書文化館内

日比谷コンベンションホール(大ホール)

第56回総明会総会は、昨今のコロナ禍の状況を鑑み中止とさせていただきますが、今年度は安全安心に感染対策をしっかり講じて下記の通り実施することといたしました。

《 当日は総会のみ開催となり、懇親会は開催しません(会費無料)。 》
 《 「事前申し込み」をいただいた方のみ入場となりますのでご注意ください。 》

日時：2021年11月14日(日)

総会 15:00~16:00 (受付 14:30~)

場所：千代田区立日比谷図書文化館内
 日比谷コンベンションホール(大ホール)

東京都千代田区日比谷公園1-4
 TEL.03-3502-3340(代表)

今年はライブ配信でも、総会の様子を閲覧することが可能です。
 当日15時から配信致しますので、下記からアクセスしてください。

■視聴用のURL
<https://youtu.be/6zn8AI-7LVQ>

※QRコードをスマートフォンやタブレットで読み込んでいただきますと、視聴サイト(YouTube)へ飛ぶことが可能です。

※チャット機能や議決への参加は出来ませんので、予めご了承下さい。

※総会終了後約1ヶ月間はご覧いただくことが可能です。



- ◎東京メトロ 丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩約3分
- ◎都営地下鉄 三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分
- ◎JR 新橋駅 日比谷口より徒歩約10分
- ※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

総会開催にあたっての当日の注意事項

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、次の事項にご協力をお願いいたします。

- ◎日比谷図書文化館からのお願い事項
 マスクの着用、手指の消毒・手洗い、ご利用者同士の間隔を十分に開けてご利用をお願いいたします。また、ご入館の際には、職員による検温と入館票のご記入にご協力ください。なお、次の場合はご利用を控えていただくようお願いいたします。
 - 37.5度以上の発熱があった場合
 - 平熱比+1度を超過した場合
 - 息苦しさ(呼吸困難)や強いだるさがある場合
 - 軽度であっても咳や咽頭痛などの症状がある場合
 - 過去14日以内に感染拡大している地域や国への渡航歴がある場合
- ◎事前申し込みの方法について(申込期限：2021年10月28日まで)
 事前にお申し込みをいただいた方のみ入場となりますのでご注意ください。お申込みは、会報と一緒に同封された「ハガキ」でのお申し込みと、「総明会ホームページ」のフォームからのお申し込みとなります。

総会事前申込： <http://www.meiji-soumeikai.com/entry/>
 申込期限は2021年10月28日までとなっておりますので、期限までにお申し込みをお願い致します。

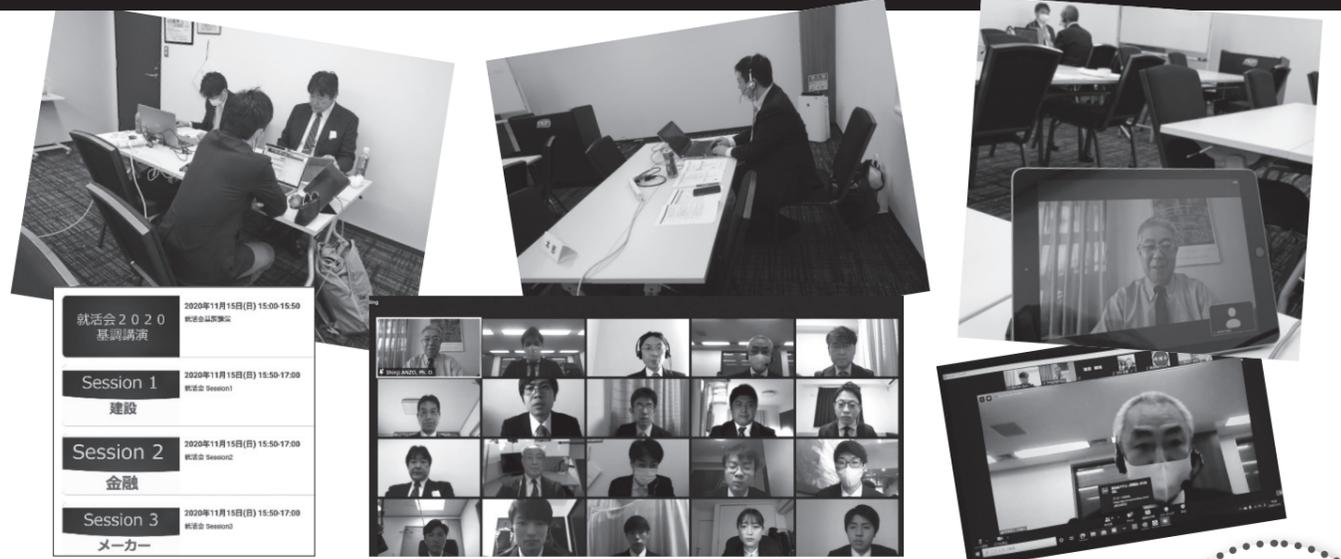
※新型コロナウイルス感染状況や会場の都合でやむを得ず中止になる場合があります。その場合は出席のお申込みをいただいた方に連絡させていただきます。また、席数は十分にご用意していますが、参加希望者多数の場合は調整させていただくこともございますのでご了承の程、お願い申し上げます。

- ◎飲料の用意はございませんのであらかじめご了承ください。
- ◎来場当日はご自宅を出る前に必ず、検温をお願いいたします。
 ※日比谷図書文化館からの発熱に関するお願い事項に該当する方は、参加をご遠慮下さい。
- ◎当日は、万が一に備え追跡調査ができるようにいたします。受付の際に、ご連絡先(携帯電話番号等)をご記入いただき、着席場所を指定させていただきます。
- ◎当日は感染防止のため、館内での写真撮影はご遠慮いただきます。なお、係りの者が記録用の撮影をさせていただきます事をご了承ください。
- ◎会場へは、掲載の地図を参照の上、お越しください。日比谷公園内の判りやすい場所になりますので、今回は会場案内の準備は最小限とさせていただきます。建物周辺のみのご案内とさせていただきます。
- ◎当日ならびに本件でのご連絡先
 総明会 事務局長 土田 正昭
 TEL.090-4928-9701 E-mail toei@beach.ocn.ne.jp

第五十七回総明会総会次第(案)

- 一、開会の辞
- 二、会長挨拶
- 三、議長選出
- 四、書記選出
- 五、議事
 - 会務報告と事業予定について
 - 会計報告と予算承認について
 - 監査報告について
 - 会長及び副会長選任
 - その他
- 六、閉会の辞

大好評であったこの企画、今年もパワーアップしてやります！



先着
100名
限定

就職への近道は総明会オンライン就活会！ ～就活生のための有名企業OB・OG紹介～

- コロナ禍でも前へ、道を切り開く！
- WEB面接など実践的なセンパイ体験談&座談会
- 今、ここからチャンスを広げよう

オンライン開催

参加無料

多種多様な業界が集合 【IT・建設・金融・メーカー等（昨年実績）】

令和3年11月28日(日)15時～17時30分

詳細内容や申込は、
こちらへアクセス！



- ① 明治高校OB・OGであれば、大学1年生から参加頂けます！
 - ② 事前に上記サイトよりID登録、予約をしてください。後日、ZOOMリンクをお送りいたします。
 - ③ 就活会の詳細などは上記リンクや「Oh-o!Meiji」、総明会ホームページをご参照ください。
- ※ご不明点、申込ができないなどありましたら、下記（総明会組織委員会）までお問い合わせください。
meiji_someikai_soshiki@gmail.com

明治高校OB・OGが全力で応援します！お気軽にご参加ください！

特集 君にエール 2

山田 伸夫先生 インタビュー



皆様ご存じの山田伸夫大先生に、我々総明会の代表が、突撃取材を試みました。

6年間通して数学を見ていただいた山田チルドレン3名によるインタビューは2時間にもわたりました。当然山田節がさく裂。これをどこまで紙面に残すことができるのか、編集部は大いに苦労いたしました！

先生、お元気そうで何よりです。
山田先生 トシオさんはお元気ですか？

トシオって私の親父の名前ですけど、なんで覚えてらっしゃるんですか。
山田先生 お母様はマユミさんでしたか。

マユミです(笑)すごいですね。
山田先生 君のお父様はマサキさんで、君

のお父様はノボルさんでしたよね。

一本当にすごいですね。僕たちのことだけじゃなくて、親の名前まで覚えてくれていてるなんて。

さて、それは始めさせていたいただいてよろしいでしょうか。いくつか質問を考えてきました。昭和48年にご着任されましたが、数学の教師になろうとお考えになったきっかけは何か、着任当初のお話を聞かせてください。

山田先生 学校を出てすぐに教員になったわけではなく、事務機のPLUSという会社に3年間勤めていました。

もう結婚はしていて、子どももいたんだけど、色々と将来のことも考えて、教員になろうと思ったんです。大学の時には工業の教員

免状を取っていて、まず関東商工(今の関東一高)から就職内定をもらいました。教員になろうと思った理由には、父親の影響もありました。話をすると少々長くなりますが、人の縁というものは年を増すごとに不思議な繋がりがあるものと改めて認識いたしました。

その一つとして、私の父、故山田市郎は、旧明治中学校第9回生として卒業(大正14年3月)し、物理学校(今の東京理科大学)へ進学。卒業後、旧明治中学校の教員、その後明治大学教授を経て、昭和37年都立葛飾商業高等学校を設立開校し、初代校長を務めました。この新設校で教員の第歩を踏み出されたのが、平成6年4月から平成10年3月までの4年間、明治高校・中学校の校長であられた石崎章生先生でした。その後時は経過いたしますが、最近知り得たのが、昭和54年卒「明誠会」の昼間一雄氏が、葛飾商業高等学校の校長であるとの事で、さっそく訪問し、写真を撮らせていただきました。創設3年目(昭和40年)に訪問して以来、実に56年ぶりに校舎等拝見させていた



都立葛飾商業高校にて、山田先生とその教え子であり現校長の昼間一雄氏(昭和54年卒明誠会)

いただきましたが、最先端の施設等が整い素晴らしいと感じました。

それはとても奇遇なことですね。
山田先生 そんな父親の影響もあって数学の教師になろうと思っ、事務機のPLUSを退社、関東商工もお断りして、数学の免状を取りに、また大学へ通いました。1年で30単位くらい取り、数学の教員免許状を取ったのです。

工業の免状は教育実習無しで取れたんですけど、数学は実習の単位が必要ということになって、明治高校同窓会(総明会)と命名される14年前)に出席した父が、故西山茂先生に、「息子の教育実習をさせてもらえないか」と相談した結果、快く引き受けてくださり、翌年春に「明々会」の諸君が中学3年生の時、実習生として教壇に立たせて頂きました。当時は退職教員がいなくて採用がなかったのですが、故藤森清茂先生が定年を迎えられ、採用試験を行うので受験をさせてどうかとの誘いがあり、縁あって合格させて頂き、翌年(昭和48年)4月より教員になったのです。



都立葛飾商業高等学校 初代校長 山田市郎先生



私が所属していた應援指導班の顧問としても、山田先生には大変お世話になりました。

山田先生 應援團の顧問になったのは、故福島則雄先生が校長だったんですけど、校長室に突然呼ばれて、「君に應援團の顧問をやってほしい」と頼まれたんです。当時は故村田輝雄先生が顧問でしたので、昭和48年は副顧問をやり、49年から、應援團の顧問になりました。

応援團には定年まで関わらせていただいて、定年2年前から飯塚先生に顧問をお願いして、私は副顧問をやりました。

共学化や移転についても大変な紆余曲折があったと思うのですが。

山田先生 それはもう、いろいろありました。当時はほとんどの明高中教員は移転に

育観の根元は不変です。本校は私学なので、それだけの覚悟を持って明高中の教員にさせていたのですから。血と涙と汗を共に流すんです。それは親も含めてです。それができないのは教員ではない。私から言わせたら、悲しい出来事なんて、教育やっていたらいくらかもあるんですよ。その悲しい涙をね、嬉しい涙にどのように変えていくかが、我々の度量なんです。

素晴らしい先生に学ぶことが出来て、我々は感謝しています。仲間も素晴らしいですし、こんな学校ないですよ。

山田先生 今、コロナの影響でリモートの授業も増えて来ますよね。この先さらに進んで、AIが授業をするようになったら、学校の存在ってなんなのかなって。学校の存在ってのは、血と血が通う人間同士だから、失敗もあり、涙もあり、笑いもあるような、人と人とのぶつかり合いが、学校の存在価値だと私は思うんです。現段階でのAIでは血と涙と汗は共有できないですね。

— そのようなお考えをお持ちだから、みんな山田先生が大好きなんですよね。先生の熱い思いを、我々はエールとして受け取らせていただきました！本当に良いお話を頂きありがとうございます。

※尚、山田伸夫先生は、調布校舎移転時に高校へ入学した生徒（共学）が卒業した年（2011年3月）に65歳で定年退職されました。

反対だったのです。でも大学の理事会（評議員会）で移転が決定した以上、より良い教育現場を創造して行くのが必要です。近隣住民の説明会や行政との打ち合わせ等、授業に穴をあけない範囲で、かなりの回数、猿楽町から出向いたのを覚えています。

— ご苦労が多々お有りだったことと拝察申し上げます。本当にお疲れ様でした。さて、次の質問に移らせていただきます。我々隆明会の学年は6年間あるいは3年間ご指導を頂きましたが、何か思い出などありましたら教えてくださいませんか。

山田先生 隆明会の皆様が小学校6年生の時に、中学教務主任、中学校3年生の時は高校教務主任をしており、学校説明会からのお付き合いになりますね。高校3年生の時は、学年主任として大学推薦にも携わることができ、とても光栄でした。

— 隆明会学年一同、山田先生には本当に感謝しております。時間も押してまいりましたので、次の質問です。山田先生には隆明会の名付けをしていただきました。命名に込められた思いをお伺いしたいです。

山田先生 明治高等学校中学校があるから、総明会がある。明治高等学校中学校及び総明会がますます隆盛を極めるよう、さらに君たちの会もそれと共に隆盛な会となるようにと、それを願って名付けさせていただきました。

— 本当に良い名を付けて頂き、ありがと

うございます。それでは締めくくりに、卒業生や在校生へのメッセージとエールをお願いいたします。

山田先生 ご存じの通り我が明高中は私学です。生徒があつて、我々がある。

公立は金（経営）の心配をしなくていいんです。明治も経営的には現在のところは恵まれてはいるけれど、実際、生徒やその親御さんは、公立よりも高い金を払って、明治を選んできてくれているのです。

だから生徒や保護者に対して、失礼なことがあつてはいけません。大切な生徒たちはね、それぞれの家庭に帰ったら、宝物なんです。特に今は少子化の世の中。そういう宝を預かっている以上、



決して心や身体に傷つけたりすることがあつてはならないと思うんです。

— はい。

山田先生（言葉をつつ慎重に選びながら）例えばね、校則違反をしても、程度にもよるが、二度の失敗で処分するのが教育目的ではないのです。

万が校則を違反するようなことがあつたら、我々教員の指導がいけないこともあるわけです。それを保護者とか、生徒のせいにする風潮がある。まず、指導している我々が、きちんとした指導ができなかったことに起因しているんだと自省する姿勢が必要なんです。夢や希望を胸に抱いて入学してきた生徒、保護者を悲しませることは許されないうです。もつと教員は襟を正し、自らに厳しい姿勢を持って、教養育み共に学ぶのが教育だと思えます。

— 私は先生に本当に感謝をしています。先生から愛情を常に感じておりますし、尊敬しています。

— さっきお見せできなかったのですけれども、先生が昭和48年になされた新任の挨拶が、ヤマダ大感謝祭で発行されたDVDに残っております。そこで、今のお話その通りのことを、同じようにおっしゃっておられたんですよ。ずっと変わってなかったということですね。

山田先生 教師の発する言葉や行動は保護者や生徒から見れば学校の教育方針そのものなんです。教師の無責任な言動や考え方は許されません。従って、私の教



私も身体を張って
全力で取り組みます。
血と涙と汗が
通じ合える深い付き合いが
できるよう
よろしくお願いたします。
昭和48年4月
数学科教諭（新任）
山田 伸夫





然にやって来る。体力もさることながら、認知能力も最近では危ない。生徒の名前も満足に覚えられない。ましてや今はコロナの不安もある。

大きな仕事をいくつこなし、今は担任や時に学年主任などを時々受け持たせて頂くことはあるが、少しのんびりとさせてもらっている。私のような教員をまだ雇ってくれる明治高校は本当にありがたいと思う。あと何年働けるか分からないが、妻君の「もっと働け」という号令に逆らうことは、私にはもう一つの死活問題となる。

日本は「息苦しい」

ここ数年は、よく海外に旅行をする。今はさすがにどこにも行けないが、それまでは毎年暇ができれば海外へ出かけた。年に3回という年もあった。お金はかかるが、本当に楽しいのだ。美しいところは日本にもたくさんあるが、海外に出ないと分からないことは数え切れない。あらためて世界の文化や思考の多様性に驚かされたし、自分の視野の狭さに恥ずかしくなる。妻からは「海外の方があなたは生き生きしている」とよく言われる。遣伝子が日本人ではないのかも知れない。日本にいると知らないうちに「同調圧力」にうなされてしまっているのだらう。そう、簡単に言うけど日本は私には「息苦しい」のだ。

ビールが嫌いというドイツ人

きっかけは2010年の長期にわたる海外研修だ。カナダで過ごした8ヶ月間で、様々な国の若者と出会うこととなった。ほとんどが20代の留学生だが、50才を過ぎた私にも同じ生徒として対等に付き合ってくれた。ビールが嫌いというドイツ人やサッカーに興味のないブラジル人もいた。先入観を持って接してはいけない、とつくづく思った。私自身もカナダ人の先生にテレビが壊れたから直して、と頼まれたことがあった。びつくりして理由を聞いてみると「日本のテレビだし、あなたは日本人でしょ」ということだった。固定観念とは恐ろしいものだ。語り切れないほどの思い出が、今でもFacebookを通じ彼らとは細々だが交流している。

学校での教え方の違いも自分のスキル向上に大いに役立った。特にCooperative Learning(協同学習)という教え方は面白い教育法だ。今でこそようやく日本でも持て囃されるようになったが、カナダでは常識的な教え方だ。ご存知の方も多いと思うが、カナダはオランダに次いで世界で二番目に同性婚が認められた国だ。LGBTの権利は当然で、人権が何より重視されている。また、この国ではマリファナや売春は違法ではない。一方、公園など公共の場での飲酒は禁じられている。とにかく、カナダで過ごすことは、目を開かされる経験の連続だった。

② 移転奮闘記(取り組み)明治のどん底

通知表の数字が全てではない。勉強の中身が大切なのは当然だ。ただし、数字を無視することはできない。学校の偏差値もとは、積極的に評価してくれるのだ。そのことを痛切に感じた。

男女共学

移転が近づくと、教育はどう変わるのか、という質問が増えてきた。何のために移転するのか、単に新校舎を作るだけでは今の保護者は納得しない。実際、未決定のことばかりで、何を伝えていいのか分からない時期が続いた。そんな中、男女共学になるのが当時の最大の関心事となった。早稲田実業の次は明大明治ではないか。そんな憶測が流れていた。移転推進委員会でも、男女共学が大きな議題となった。

クラス規模も少人数の方が良いに決まっている。高校40名、中学35名という現在の規模は、比較的すぐに決まった。ただし、男女共学となるとノウハウがない本校では、反対意見も少なくない。男女共学にすべきか、我が生徒募集分科会に意見を求められた。マーケティングを考えると、他に選択肢はないと思っていた。最終決断を職員会議に求めることとなった。意外な結論が待っていた。男女共学賛成派が、条件付きを含め3分の2を占めたのだ。生徒は男子のみ、教員も大多数を男性が占める学校が、男女共学に向けて動き出した。個人的な見解だが、当時の本校を取り巻く厳しい環境が、教員の危機意識に繋がった結果と言えるのではないだろうか。

大爆発の前に

2008年入試はまさに大爆発だった。高校一般入試では1206名の出願者が

それと似ていると思う。教育の全てを語っているわけではないが、競争の中にある私学である以上、こたわりは必要だと思う。移転前の数年は、本校にとって厳しい通知表であった。一時期、四谷大塚の80偏差値が54になった。これは偏差値が54の受験生が受けた場合、約8割が合格するということだ。男子60、女子63の現在の偏差値と比べると、まさにどん底だった。

調布移転が決まった2001年当時、私は高校の教務主任を担当していた。驚くべきことに当時「広報」という分掌は本校にはなかった。移転には広報活動は必須であるのに。常日頃、学校広報の重要性を訴えていた私は、翌年初代広報主任にコンパイトされるとともに移転推進委員会で生徒募集分科会を任されることとなった。本校の命運がかかる、まさに重職だった。

逆風の中で

当時本校は「学校案内」(パンフレット)すらなく、学校説明会もビデオを流す以外工夫と言えるものはほとんどなかった。まさに「明治大学」の名前で食べていたと言っただけ。当然、偏差値は下がり始めていた。追い討ちをかけるように、「付属は努力しない」というアンチ大学付属校の動きが業界に吹き始め、都立高校では進学重点校を指定して私学に宣戦布告をしてきた。さらに悪いことに移転すると、マーケティングが急激に小さくなる。日能研の調査によると、1時間通学圏の受験生は4分の1になるのだ。ましてや、ある一時期、生徒は調布とお茶の水の両方に通う必要がある。説明会

集まり、実質倍率は4倍を超えた。中学入試でも2回合計で1813名、翌年はさらに増加し1971名となった。旧校舎では収容し切れず明治大学の施設をお借りすることとなる。しかし、その前兆は2007年の学校説明会にあった。その日は、初めて調布で実施した説明会だった。新校舎は未完成だったが、校舎周辺を見学できる企画を作った。これが予想外の大反響となる。1300人収容の調布グリーンホールまでの行列は延々調布駅まで繋がり、あつという間に満員となり、入り切らなかつた方はロビーで中の声だけを聞くこととなる。想定外の人数で、開始時間も大幅に遅れることとなった。御茶の水では1200名収容のアカデミーホールを使用することが多かったが、それでも席にゆとりがあることが多かった。午後の説明会では学校案内パンフレットが不足し、ひたすら謝り続けることとなる。この経験を機に、本校の学校説明会は「予約制」となった。

初代女子生徒会長

中学の学校説明会の来場者は大半が母親だが、説明会でいつも最前列のあたりに座る父親の姿があった。私の説明をうなずきながら聞いてくださり、私も次第に顔を覚えてしまった。中学入試2日目のこと、そのお父様が私のところに来た。困った顔で「私の娘をジロジロ見る先生がいて、初日の試験では結果が出せなかつた。あまり見ないでほしい。」とのことだった。お嬢様は短い髪形で男の子によく間違えられるそう。なるほど、女子の教室に男子がいる

も閑古鳥が鳴き始めた。約3時間の合同相談会のブースにお客さんが1名しか来ない日もあった。絶望感の中の出発だった。まず「学校案内」や学校説明会用のパワーポイントを作るところから始め、説明会は大小合わせ年間30回以上となった。続いて「オープンキャンパス」「夏休み学校体験」「親子見学会」「文化祭」「説明会」など学校を知って頂く機会をとにかくたくさん用意した。「入試対策説明会」では受験生の入試対策をサポートした。ポスター作り、塾教員対象の説明会など、塾対策も始めた。質問がある方には、メールを通じて返答した。年末には受験生応援のDMを送付した。とにかく、やれることはやろう、という方針だ。

売りは生徒

本校の売りは何か。やはりそれは「生徒」である。紫紺祭に訪れた受験生や保護者の多くは、本校の虜になる。この活気、生徒たちの熱意に感動するのだ。「第一志望は早稲田だが、学校としては明治の方が好きだ」と、ある受験生の保護者から言われたことを思い出す。

学校説明会でも生徒を前面に出そう、そう考えた。「生徒インタビュー」「卒業生スピーチ」なども企画した。入試対策説明会では、保護者の受験体験記も用意した。いずれの企画も説明会後のアンケートで大きな支持を得た。オープンキャンパスも受験生を実際に生徒と共にクラブ活動に参加させ、中1の生徒と話す機会も用意した。



新しい風 次第にはあるが、本校が変わりつつあるのを評価する空気が出始めた。受験誌が本校を取り上げる回数も増え始めた。常にサポートしてくださる先生方がいた。関根先生、斎藤先生、山口先生など。また、事務室の支援も忘れられない。彼らの献身的なサポートがなければ、これらの取り組みは実現しなかつた。本当に感謝している。

入試改革も同時並行で行なった。中学は2月2日、3日の2回入試を実施、高校入試日を2月13日から12日に移動した。高校推薦入試もスタートさせた。とにかく良い生徒が入学してほしい。いい結果が欲しかった。入試日設定は学校にとって最重要事項だ。ベストポジションを取ることで、学力的に高く、志望の強い生徒を獲得できるからだ。おかげさまで、偏差値も下げ止まり、上昇の兆しを見せ始めることになる。移転直前2007年のことだったと思う。学校は変化を好まない場所だ。しかし、世間の見方は違う。新しく変わろうとするこ



と試験監督者が勘違いしたのだろう。共学になる前に経験する最初のトラブルだった。実は、その女子が後に本校初の女子生徒会長Aさんだった。

Aさんの活躍は入学後直ぐに始まった。「明治を変えるために入学した」と学校紹介ビデオのインタビューで答えてくれた。林間学校、修学旅行など行事の度にリーダーシップを発揮した。人前で話す時も、堂々として内容も素晴らしい。はっきり言って教員以上の存在感だ。後に校長になられた政治経済学部の金子先生は、「彼女がスピーチすると俺のスピーチの印象が薄くなる」と言われたのを覚えている。金子先生のスピーチも大変素晴らしいのだが。創立100周年記念式典の時も、彼女が生徒代表でスピーチした。来賓の大学の先生方も、「金子さんのスピーチが震んだ」とその迫力を舌を巻いていた。

③100周年記念奮闘記(取り組み) 神の思召し

2010年カナダの海外研修を終えると、その金子先生から中学教頭を拜命、と

Zoomホームルーム

授業の遅れをどうするか。私は学校のホームページに定期的に課題を載せた。Zoomを使った問題解説や、質問を受ける教員、YouTubeを活用する教員もいた。ネット環境が公平ではないとの理由から、これらは正式な授業とはしない方針が示された。そして、学校再開が少しずつ見えてきた。

生徒たちを学校に戻すには、新たな生活習慣を身に付けさせる必要がある。そこで、教員生活初めてのZoomによるホームルームを実施することとなる。職員会議はZoomで行われていたが、あくまで参加者としての立場だ。今度は自らがホストになるので、「慣れ」が必要となる。何台かのパソコンとタブレット、スマートフォンで「実験」を自宅で繰り返した。

ようやくオンライン上ではあるが、高校2年C組の生徒と会うことができた。最初は事務連絡と点呼だけ。続いて生徒の自己紹介などを行った。幸い、寝坊する生徒もほとんどいなかった。ただし、家のネット環境はそれぞれだ。途中で接続が切れてしまう生徒もいた。公平に行うのは難しい、というのが率直な感想だった。

分散登校

ついに2週間の分散登校が始まった。生徒は出席番号の奇数と偶数で分けられた。窓開け換気、手洗い、マスク着用、社会的距離の確保など新しい行動様式を指導する必要がある。こちらの心配をよそに、生徒

同時に創立100周年事業の委員を命じられる。とにかく留学制度と英語教育の整備をしてほしいということだった。その矢先、2011年3月11日、東日本大震災が襲ってきた。スケジュールの見直しを迫られ、出鼻を挫かれた思いだった。

100周年事業では、留学先をイギリスからカナダ・バンクーバーに変更、費用削減のためプログラム内容の改良に取り組んだ。私のカナダでの経験がこんなに直ぐに活かされるとは、神の思召ししかと思つた。また、記念イベントとして「スピーチコンテスト」と「イングリッシュ・プレゼンテーション」の素案作りに取り掛かることとなる。

記念イベントの準備がある程度整うと、金子先生から「上向いてきた生徒の英語力を確かなものにしてほしい」との要望があった。当時、生徒の英語力は担当者の力量によるところが大きく、大学から安定した評価を受けていなかった。まさに、本校の弱点を金子先生は見抜いていた。そこで、最低限教えるべき「ミニマム・スタンダード」の素案を作成した。と同時に、実用英語技能検定を推薦基準とする案を作成し、英語科の了解を取り付け、反対意見もあつたが職員会議で承認されることとなる。

学校は戦っている

広報主任は学校の顔だと思ふ。受験生、保護者、塾業界などの直接の窓口になる。7年間の広報活動を通じ、日能研、四谷大塚など大手塾のトップの方々と親交を深めたり、他の私学の先生方とも面識を持つこ

は再び出会えた喜びから抱き合い、歓声をあげる。こんなことで本当に大丈夫か、やっぱりこうなってしまうのか、社会的距離の確保は学校では正直難しい。検温等の健康チェック、手洗いチェックなどこちらの業務も増えていく。生徒が帰った後は、教室の消毒作業を黙々と行った。高校は7クラス、分散登校だと、同じ授業を14回繰り返すこととなる。ストレスが溜まる日々が続く。

困ったこと

一斉授業が再開されたが、生徒は声を出さずに英語を学べるのか。授業スタイルの変更を余儀なくされた。音読の代わりに、書き取り練習(Dictation)を実施した。ペーパーワークは短い時間にして、プリントを使った読解の授業とした。マスクで声が通らないことが懸念された。すぐにAmazonでワイヤレス・マイクを購入した。テクノロジに助けられた。喉を痛めずに授業を行うことができた。

一番困ったこと、それは生徒の名前が覚えられないことかもしれない。ただでさえ記憶力が弱っている。特に女子。マスクをしているので、髪型も目も似ていると見分けがつかない。結局、自分のクラスは別としてほとんどの女子生徒の名前が分らずじまいだった。

通常、1学期は7月20日に終わるが、休校を補うため約20日間延長された。2学期のスタートも約10日間早まった。結局、夏休みは2週間となった。保護者会も三者面談もZoomが中心となった。

となった。7年間の広報での経験で一番学んだことは「学校、特に私学は争っていない」ということだ。いい生徒が欲しいのは、どの学校も同じ。開成は麻布と争っている。桜蔭と女子学院は校風こそ真逆だが、受験生の取り合いをしている。付属校は付属校で争っている。学校の内側だけで過ごしているとおそろくわからないだろう。

また、普通なら接する機会がなかったであろう、校長先生と腹を割つての話し合いの時間を持つことができたのも忘れ難い。明治大学総長の栗田健先生、法科大学院教授の吉田善明先生、初の民間人校長の小林正三郎先生など移転前は錚々たる先生方だった。それぞれに个性的で、経歴も異なり大変勉強になった。100周年記念事業でお世話になった金子光男校長は、大学の重鎮と言われるだけあって、その政治力、発言力は抜群で当時の学長を黙らせるほどであった。我々教員にストーリーを提示し、目を開かせていただいた。このような素晴らしい先生方にお会いできる機会を持てたことを本当に感謝している。

④コロナ禍の明治 救世主

2020年はオリンピックの年。エキサイティングでドラマチックな年になるはずだった。3月から2ヶ月以上にわたる「休校」となり、毎日がSF映画のような日々が始まった。

2年ぶりの担任となった。こんな高齢者を使うのだから、明治はやはり人手不足なのか。それにコロナのパンデミックで不安がさらにつる。でも、不思議と私はこんな

修学旅行の中止

幸い、紫紺祭は中止にならなかったが、生徒のみの参加、中学生は午前中のみ、高校生も1日だけという制限が付いた。それでも中止を決める学校が多い中、少しでも出来たのは生徒にとって不幸中の幸いだった。中学の体育祭も実施されたが、他の多くの行事、球技大会、修学旅行などは中止となった。「学校行事」のない学校は本当に辛いものがある。勉強と僅かな部活動のみの生活が続いた。

私にとって一番辛かったのは、「修学旅行」の中止を伝えるときだった。何と言えど、前夜の晩はよく眠れなかった。生徒は表面上冷静に受け止めていた。誰も文句や愚痴を言わない。そのことが逆に私には堪えた。一生に一度の思い出作りの場が失われたのだ。「次に旅行するときのためにお金を貯金して、もっと遠くに行つてほしい」と伝えるのが私の精一杯の言葉だった。何の慰めにもならないのは分かっていたが。

それにしても生徒はよく耐えたと思ふ。精神的ストレスがイジメや喧嘩を生むことがままあるが、そのような事件はほとんど起きなかった。明治では幸運にも感染が広がることはなかった。今も昔も変わらないことだが、「やるべきはやる」のが明高・明中生の良いところだと思う。

⑤クラブ活動の現況 躍進する映画部

マンドリン部、将棋部、硬式テニス部、ソフトテニス部など顧問または副顧問として部活動のお手伝いをしてきた。そんな中、

な時でも運がいい。新人の釣部先生が副担任だったからだ。偶然にも同じ慶應義塾大出身の先生は実に気が回る。嫌がらず(本当は嫌がっていたのかもしれないが)に私の仕事を助けてくれる。新人の頃の自分とは違い、好青年なのだ。力仕事でもパソコン作業でも何度助けていただいたらうか。もし彼が副担任でなかったら、学期途中で力尽きていたことだろう。本当に感謝している。

最初の仕事

学校の代表者でもない私が事の詳細を説明するのは違和感を感じると思ふが、一教員の率直な感想を述べてみたい。まず、この時期に運営側の教員でなくて本当に良かったと思つた。先が読めない状況、一体このあとどうなるのかという不安。失われていく授業、次々に中止になる行事。大学推薦はどうなるのか。部活動は再開できるのか。そもそもどうやって生徒を感染から守るのか。次から次に出される難題を解決しなければならぬ。一般の会社同様、学校も混乱を極めた。商売をされている方は倒産の危機すら感じたのではないだろうか。

本校に赴任して38年、こんなに長い期間授業も部活動もなかったことは、初めての出来事だ。まず、教科書や副教材を生徒の手に届けなければならぬ。私たちの最初の仕事は、教材やプリントを梱包し各家庭に送る事だった。副担任の釣部先生は、私と同様新卒採用の教諭だった。先生は心ときめかけて就職したことだろう。最初の仕事「梱包」とは、本当に気の毒だ。

在職中のほとんどの期間を映画部(旧映画技術研究部)の顧問をさせていただいた。「降明会」の広報委員を務めている大島くんも当時は部長として面白い作品を残してくれた。日光の川でロケ撮影をしたり、「笑点」のパロディを作ったり、作品の質を高めてくれた。後に漫画家の道に進んだ豊村くんも当時の部員だった。

調布移転後に活躍したP君も忘れられない部員であった。アナログからデジタルに移ったときだった。当時、映画部員は実質2名。しかし、次々に彼は作品を発表した。「駿河台の最期」は、駿河台校舎へのオマージュ的作品で、紫紺祭で公開された時は衝撃的反響だった。観に来られたOBの中には、涙ぐむ方もいた。クチコミでこの映画の噂は広がり、文化祭の注目の的となった。環境問題を扱った「プラスティック・ダイ・ハード」は映画甲子園の銀賞を受賞、「覚めたくない夢」は調布市の高校生フィルムコンテストで最優秀作品賞





を獲得する。彼は力量を買われ、後に創立100周年記念のオープニング映像を担当することとなる。

今や映画部は30名を超える大所帯となった。部員数だけではなく実績も残せるようになった。19年には女子部員3名で作った「君との音色」が調布市の高校生フィルムコンテストで最優秀作品賞と演技賞をダブル受賞、20年には芸術性の高い「青」が映画甲子園で優秀監督賞を獲得した。機材の進歩とともに、波連君、小林君という2名のコーチの技術指導のおかげである。休校中もオンラインで部活動を続け、部員のモチベーションを高めてくれた。女子部員も増え、約半数が女子になった。

⑥「隆明会」学年の思い出 男子だけの世界

駿河台校舎で過ごした26年間。その中でとりわけ忘れられない学年は平成6年卒

「隆明会」の皆さんと言ってよい。担任として、6年間持ち上がった学年は後にも先にも他にない。同じ時間を過ごさせていたいた方は偉大なヤマダ先生だった。小西先生、尾崎先生、栗野先生も一緒に過ごさせていただいた。とにかく、男子だけの世界である。今では考えられないが、1クラスも50名近かった。しかも、教室や校舎は調布校舎よりはるかに小さい。

その分生徒たちとの距離も近く、過ごした時間の密度は濃かった。クラスで映画を見に行き、その後食事を共にしたことも多い思い出だ。体育祭、紫紺祭の学年展示も思い出深い。旅行行事も毎年、企画されていた。生徒の喫煙が見つかったこともあった。九州の修学旅行では阿蘇山の雄大さに感動し、長崎の平和学習では涙した。飛行機は使わず、新幹線で博多まで移動したのも今では考えられない。最後の体育祭ではクラス対抗リレーで見事優勝し、生徒から胴上げをされたのも、昨日のこのように脳裏に焼きついている。本当に楽しかった。そう言えば、体育祭はつじけ丘グラウンドで行われ、「高一草取り」という行事まであったのではないかな。

教員の力は、偉い

英語の授業のことを覚えていきますか。当時はカセットテープが主流の時代、文法や読解に偏った授業だった。ネイティブスピーカーの先生もいないし、留学制度もなかった。生きた英語に触れる機会は、LL教室で映画を見る時くらい。冷房施設も完備されてなく、暑い日は数少ないエアコン

の全盛期といえると思います。

以前は、他の部活を経由して高学年になってから入部する生徒が多かったのですが、今では中1から入部する生徒が増えています。なかには「映画部があるから明治中学を志望した」という生徒までいます。やはりYouTubeの影響は大きいですね。動画を見ること・作ることが身近になり、関心も高まっていて将来はYouTubeになりたいという生徒もいます。

校内のさまざまなタイプの生徒が入部してくるようになり、他の先生からも「自由な雰囲気や間口の広い部活」として認識してもらっているようです。合宿の伝統は今も続いていて、いつもと違った場所に部員が集まることで、作品を集中的に制作しています。

◆映画部の昔

大島 当時は8ミリフィルムでの撮影で、3、4分を撮るのに現像代まで含め2〜3000円はかかっていたと記憶しています。苦勞して撮影したもの、露出をミスして何も映っていないこともたびたびありました。高校生向けの作品発表の場がほとんどなかったので、一般向けに伊丹市（兵庫県）が開催していたコンテストに応募したところ、賞状をいただきました。全校集会で登壇したのは、6年間でその1度だけです。文化部は表彰の機会が少なく、映画部が呼ばれた時に体育館がわざわざしていたのが印象に残っています。夏合宿では日光、軽井沢、榛名湖など自然の中

があるLL教室で授業を行なったものだった。

卒業から30年近く経ち、振り返ってあの頃の3年間、6年間はどのように皆さんの心に残っているのか、と思う。会社の経営者になった者、アナウンサー、漫画家、大学で教える者、弁護士、公務員など進む道はバラバラだが、明治高校での日々は、どんな肥やしになったのか。おそらくこれだけ言えるのではないかな。生徒同士の交流やクラブ活動の厳しい練習に比べれば、教員の力は偉い。みんなは自分の努力で成長し、立派な社会人として活躍しているのだ。本当に嬉しい。

⑦「エール」について

今年度のテーマを知った。まさに今こそ団結の時かもしれない。ビジネスでピンチをむかえている人、就職難で苦しんでいる人がたくさんいると思う。横のつながり、縦のつながりが強い、それが明高・明中の強みだと思える。LINEやFacebookなどのSNSの力を借りて、みんなに呼びかけてほしい。直接、会えなければZoomやTeamsなどのツールもある。解決案はないかもしれない。でも、もう一度つながることで、心のわだかまりが、少しでも軽くなればいいのではないかな。それができるのが、総明会なのではないかな。

⑧卒業生へのメッセージ

今、明高・明中は皆さんが卒業した時よりもさらに良くなっています。それは、移転後の教育改革の成果と、それを支えている

でのロケが楽しい思い出です。

◆現在の活動

並木先生 当時との大きな違いは、フィルムからデジタルへの変化です。何度でも取り直しできるし、データのやり取りも便利。撮影自体にはコストがかからないので部費は徴収せず、PTAの助成費で機材購入まで賄えています。部員も増えていて、コンテストなどの活躍もアピールして、より良い環境で撮影できるよう助成費アップをお願いしています。

それから、プロによる撮影指導会や高校生向けの映画コンテストなど「映画のまち」を掲げる調布市の支援は非常に大きいです。コンテストの審査委員は全員プロの映像関係者で、作品に対して真剣な評価・コメントがいただける。文化部の発表機会は少ないので励みにもなり、プロの目を通しての指摘は、成長の糧になる。調布への移転は、結果的に映画部の発展に大きなアドバンテージになっています。

◆アタマのよくなる？映画部

白井 入部するまで帰宅部で、成績も最下位に近かったのですが、映画部に入ってからなぜか急に成績が良くなりました。（※なお、白井くんは高校3年生最後の期末テストは学年10位でした。）

並木先生 そういえば、卒業式のあと白井君のお母さんからだいぶ感謝されたのを覚えています。生活リズムや交友関係の広がりがいい影響を与えたのかもしれない

ませぬね。今後は、勧誘する際の宣伝に使わせてもらいます。

◆おわりに

並木先生 今日改めて当時の作品を見せてもらい、久しぶりに大笑いしました。「ぶっつけ本番感の赴くまま」が面白さにつながっているでしょう。今の生徒は真面目なので「君たちにはこのいい加減さがない」と指導していきたいと思えます（笑）。

大島・白井 活躍の場を広げている映画部の今後ますますの発展を願いますとともに、ご多忙のところお時間を割いてくださった並木先生に重ねて感謝申し上げます。ありがとうございます。

◆「ミニ対談」 「映画部の今昔」

並木先生と振り返る
先生のご寄稿にあわせ、去る7月17日、当時の映画技術研究部部長・大島と副部長・白井が明治高校を訪問し、並木先生と対談を行いました。約30年ぶりに先生と当時の作品を鑑賞するなど懐かしく、和やかな雰囲気でお話しを伺いました。

◆映画部との30年

並木先生 前顧問の山本廣三先生から映画部を引き継ぎました。「私が作った部活だから絶対につぶさないでください」と託されましたが、現在に至るまで部活を存続させ、活躍の場を広げていることで、なんとか山本先生との約束を果たせているかなと思っています。

私としては、部員減少による存続の危機から救ってくれ、即興性のある面白い作品を残してくれた君たちの世代（1991〜1993年頃）が最初の全盛期だと思っています。

それから、寄稿にも書きましたが、駿河台から調布への移転前後に、必要な人材をあちこちから集めて数々の名作を残してくれたP君の存在も大きいです。

その後、一度だけ瞬間的に部員がいなくなりましたが、私ひとりでも新入生対象の部員紹介を行ったことがあります。それでも、私のトークに騙された（？）新入生が3人入部して途絶えずに続けられています。

学校内外での評価も高まり、動画が注目される時代の流れに乗った現在が、第3





S Bメモリを我々取材班の用意したPCに転送しながらインタビューは始まった。

「発想力で第一人者に」

栗田氏は昭和25年生まれ(昭和44年卒男坂倶楽部)。明治高校では写真部で活躍された。当時の写真事情は現在とは全く異なり、記録するフィルムも現像も印刷紙に焼くプリントにも高い費用がかかり、高価で精密な光学機器という位置付けだったカメラを持つ者も稀な状況であった。明治高校の写真部には暗室があり、部活の予算内で現像作業が出来た。拡大してプリントする「引き伸ばし」もお手のもので、生徒会長の選挙運動で候補者の顔写真を活用したのは栗田氏が明治高校史上初めてなのである。この取り組みが後の栗田氏の活動の原点になったと自ら振り返った。

「減っても増えない同期会を大切に」

「いつが良い？早い方がいいな。君たちがこっち来る？それともそっち行く？」スマートフォン越しにはつきり聞こえて来る声。栗田氏が段取りを詰めて行く。栗田茂氏(昭和44年卒・男坂倶楽部)に取材を打診したのは梅雨時の6月末、そこから10日と経たずにインタビューは実現した。初夏の蒸し暑さも落ち着いた7月5日の夕方、中央区居酒屋「銀座升本」に栗田氏はにこやかな表情で現れた。挨拶もそこそこに持参された紙の資料をテーブルに上げ、10ギガバイトに及ぶ写真データの入ったU

発。長きにわたる活動により、今も「ゴールデングラブ賞」の授賞式に携わるスポーツ用品業界の功績者なのである。

「電話連絡網からメールマガジンへ」

栗田氏は同期会・総明会の行事や高校大学の運動部の試合等にも頻繁に出向かれています。カメラを構える姿を見掛けたり、更に被写体となられた事がある方も少なくないだろう。同期会への参加のきっかけを伺うと、「命がけて同期会を作った友人のためだった」と即答した。男坂倶楽部は発起人の服部雄二氏のもとに同期が結集した。その草創期のメンバーの小松盛明氏が腹膜炎を患い透析を受ける日々を送る中で「命ある限り同期に会いたい」という切実な願いに応えるべく同級生を結集させたと言う。EメールもSNSもFAXも無かった当時、連絡は固定電話を活用した連絡網



総明会懇親会 (2015年)



総明会 (2017年)



嶋崎忠彦さん

懇親会でご子息の雅彦氏(昭和60年卒・闘紺会)との写真を撮るように頼まれたのが始まりで、最年少は明治大学硬式野球部の原尚矢氏(平成30年卒)とその差は65年と言わ驚異の幅広さなのである。800人にメールを送るのは、迷惑メール対策の規制もあって普段は8~9回に分けて送信されており大変な作業だ。別のメディア形式への移行も含めてより良い解決策はないかと模索の日々だと言った。

「一人でも多くの人に知ってほしい」

これまでの取材の中で特に思い出深いOB・OGについて聞いてみると、真っ先にお名前が挙がったのは宮澤政信氏(昭和34年卒・旧雨会)、歴代の会報に広告を載せ続けて頂いているマルキュー株式会社代表取締役会長であり、昭和33年夏の高校野球東京都大会決勝で後に世界のホームラン王となる王貞治氏をエースに擁する早稲田実業を延長逆転サヨナラ勝ちで破り甲子園出場を果たしたナインの捕手で、左中間



宮澤さん・下田さん

に早実の上位打線がヒットと四球でチャンスを活かして4点を奪って引き離したか見え見えだが、その裏で明治は連打で一挙に5点を奪い返す大逆転勝利を収めて見事に甲子園出場を決めたのであった。王氏はこの敗戦でプロ野球選手志望を決心したと言われている。明治高校野球部の選手達が東京駅から甲子園へと出発する時に王氏が見送りに来たと言った。

言う人柄を示す逸話が残り、今なお語り継がれているのである。甲子園では初戦倉敷商業を3-1で破ったものの、魚津に6-7で二回戦敗退を喫した。その後昭和40年春の選抜高校野球の二回戦進出を最後に野球部の甲子園出場は途絶えている。「甲子園への出場経験がある人達がいる事を若い人達にも知ってもらいたい」栗田氏は目を見開いて語気を強めた。

栗田氏の話は続く。法曹関係への進路を希望する在校生へのサポートする弁護士資格を持つOB・OG達の活動や、コロナ禍初期に明治中学・高校で消毒液が不足する危機に瀕した時に、総明会から多量の消毒用アルコール一斗缶を寄贈した話など、OB・OGと母校との繋がりに纏わるエピソードは枚挙にいとまがないが、限られた仲間内でしか知られていない場合が多いと考えている。OB・OGと在校生が互いに高めてあげているのに、これを部分的な物に留めるのはとても勿体ないと言った。一人でも多くの人に知ってほしい思いがメールマガジンを発信し続ける原動力なのだ。「減っても増えない同期会」とは栗田氏が今まで活動を続ける中で、胸に刻んだ言葉だ。メンバーが減り続けて最終的に無くなってしまいう同期会を損得勘定抜きで楽しんで携われる事はとても貴重な事だと説く。



試合当日のスコアブック (上:明治高校 下:早稲田実業)



↑栗田氏メールアドレスはこちらのQRコードからも読み取ることが出来ます

取材を進める中でも栗田氏は聞き手の我々に向けて手持ちのスマートフォンのカメラのシャッターを切り、矢継ぎ早に質問を繰り返すなど、手慣れたテクニクの逆取材にたじろぐ一幕もあった。行動力・発想力に富み、バイタリティー溢れる栗田氏は明治高校OB・OGの近況を発信してこのコロナ禍にあっても、今までと変わらず私たちにエールを送り続けている。次に取材を受けるのはこれを読んでいるあなたなのかもしれない。

【会報委員会からのお知らせ】栗田茂氏のメールマガジンの配信ご希望の方は、kurisigeat@gmail.com宛に氏名・卒業年(同期会名)・連絡先をご記入の上、栗田氏ご本人に連絡をお願い致します。

2年目に突入したコロナ禍は、総明会の同期会・班部OB・OG会の活動に多大な影響をもたらしています。今まで当たり前のように開催出来た会合すらままならず、縦横の交流はより疎遠な物へと変化を強いられました。我々幹事学年「隆明会」はこの状況を打開すべくオンライン会議サービス「Zoom」の年間有料アカウントを取得し、制限時間に縛られないオンライン同期会・班部OB・OG会の開催支援策を打ち出して、広く参加を呼び掛けました。その結果、複数の団体から即座に反応があり、最終的に5つの団体がオンライン同期会を開催しました。それぞれの同期会には幹事学年の複数の役員が陪席し新たな交流が生み出され、双方に向けてのエールが交わされました。

幹事学年から総明会会員の皆様へのエール

同期会・OB OG 会のオンライン開催を

幹事学年がお手伝い致します!!!

期間 5/1(土)~6/27(日)

コロナ禍で人が集まる行事が開催出来ずにお悩みの同期会・班部OB OGの皆様に、幹事学年がオンライン開催を支援致します。

- ・実施希望日時をお知らせ下さい。※1、※2
- ・オンライン開催に伴う費用はかかりません。
- ・インターネット接続環境及び通信機器(パソコン・スマートフォン等)は各自でご用意下さい。
- ・インターネット接続環境が整っていない場合は、操作案内等の対応を致します。
- ・開催時には幹事学年が陪席させて頂き、Zoomを使用しますので、パソコン・スマートフォンに予めアプリのインストールをお願い致します。
- ・オンライン開催には「Zoom」を使用しますので、再調整をお願いする場合がございます。

※1 ご希望の日時が総明会のオンライン会合と重複する場合は、再調整をお願い致します。
※2 原則ひとつの団体につき、1回約90分のご利用とさせていただきます。

お問い合わせはこちらまで
第57回総明会総会幹事学年 隆明会 実行委員長 三保谷建介
E-mail:mihoya@mtb.biglobe.ne.jp 090-8740-5574

新世輝(昭和61年卒)

昨年から続く新型コロナウイルス収束の兆しが見えぬ中、2021年6月12日に2年ぶりの新世輝第12回同期会が決定されました。と言いましても感染拡大防止のため、Zoomの達人土田君の発案により、リアルでは無くネット上でモニター越しにして、16時開始。

長谷川 隆洋

先ずは恒例のHRにて昨年と今年の総明会の活動報告があり、続いて新世輝の会計報告がなされました。参加者は新世輝10名と隆明会5名。新世輝参加者のうちアメリカ在住の藤ノ木君、シンガポール在住の宮井君のネットならではの国境を超えた嬉しい参加がありました。その後皆で画面越しに各々好きなお酒を持ち乾杯し、新世輝は各自近況報告、隆明会の皆さんにはそれぞれ自己紹介をして貰いました。徐々にお酒が入るにつれ、最初の緊張感はどこ吹く風。参加者それぞれ昔の母校の思い出話で大いに盛り上がり、宴もたけなわの中、最後は隆明会の応援団 熊木君のリーダーによりエールを行い、予定通り19時に無事終了。あつという間の3時間でした。



実は私自身このようなネット懇親会は初めてで、少々懐疑的でしたが、実際参加してみるとそれに楽しめました。でも同時に、来年こそはリアルな新世輝同期会を再び開催したいと強く感じた次第です。

明愛会(平成2年卒)

今泉 仁

明愛会は、翌年に幹事学年となる事を知った2016年より毎年同期会を開催していましたが、コロナの影響により昨年から大規模イベントが出来ておりません。...

隆明会(平成6年卒)

三保谷 建介

開会式と共に幕を開けた東京オリンピックの2日目、7月24日夕刻に隆明会では初めてのオンライン同期会が開催された。「LINE」で繋がりのある約50名に加えてメール・電話などで幅広く声を掛けた結果、総勢18名の同期が「Zoom」上に参集した。幹事学年として年間アカウントを取得していたため時間無制限の一本勝負と相成った。オンライン開催の特性を生かし、首都圏以外にも北海道・静岡・愛知・和歌山など幅広い地域からの参加が実現。一同パソコンのカメラに向けて杯を掲げて乾杯し、同期会はスタートした。

筆者より：隆明会の同期会等の情報については mihoya@mtb.biglobe.ne.jp までお問い合わせください。

何人かが集まれば、話題は一緒に過ごした明中・明高時代の話題ばかり、同じ話を何度聞いても飽きない程充実したLINE生活を送っていたと、つくづく感じております。

明愛会は今年50歳！
そろそろガタが来る身体にムチを打ち、同期のお店にランチに行き、大学ラグビーをTV観戦し応援したり、やっぱりLINEが好きな私達は、明愛会の仲間・先輩後輩を何より大事にしております。頑張れ、隆明会!!



2021年 学校報告

年間行事

※一部行事説明文は
明治高校ホームページより引用させていただきました。

9月 September

- ◎第2回避難訓練

10月 October

- ◎中間考査
- ◎中学体育祭
- ◎六大学野球観戦
(中1・中2・高I・高II): 中止

11月 November

- ◎紫紺祭: 予定
- ◎高校球技大会



※写真は2020年のものです

12月 December

- ◎期末考査

5月 May

- ◎中1HR委員選挙
- ◎中間考査
- ◎生徒総会
- ◎教育実習
- ◎旅行週間: 中止

6月 June

- ◎高校球技大会: 延期
- ◎授業参観: 中止
- ◎イングリッシュ・プレゼンテーション
- ◎中2学年活動 (小田原)

7月 July

- ◎期末考査
- ◎高I夏休み防犯教室
- ◎国内英語研修

8月 August

- ◎高大連携サマーセミナー
(法曹入門・簿記・TOEIC・
理科実験・コンピュータ・数学他)

夏休みを利用し、明治大学の先生方他を講師に迎え、「明治大学・明治高等学校連携サマーセミナー」を実施しています。大学各キャンパスおよび本校において実施されます。毎年10講座前後を開講し、受講を希望する高校I～III年生約200名が積極的に参加しています。高校III年生は学部進学のための準備として、また高校II年生は今後の進学を見据えたものとして受講します。

3月 March

- ◎期末考査・卒業式
- ◎高大連携スプリングセミナー
(簿記初級講座・裁判傍聴)

明治高校では、明治大学経理研究所と連携し、高大連携スプリングセミナー(簿記初級・3級・2級)を3月から実施しました。本校CALL1教室は日本商工会議所ネット試験施行機関に認定されており、4月には日商簿記検定「初級」も実施しました。簿記初級講座を受講した60名が受験し、56名が合格しました。合格率は93.3%と全国平均59.4%を大きく上回るものでした。なお、簿記3級講座には29名、簿記2級講座には20名の生徒が受講し、上位級の取得を目指しています。

- ◎中大連携スプリングセミナー
(理工学部実験講座)

4月 April

- ◎入学式 中学校・高等学校・
新中2進級式
- ◎新入生オリエンテーション
- ◎HR委員選挙・高校班部編成
- ◎リーダー研修会・第1回避難訓練

1月 January

- ◎創立記念日
- ◎吹奏楽班 第62回定期演奏会
- ◎マンドリン部 第62回定期演奏会
- ◎スピーチコンテスト

「創立100周年教育振興プログラム」の一貫として、2012年度から毎年、英語による「スピーチ・コンテスト」を開催しています。このコンテストでは、選ばれた中学3年生と高校I年生の計10名が英語を駆使し、各自のテーマについて1人3～4分以内でスピーチを行います。審査は明治大学教授3名によって行われ、採点は50点満点(English, Content, General Impressions)です。本選出場者全員に、海外短期語学研修(英語圏)への参加にあたり、「鶴澤総明教育振興・奨学金プログラム」奨学金(上限30万円)が支給されます。

2月 February

- ◎中学入試、高校入試
- ◎応援団 第11回紫紺の下に: 中止
- ◎高III歓送会

地理研究部が「日本地理学会会長賞」を受賞!

2020年、地理研究部が延べ2年間にわたる「土佐・高知の日曜日」の調査をとりまとめた地図作品が、「第30回私たちが身のまわりの環境地図作品展(審査委員長 坂井誠亮・北海道教育大学教授)」において日本地理学会会長賞を受賞しました。受賞に至るまでの取り組みや地理研究部の活動について、顧問の由井先生、部員の皆さんにお話を伺いました。(取材:隆明会会報委員 藤瀬大輝、大島昌彦)

〈地理研究部〉

顧問・由井将雄先生、部長・松本紘和君、副部長・新田章仁君、前部長・大川芳君、前副部長・平野生織君

この度の受賞、おめでとつございます。はじめに皆さんの入部動機と活動状況を聞かせてください。

もともと旅行や鉄道が好きで、いろいろな地域に調査に行けることに魅力を感じていました。班部紹介の映像で、調査活動はもちろん、各地でおいしそうなものを食べている様子が紹介されていたので、入部を決めました。

今年は中学1年生が10人も入部し、総

勢30人になりました。部員が増えていきやかにはなつたのですが、由井先生の「地理研女子化計画」の取り組みも空しく女子部員が1人もいません。入部してくれても、いつの間にかいなくなってしまう。

昨年、今年とコロナの影響で

合宿も行えず、満足な活動ができなかった。2020年の文化祭では、これまで調査した地域についてとりまとめて発表しようということになり、その過程で高知での調査をまとめることになりました。「土佐・高知の日曜日」は、2015年、2019年の2度にわたり訪問し、調査を実施していました。文化祭の展示パネルを再構成して新たに地図を作成し、「環境地図作品展」に出展することになりました。

今回受賞した「土佐・高知の日曜日」での調査について教えてください。

日曜市は、もともと農家の現金収入の場として行われていたもので、300年以上の歴史があり約300軒が出店します。市の開催場所は、高知城に続く大手筋と呼ばれる道路です。調査では、二人一組でプロックに分け、すべての店舗を隈無く調べました。

市役所もっている事業者リストとも照らし合わせましたが、基本的には現地でヒアリングした情報を元にまとめています。

各店舗には、出店者情報のプレートが掲示され、どの地域から出店しているのかが分かるので、出店地域別、販売商品別に集計し

環境地図作品展について教えてください。

北海道教育大学の主催で、旭川市を会場に毎年実施されています。全国の入賞者が旭川科学館のホールに展示され、賞状をもらつてきました。今回は10月31日(土)、11月1日(日)の2日間の行程で現地に行ってきました。土曜日の放課後に羽田から飛行機で向かい、ジンギスカンや旭川ラーメンなど現地のグルメを楽しんだほか、大川君(前部長)のお父さんが現地まで車を出してくれたので、美瑛や大雪山など周辺エリアを見て回ることもできました。

由井先生 会場で展示を見ていたら、主催者の方が「審査にあつた地図会社の方が作品を絶賛していましたよ」と教えてくれました。GIS(地理情報システム)の研究開発の方々から、以下のようなコメントをいただき

「今年も旭川を目指したいの思いから、国分寺屋線(がいせん)という学校裏の崖を調べています。GPSでかなり正確に測量できるので、地形や地層の連なりを歩いて地図に落とし込んでいく試みです。実際にやってみるとなかなか苦労が多く、体力的に

地図化できました。

また、各部員が1時間程度、店舗で販売体験をさせていただいたほか、出店している農家に直接お邪魔して、野菜の収穫や冷蔵など出店準備の過程を見学させてもらいました。お店には1人で出ていますが、家族総出で準備されていることがよくわかりました。

2015年の調査と比較すると、店舗数の減少や業種の変化が見取れます。出店者の入替りもあり、この数年では飲食店の出店が増えていきます。市役所のリスト上は存在するものの、実際には営業していない店舗も見受けられます。調査した3月末は、ちょうど文旦のシーズンで取り扱うお店が多くありました。

調査を通じての感想はありますか。

お客さんは、観光客と地元住民が入り混じっていて、地元の方と店舗の信頼関係が築かれている様子が分かります。一方で、若い人がなかなか足を運ばない傾向があります。大型店は便利ですが、こうした地域のコミュニティをなくしてはいけない、と考えさせられました。

出店者は高齢の方が多く、後継者がいないという話もよく聞きました。季節の野菜・果物のレシビを教えてもらうのを楽しみに来ている人もいます。生産者の顔が見える、季節のものが買える、それをおいしく食べるというところに価値があると思います。

地元の人同士のコミュニケーションの場として成立していて、こういう場を残していけば、地方での孤立・孤独化の防止にもなると思



ました。

●この1枚の地図で、日曜市の歴史や高知の農業、現代社会の課題等多くの情報が見えるいい地図だと思えます。

●長い歴史のある日曜日という文化を守り未来に残すにはどうすべきか、を考えさせる地図である。

●どこから出店しているか、南部は果物、北部は農産物加工品といった特徴をよく表せている。

●楽しい日曜市の裏に高齢化による出店数の減少という課題があることを視覚的にとらえることができる。また、課題に対する方策も掲載、検討されている点が素晴らしい。今後の活動の励みになる大変ありがたい評価をいただきました。

今後に向けた取り組みについて教えてください。

今年も旭川を目指したいの思いから、国分寺屋線(がいせん)という学校裏の崖を調べています。GPSでかなり正確に測量できるので、地形や地層の連なりを歩いて地図に落とし込んでいく試みです。実際にやってみるとなかなか苦労が多く、体力的に



特に、実際に店舗に入らせてもらった経験

が大きいです。帰りにお土産をいろいろもらいましたが、途中で袋が破けてしまいポケットに突っ込んで帰りました(笑)

そもそも、なぜ高知が調査地域に選ばれたのでしょうか。

以前、先輩に理由を尋ねたら単純に「四国に行きたかった」と言っていました。だいたい調査先を選ぶ理由はそれですね(笑)。2019年も「四国に行きたい」と提案したら、先生から2015年の調査をもとに比較してはどうかとの指摘があり、調査を計画しました。2015年の調査で調べきれなかったこともあるので、そのリベンジという意味でもありました。

木曜日に飛行機で出発し、木曜・金曜の

も大変です。

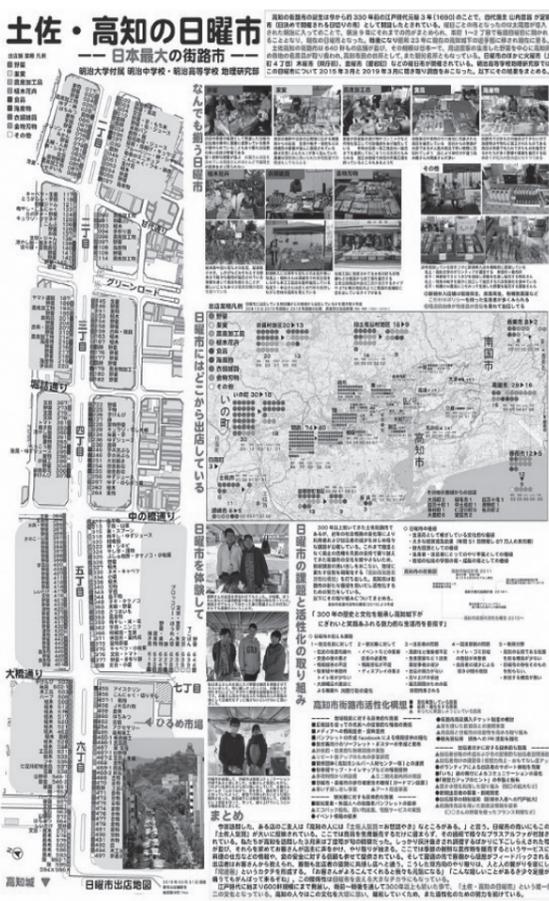
それから、継続的な活動として東海道五十三次を徒歩で辿る旅を続けています。4年かけて、ようやく大井川を渡り、金谷宿までたどり着きました。おいしいものを食べながら少しずつ歩を進めています。

おわりに

由井先生から、地理研の合宿や調査は「どこに行きたい?じゃあ何を調べようか?」という展開が多い。何事も行ってみてから考える! (笑) とのお話がありました。現地での部員の皆さんの奮闘ぶりをお伺いするに「やるときはやる!」という明高・明中生の底力を変えたのめしく感じました。地理研甲子園の常連校?になることを期待しています!



新田君 松本君 由井先生 大川君 平野君



新型コロナウイルスへの 学校での対応について

北村 純 副校長

新型コロナウイルスへの感染防止対策で法人、個人ともに様々な活動制限が求められてきた中、2020年以降の学校活動について北村副校長にインタビューをいたしました。

★入学式の中止と登校の再開

コロナ禍により2020年度は入学式が実施できませんでした。今の中学2年生は、今年の入学式の後、保護者にもご出席いただき入学式の代わりとして「進級式」を実施しました。なお、高校2年生は実施しませんでした。

休校中だった2020年4月7日に「生徒行動基準」(概要を文末に記載)をホームページにし掲載、併せて宿泊を伴う行事・国際交流活動は原則禁止とした基本方針を打ち出し、6月2日に学校を再開しました。登校が始まった6月前半の2週間は、出席番号奇数の生徒が月・水・金、偶数が火・木・土を登校日とする分散登校にし、教員が同じ授業を2回行うことで、1週間の授業を2週間で行う様な体制でスタートしました。



保健室での授業

ク基盤本部所属のオンライン化推進を担当する教員がいたことから早期対応ができたこと、また各種ツールの利用も付属校であることから明治大学の利用枠を活用させてもらえたため、時間等の制限がなく余裕を持って利用できたことです。

インフラ導入に関してもWi-Fi化を実施する場合、初期費用に加えて経費が月額7〜8万円程度必要となりますが、本校は明治大学が契約している「SINET」(科学情報ネットワーク)に駿河台経由でつながる環境になっております。

明大生が利用している「Ohoi Meijiシステム」を導入できたことについては、本校卒業生が明治大学に進学した際、既にシステム利用経験があるためアドバンテージになるかと思えます。

その2週間の中で教員は生徒に対し、スクールバスや学校内での感染対策の教育・指導をしながら学校生活を始めました。当時は、東京都の新規感染者数の発表に注目しながら、その後、通常登校にシフトしました。1学期の中間テストをなくし、授業時間に充て、夏休み・冬休みの短縮等で教育課程の遅れを取り戻すなどの工夫もしました。

★オンライン授業の実施

2020年4、5月は学校での授業ができません、その代わりにオンライン授業を実施しました。といっても、新中学1年と新高校1年については、そもそもの関係構築から始まったため、実質のスタートは5月に入ってからでした。

全生徒を対象に全教員が実施できたことは、ホームルームだけでした。一部の教員と生徒はリアルタイム授業(Zoom)やオンデマンド授業(YouTube)を行い、さらに、調布キャンパスではまだ未導入であった明治大学「Ohoi Meijiシステム」を利用したオンデマンド授業や課題の授受を生徒が学校に登録したメールで教員とやり取りしながら始めていました。

その際、オンライン授業の問題点も発見しました。①各家庭に必ずしもネット環境が整っていない、②兄弟姉妹がいるケースや両親の在宅ワーク等で生徒に割り当てできる端末がない、③生徒居住のマンション等でネット回線が集中してつながりにくい

現在、多くの大学ではスマホやタブレットに慣れた学生がPCの使用(タイピング)ができないという問題を抱えていることもあり、導入端末も安易にタブレットとはせず、PCの導入も検討することになると思っています。

現時点で他校で入学と同時に生徒に端末を配付しているところもありますが、本校では端末だけを配付して終わりとするのはなく、本当の意味でのICT化を推進していきます。ただ、闇雲にオンライン化を進めるのではなく、オンラインではできないことや対面だからこそできること、同じ年代が周りにいるからこそできることは区別をし、特に体験やコミュニケーション(実際の会話の他に空気感)等は大切にしていきたいと考えています。

〈北村先生から卒業生へのエール〉

卒業生の皆様、いつも本校の生徒に様々なご助力をありがとうございます。本校ではコロナ禍にあつて、どのようにな生徒の学力向上、生活力向上を図るかという考えに則り、日々教職員一丸となり対応しております。生徒は感染対策を身につけ、独立自治の精神をもって、各自成長しております。

諸先輩方が生徒ひとりひとりの具体的な目標となる人物像であることを我々教職員は伝えております。

今後ますますご活躍されることをお祈り申し上げます。

環境となつていた、という3点に課題が集中しており、この時の経験は今後の対応を進めていくICT教育やIGAスクールに活かしていきたいと考えています。生徒との個人面談については、中学3年生と高校3年生は必要に応じて登校、他の学年はオンライン対応(Zoom)とし、できるだけ登校せずに済むようにしました。また、学級懇談会は校内での対面形式では行わず、オンライン対応(Zoom)のみとしました。

★感染対策と部活動について

様々な感染対策(概要を文末に記載)の結果、生徒がご家庭で感染したケース(若干名)はありましたが、現時点では教職員の感染者数は0人、校内でのクラス



中1グループ学習

- 【生徒行動基準概要】(2021年6月現在)
- 自分と家族の健康状態に応じて登校・欠席を判断する(毎朝検温・Googleフォーム送信)
 - できるだけ手洗いをする
 - マスクを必ず着用する(鼻・口を覆う、食事中は私語厳禁、予備マスクを必ず持参)
 - 他人とはできる限り距離をとる
 - 床に触らない
 - 教室や施設の換気

【感染対策概要】

- 1 方針は都教育委員会の発表内容を基準とし、学校医の意見・アドバイスを受けて決定
- 2 具体的指導は書面(生徒行動基準)と口頭にて生徒に指示

ター発生もありません。ずっとマスク姿です。教員が何か月も経って初めて受け持った生徒のマスクなしの顔を見る、というケースも未だに多いです。

2021年度には、感染予防対策の一環として、教育推進連携の関係から調布市におけるファイザー社製ワクチンを、本校教職員用に87名分の割り振りをしていただきました。

蛇足ではありますが、2020年度は、学校経営の面からも非常に重要な入学試験を必ず実施できるよう、試験日の2日半前から意図的に校内全面立ち入り禁止期間を設け、入試直前の校内における感染者発生を抑制する取り組みを行いました。

部活動は、都の教育委員会からの通達に沿って、緊急事態宣言下では高校生は週3日、中学生は週2日まで、時間延長なしとしました。但し、スクールバスが満員にならないよう下校が分散されるよう工夫しました。文化祭は保護者不参加で1日のみの開催とし、保護者には文化祭の様子をDVDで配布する形にしました。

★コロナ禍における学校のICT化

2020年3〜6月は、情報・前例がない中で手探りで対応となり大変でした。その中で恵まれていたのは、本校にはICT教育推進委員会があり、ネットワー

- 3 導入物品
 - (1) 消毒用アルコール(総明会より当時市になかったアルコール1斗缶10本ご寄贈)
 - (2) 食堂パーティション導入(PTAご寄贈)
 - (3) 教員室、事務室パーティション導入
 - (4) 右側通行の徹底
 - (5) フリースペースの椅子撤去(ソーシャルディスタンス対応)
- 4 2020年度入試(2日半学校閉鎖による休校導入、受験生1クラス30名への削減)

- 4 学校施設使用制限
 - 生徒・教職員以外原則立ち入り不可
 - 鶴澤總明ホール 約800名まで(定員1450名)
 - 多目的教室 女子更衣室として年間使用
 - 地下1階更衣室生徒使用禁止
 - 大会会場・練習試合会場としての利用原則不可
 - 全施設、使用後の消毒作業実施



柔道場での授業



総明会が寄贈したアルコール

新任先生紹介



なかむら しんご
中村 慎吾 先生

●ご氏名・略歴

- ①ご氏名 中村 慎吾 先生
- ②生年月日 1994年6月16日
- ③出身地 栃木県
- ④出身校・学部 明治大学 文学部
- ⑤前職 高校教諭
- ⑥担当教科 社会科
- ⑦担当クラブ活動 陸上競技部 卓球部

●明治中学・高校に赴任しての印象
 まったりした生徒が多い印象です。その一方で、学習にもしっかり向き合っているように、頼もしさも感じています。

●生徒たちに期待すること

選択肢を増やしてほしいと思います。多くの経験と知識から、自分の関心を活かせる道を見つけてほしいです。

●自身の抱負

生徒と保護者のために働くという意識を持ち続けたいと思います。各ご家庭に納得した形で卒業してもらいたいです。

●自己紹介

西洋中世史という「異世界」を研究してきました。多様な価値観を提示し、生徒の視野を広げる授業を行いたいと思います。



さかもと ゆうき
酒本 優希 先生

●ご氏名・略歴

- ①氏名 酒本 優希 先生
- ②生年月日 1998年12月2日
- ③出身地 東京都
- ④出身校・学部 明治大学 文学部
- ⑤前職 なし
- ⑥担当教科 国語科
- ⑦担当クラブ活動 女子硬式テニス部、書道部

●明治中学・高校に赴任しての印象
 明るく活発な生徒が多く、会うたびに元気をもらっています。また、先生と生徒の距離が近いな、とも感じています。

●生徒たちに期待すること

国語は答えが一つではない、という特色があるので、物事に対して自分なりの考えを持つ力を養って欲しいと思っています。

●自身の抱負

教員一年目で至らぬ点は多々あるとは思いますが、生徒と共に成長していきたいと考えています。

●自己紹介

初めまして、酒本優希と申します。母校で教職に就かせていただけることになり、大変嬉しく思っています。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

班・部活動の記録／資格試験・表彰

PTA会報

2020年12月23日号、2021年3月10日号、2021年7月19日号

《班・部活動の記録》

硬式野球部

2020年秋季東京都高等学校野球大会
 1次予選
 1回戦 明治10大山・蒲田・橘・六郷工科
 代表決定戦 明治218専大付
 代表決定戦敗退

柔道部

2020年度東京都高体連柔道部
 第四支部新人大会
 無段66kg以下級準優勝 高II 新井
 有段66kg以下級五位 高I 佐々木

バレーボール部

全日本高等学校バレーボール選手権大会
 東京都第一次予選
 高校男子 東京都ベスト16
 2回戦 明治高210本郷
 3回戦 明治高210世田谷学園
 4回戦 明治高210獨協
 5回戦 明治高210上野
 6回戦 明治高012早稲田実業
 高校男子・関東高等学校男子バレーボール大会
 東京都予選

東京都ベスト8・関東大会出場(13年ぶり9回目)
 高校女子・春季大会兼関東大会予選
 予選1位 本戦出場

陸上競技部

第71回 東京都高等学校駅伝競走大会
 第26位(全84チーム中)
 高III 井上 高III 岩永
 高III 加藤 高II 福島
 高I 小原 高I 瀧見
 高I 真野

サッカー部

令和2年度中体連サッカー部第9ブロック
 新人大会Aトーナメント
 優勝
 これにより令和2年度第64回東京都中学校サッカー新人大会
 サッカー新人大会進出

令和2年度第64回東京都中学校サッカー新人大会
 ベスト16
 2020年度首都圏私立中学校チャンピオンズカップ
 東京都予選 第711支部Bブロック
 優勝
 これにより2020年度首都圏私立中学校
 チャンピオンズカップ進出

男子硬式テニス部

東京都高等学校新人テニス選手権大会
 個人シングルの部
 東京都第17位 高I 橋本
 東京都第33位 高I 町田
 東京都高等学校選抜テニス選手権大会
 団体戦
 東京都9位
 高II 小山 高II 中保
 高II 中上 高II 門野
 高I 早川 高I 橋本
 高I 儘田 高I 町田
 高I 内藤

第45回 東京都私立中学高等学校テニス選手権大会

団体戦
 準優勝
 高III 星川 高I 橋本
 東京都中学校テニス選手権大会第9ブロック
 個人ダブルスの部 都大会出場 第5位
 中3 大泉 中3 佐野
 東京都高等学校テニス選手権大会
 個人シングルの部 本戦出場 ベスト64
 高I 櫻井
 個人ダブルスの部 東京都 ベスト16
 高III 門野 高II 橋本
 東京都私立中高テニス選手権大会
 個人シングルの部 東京都優勝
 高III 星川

スキー部

第26回 クロスカントリークラシカル競技会 in 黒姫
 (東京都スキー連盟)

〈高校生女子5kmクラシカル競技〉
第2位 高三 足立

化学部
第60回生徒理科研究発表会
入賞 高二 清水
中2 松井

地理研究部
第30回私たちの身のまわりの環境地図作品展
日本地理学会会長賞 高二 大川

映画部
eiga word cup 2020 自由部門
(映画甲子園)
入選 高二 浅井
優秀監督賞 高二 中山

書道部
第六十五回全国競書大会
高野山金剛峯寺賞 高三 相田
高野山金剛峯寺賞 中3 森田
大会賞 高三 吉川
第五十七回全日本書初め大展覧会
日本武道館賞 中3 森田

《資格試験・表彰》
2019年度 本の紹介文コンクール
最優秀作品 中2 深木
2019年度 作文コンクール
最優秀作品 中3 清原

第12回明治大学文学読書感想文コンクール

優秀賞
『安達としまむら』 入間 人間 高三 齊藤
『いじめの構造―なぜ人は怪物になるのか』 内藤 朝雄 高二 佐光 高一 大澤
高一 小久保 高一 富永
『ゴドーを待ちながら』 サミュエル・ベケット 高三 内田 高二 高橋
高一 菊池

『その情報はどこから?―ネット時代の情報選別力』 猪谷 千香 高三 村井 高三 上田
高三 猪口 高一 高田
高一 中井 高一 石井
『チリの地震―クライスト短編集』 ハインリヒ・クライスト 高三 濱崎 高三 飯田
高一 高橋

『よるのげけもの』 住野 よる
高三 谷口 高三 津野
高三 富田 高三 前野
高三 岡田 高三 鈴木
高一 小野 高一 山本
高一 森川 高一 多喜
高一 海江田 高一 寺内
高一 石井 高一 町田
高一 江成 高一 武井
高一 鈴木

『楽園のカンヴァス』 原田 マハ 高三 松田 高二 笠井
高一 岩橋 高一 多々納

令和2年度 中学生の「税についての作文」

東京国税局長賞 中3 清原
U18-T夢コンテスト2020(神奈川県工科大学)
優良賞 高三 星川

第62回パソコンスピード認定試験(日本語)
一級認定 高三 田山

第124回日本語ワープロ検定試験
2級 高三 古屋

第74回文書デザイン検定試験
1級 高三 積山

第122回情報処理技能検定試験(表計算)
2級 高三 西尾

第52回プレゼンテーション作成検定
2級 高三 森

第12回IBCエッセイコンテスト
奨励賞 高三 杉山
高三 清水



令和3年3月退任 鈴木康巳先生ご退任インタビュー

●着任時の思い出など

明治に着任したのは昭和56年(1981年)4月のことです。

当時は教員の入替え時期で、定年を迎えるベテランの先生がたくさんいらっしやうて、私の着任した年の前後数年間に、20名の新任教員が採用されました。

私はちょうど大学を卒業したところで、まだ右も左もわからない新米教員でした。最初に担当した学年が中学1年生でしたが、互いに1年生とすること、彼らは親しみを持って接してくれました。何もかも初めての経験で、毎日が新鮮な驚きの連続で、とにかく必死で一年間を過ごしたことを覚えています。この学年が中学2年生に進級したときより担任となり、その後、彼らが高校卒業するまで持ち上がりました。学年が上がることに、常に新しい発見があり、教員として学ぶことが多くありました。また失敗も数知れずあり、彼らとともに成長した6年間だったと

思います。

彼らと過ごした6年間の中で一番の思い出は高校3年生の九州への修学旅行です。

当時はゴールデンウィーク前の4月末に5泊6日で行きました。高校3年生になって、まだ2週間しか経っていないので、クラスの生徒のことも十分把握できていない中で旅行でした。初めての高校3年生で始業式から緊張が続いていたためか、出発前日に38度を超える高熱となつてしまい、引率できるかどうか不安の中、当日ふらふらしながら東京駅に向かったのを思い出します。初日の道中は係の生徒に任せ、専ら身体を労りながら静かにしていました。博多駅に到着すると、クラスの担当となる美人のバスガイドさんに迎えられ、クラスの生徒は大変興奮してバスに乗り込み、楽しいバスのひとときを過ごすことになりました。私の熱も日ごとに治まっていき、何とか6日間を乗り切ることができたのもバスガイドさんのおかげだったかも知れません。

この修学旅行では、旅行担当であった社会科の近江吉明先生のご指導のもと、長崎において班別に分かれての自主研修を実施しました。また、研修した夜には被爆者である山田拓民先生の講演を皆で聞いたのも当時としては初めての試みでした。講演後、皆でお金を出し合せて被爆者の会に募金をしたところ、後日、長崎の鐘を送っていたいたいのも懐かしい思い出です。この修学旅行以降、長崎での班別自主研修が定着し、その後継続し

て行われることになりました。

現在は沖縄への修学旅行ですが、九州の修学旅行も魅力のあふれるものだと思っています。彼らと一緒に旅したこの6日間が一番印象に残っている出来事です。

●部活の顧問の思い出など

40年の在職中、3つのクラブの顧問を担当しました。マンドリン部の顧問を9年、顧問を2年、書道部の顧問を26年、将棋部の顧問を29年務めました。

勤めて以来、最初に顧問に着任したが、将棋部でした。

小さい頃から将棋に親しみ、趣味としていたので、将棋部の顧問に着任したことはありがたいことでした。途中、マンドリン部の顧問にも着任したため、11年ほどブランクはありましたが、一番長く顧問を務めたクラブでした。将棋部では毎年、夏休みに場所を変えて合宿するのが恒例で、特に務めた初年度の合宿の事は忘れられません。

この年は部長、副部长、私の3人で軽井沢の合宿先に日帰りで見学をし、準備万端で2泊3日の合宿に臨んだのですが、なんと最終日にとんでもない事態が生じたのでした。宿を出発し、列車に乗り込んだところ、台風が近づいているため、列車の運転を見合わせる放送が入り、足止めを食ってしまったのです。いつ出発できるかわからないということなので、しばらく様子を見ようということになりました。結局、多くの客がそのまゝ列車内で過ごし、一番猛烈な雨の中をじつとしていたのです。翌日になつても、川が増

水し、いつ出発するとも分からない状況が続きましたが、午後のある時間になつて、突然出発の放送が入り、やつとのこと帰ることができ、ほつとしたことを覚えています。

世の中一体何が起るか分からないものだということを痛感し、それ以降の合宿でもう一泊出来るようにお金を多めに持つていくことにしました。

マンドリンの音色に惹かれて演奏会に足を運んだのが縁で、勤めて4年目の時に、マンドリン部の副顧問になりました。その2年後に顧問の境田先生が定年でお辞めになったので、将棋部からマンドリン部の顧問に変わりました。

顧問といっても、特に楽器経験があるわけではないので、音楽の指導は本校OBで音楽監督の久保田孝先生にお願いしていました。久保田先生は明治に在学中よりマンドリン部員として活躍され、その後、音楽監督として現在まで、大変長きにわたつてマンドリン部の指導を担当いただいています。先生の熱心なご指導のおかげで大変質の高い音楽が生み出され、毎年夏に出場しているギター・マンドリンフェスティバルでは、文部科学大臣賞などの大きな賞を受賞することができるようになりました。

そのようなレベルの高い音楽を作り出すためには、それなりの練習が必要で、マンドリン部の活動は、運動部並みに大変ハードな内容で、ほぼ一年を通じて休みなく練習がありました。そのため、勉強との両立に苦勞する生徒もおり、休みの日をつくることで幹部の諸君と衝突することも何度かありました。特に夏休みと冬休みに行く合宿では、朝か

ら夜遅くまで練習に明け暮れ、仕舞いには楽器を抱えながら寝てしまふ生徒もいるほどでした。健康面を心配し、いつも気にかけていましたが、気が張って練習しているせいでしょいか、不思議なことにあまり具合の悪くなる生徒はいませんでした。ただ帰りのバスでは、寝不足が祟って、いつも水を打ったように静かに全員が寝ていたのをよく覚えています。

マンドリン部の活動の集大成は年度の最後に行う定期演奏会になりますが、ちょうど私の年齢と同じ回数数を教える定期演奏会でも思い出があります。

第32回定期演奏会において、その年のマンドリン独奏コンクールで見事第1位を獲得した高校3年生の山室繁史君が、サラサートの「ツイゴイネルワイゼン」を演奏して、満場の拍手喝采を浴びたことは忘れられない思い出です。

2020年度の第62回の定期演奏会はコロナ禍の開催でしたが、久しぶりに足を運び、マンドリンの心地よい優しい音色に触れて、温かく包み込まれて幸せを感じました。これからも聴くものに感銘を与える演奏を届けてほしいと願っています。

書道部の顧問はマンドリン部の顧問を辞めた後に着任しました。小学校の時の担任の先生の影響で字を書くのが好きになり、小学校高学年から中学生の初めまで、近所の書道教室に通っていましたので、書道部の顧問になることは自分にとって大変光栄なことでした。

男子校時代にちょうど顧問に着任した時は部長がほとんどいない状態で、休部を考え

て、40年という長い月日を過ごす中で、多くの貴重な経験をさせてもらいました。自分が高校時代には取り組んでこなかったことに教員の立場から関わったり、また自分には向かないと思っていたさまざまな職務にも携わったりすることで、教員としての大事な勉強させていただき、自分を高めることができましたと思います。

そして何よりも明治高校において素晴らしい生徒たちと多くの出会いを持ってたということが私にとって一番の財産だと思います。

◎退任後の過ごし方など
在職中、忙しくてできなかったことをやりたいたと思っています。

読みかけてそのままになった本や買ったまま本棚に埋もれてしまっている本が数多くあり、それをまずゆっくり読むこと。

それから今はコロナ禍ではあまり遠出することはかたがたありませんが、『プラタモリ』のタモリさんのように、そして『男はつらいよ』の寅さんのように、全国各地をのんびりと巡って、日本の良さを再発見する旅にでること。

そして、趣味としている将棋や書道をしつくり心行くまで楽しむこと。

その他の新しいことにも挑戦したいと考えています。

なければいけませんでした。運動部と兼部する者や途中で他の部活を辞めて入部する生徒が少ない人数ながらおりましたので、何とか活動を続けることができました。

調布移転後は、書道ガールズの影響でしょいか、女子生徒が多数入部し、年間を通じて活発に活動するようになりました。少数だった男子部員はやがて入部する生徒がいなくなり、いつしか全員が女子生徒になり、男性は顧問一人だけになりました。

調布に移転して3年目の文化祭の時に、ホワイエで書道パフォーマンスをおこなったところ、大変好評で、その後、段々と規模を大きくして実施していくうちに、学校全体でも書道部の活動が目されるようになりました。今では第1体育館で行うまでになり、2年前には総明会の会報の取材を受けて、卒業生の皆様にもその活動の状況をお伝えすることができたのは大変うれしいことでした。

2018年度には書道パフォーマンス甲子園に初めて応募し、さらにその活動の幅を広げるようになりました。翌年には半年以上前から部員で話し合いを重ねて入念な準備をしてから、応募する動画の撮影を行いました。残念ながら、本大会への出場ができませんでした。残念ながら、本大会への出場ができませんでした。

現在は、コーチに大迫宏美先生、OGの松井萌々子さんのお二人にご指導いただいているおかげで、充実した活動ができています。文化部科学大臣奨励賞をはじめとする数々の賞を受賞することも多くなり、文化部の中でも最も活発に活動しているクラブになりました。

令和3年3月退任 星野均先生ご退任インタビュー



◎着任当初の思い出

私が明治大学付属明治高等学校・明治中学校に就職したのは偶然のことであった。私学協会の適性検査を受けていたところ、明治高校・中学校より学校の試験を受けないかという電話が入った。せっかくなので受けることにした。試験に合格し、数回の面接試験を通過し、採用となった。明治大学はよく知っていたが、付属高校・中学校のことは詳しくは知らなかった。研修の意味もあり、高校の卒業式に参加した。極めて厳格な雰囲気のもと、卒業式は実施された。かつて経験したことのない厳格さであり、驚いた。司会をご逝去されている松枝先生であった。就任最初の年度は、中学1年生の副担任であった。担任は学年主任を兼任していた櫻井正美先生であった。櫻井先生は面倒見が良く、細々としたことまで丁寧に教えてくださった。先生は生徒に対しても面倒見が良く、放課後生徒を残し、ホームルームを実施し、

◎猿楽町校舎の男子校から調布の男女共学校へ、変わったこと、変わらないこと

猿楽町の男子校から調布移転後の男女共学校になって大きく変わったことは、勉学の面で、明大への推薦基準に英検2級とTOEIC 450点以上を取得することが加わったことで、生徒諸君の英語に対する意識が変わり、飛躍的に英語の学力が向上したという点です。男子校時代は各学部より英語の学力をしっかりとつけてもらいたいと言った要望が常に見てきましたが、それが見事に解消され、むしろ、お褒めの言葉を頂戴するまでになったことが大きく変わったことだと思えます。常に高い目標を目指して努力することが大切であることを強く感じました。

変わらないことは、子どもたちが部活動や学校行事に情熱を傾けて熱心に取り組む姿勢です。特に全校挙げて行う学校行事の中で生徒諸君が一番楽しみにしている文化祭では、準備委員会の委員が身を粉にして活動する姿は今も昔も変わりがありません。様々な学校行事を通して一回りも二回りも大きく成長していく生徒たちの姿ほど輝いて見えるものはないと思います。2020年度の文化祭はコロナ禍で開催も危ぶまれましたが、準備委員の工夫でいつもとは違った、心に残る文化祭になりました。

◎今年の学年テーマ「エール」について

昨年のNHKの朝ドラで「エール」と題するドラマがありました。ちょうどコロナ禍で2ヶ月の臨時休業で学校がなかったこともあり、何十年ぶりかで朝ドラをずっと見ていました。

指導をされることがよくあった。1年目ということもあり、すべてが新鮮で、またたく間の1年であった。2年目は持ち上がりで、中学2年生の副担任であった。担任は学年主任を兼任していた清水紀夫先生であった。清水先生は生徒を掌握することが上手で、単刀直入に生徒を指導しておられた。ロングホームルームに必ず参加させてもらい、その指導法を学ばせていただいた。

櫻井先生と清水先生は生徒へのアプローチはずいぶん違っていたが、どちらも優れている、その後の私の教員人生に大きな影響を与えるものであった。感謝の気持ちを申し上げたい。

3年目は再度の中学2年生で担任となった。学年主任はご逝去された田村晴彦先生であった。田村先生は心温かい、丁寧な先生であった。一つ忘れられない思い出がある。特別課外講座の日、他の担任の先生は、出張等で学校に出講されない。私も研究日であったが、当日出講した。田村先生は私の顔を見ながら、教員室のロッカー裏に私を連れていき、「よくおいでくださいました」と言われ、握手をされた。私が生徒対応をし、田村先生は講師対応をされ、その課外講座はうまく終了した。

1年目の大きな思い出は林間学校であった。当時は春は遠足で、林間学校は夏休みに行ってた。その当時は長野県に南志賀学寮を保持していた。近くに牧場もあり、また

「エール」は昭和を代表する国民的作曲家の古関裕而をモデルにしたドラマですが、彼は数多くの、人々を励ます歌を作ってきました。彼の代表曲には、全国高等学校野球大会で流れる「栄冠は君に輝く」や焦土と化した戦後の日本を励ます歌として「長崎の鐘」があります。また、その他にも全国各地の学校の校歌や多くの会社の社歌なども作っています。

そして、応援歌として最も有名なのが早稲田大学の「紺碧の空」です。古関は早稲田大学だけではなく、慶應義塾大学の応援歌「我ぞ覇者」や明治大学の第3応援歌「紫紺の旗の下」にも作曲しています。

この「エール」というドラマでは、彼の曲に励まされる人々の姿が鮮やかに描かれましたが、あらためて歌の持つ力がいかに大きいものかということを強く感じました。

2020年度はコロナ禍で多くの学校行事が縮小や中止になり、全校生徒が集まって校歌や応援指導班による応援歌を歌う姿を見ることがありませんでした。

◎先生にとっての明治高校とは

私にとって明治高校は人生の大半を過ごした大切な職場であり、また自分を成長させてくれた場であったと思います。

笠岳があり、そこに登山をした。南志賀学寮は大部屋で、クラスごとに1部屋利用し就寝していた。ある夜、教員でミーティングをしていたところ、生徒の代表が来て生徒が騒いでいて寝られないと言われた。静かにさせるために部屋に行ったところ、生徒は静かになり、私はそのまま生徒とともにしばらく寝てしまった。懐かしい思い出である。

◎部活動に関して

部活動の顧問に関しては、就任1年目はバドミントン部の副顧問になった。正顧問は安部先生であった。高校生を安部先生が担当し、中学生を私が担当した。合宿にも夏、春と参加した。また保護者会にも出席した。部活動の顧問の在り方に関しては安部先生から学んだことが大きかった。

私は中学生の時卓球をやっている、卓球部の生徒と一度格技室で卓球をやったところ、その情報が藤田先生に伝わり、金井教頭先生より、次年度より卓球部に移るよう言われた。就任2年目より卓球部の正顧問となったのである。当時バドミントン部は2名、卓球部は1名の顧問体制であった。

私が就任した当時、合宿は5泊6日であった。それより何年か前は6泊7日だったそうである。合宿には大学生が数名参加して、かなり厳しい練習をやっていた。あまりに厳しく食事の時すぐに食べられないような時もあった。

何年か後、OB会より現役の生徒の支援として卓球大会が行われるようになった。現役対OB戦では常にOBの方が勝利していた。OBの方は現役時代かなりの戦績を残

していた人がたくさんいた。その中に元全日本チャンピオンの前原正浩氏がいる。

前原氏には猿楽町校舎で全日本の現役選手との模範試合を見せていただいたこと、また男子オリンピック代表選手の合宿の様子を見せていただいた事がある。高校生とともに観覧したが、準備運動を極めて念入りに行なっていたことが記憶に残っている。

私が顧問をしていたときに大会で活躍した生徒では、東京都私学選手権大会で中学ダブルスベスト8に入った宅間・松沢ペア、東京都中学校卓球選手権大会シングルスで数回勝ち進んだ佐藤がいる。彼らの他にも様々に活躍した生徒も多い。小岩先生に正顧問を代わってから高校団体戦とダブルス栗原・菅野ペアの関東大会出場は記憶に新しい。

◎男子校から共学校へ

猿楽町から調布校舎へ移転して変わったことは、もちろん共学化である。男子校の時強くあつたバンカラな風は姿を隠し、より洗練された風が姿を現した。当然のことと思うが、男子は女子の視線を意識し、慎重に発言し行動する。しかしながら昔から変わらないこともある。生徒同士が結びつく団結心や生徒から進んで物事を推し進めようとする、独立自治の風だ。

もう一つ大きな変化をしているのは、生徒の英語に対しての取り組みであろう。明治大学への推薦基準に英検2級取得が入ったこと。またTOEICで一定の点数以上の成果を出すこと。明治中学から明治高校への推薦基準に英検準2級1次試験合格以上を

課せられたこと。生徒はこれらの基準を満たすために努力する。もともと素質のある生徒であるので、ほぼ全員が基準を満たすことができるのだ。

◎エールを送る

このコロナ禍でやりたいことも思うようにできなく、黙々と仕事をこなしている皆さん。明けぬ夜はありません。必ずやこの災厄もいずれ終息を迎えるでしょう。それまで希望を胸に頑張ってください。

◎明治高校・明治中学校とは

私にとつての明治高校・明治中学校とは、私を育てた親のようでもあり、また同じ目標に向かって歩くパートナーの様なものでもあつた。教えることは教師が学ぶことと言えるかもしれない。その意味で明治高校・明治中学校でたくさん学ばせていただいた。私を育てた親の様な存在である。また一つの目標にともに歩んできたパートナーの様な存在であると言えるかもしれない。

◎今後の過ごし方

今後は群馬県に在る老親(両親)の世話、介護をするつもりだ。今まで好きなように生きてきた自分としては、最後に老親を看取りたいと考えている。その後は未定である。

台列車)に乗車。高崎を過ぎ、明日のことを考えながら床につく。早朝、起きてみるとなんとそこは水上駅!降雪のため機関車の動輪が空転する恐れがあるため水上で運転を停止したとのこと。すぐに高崎にもどり、新幹線改札で「あけぼの運行停止による便宜乗車」と言つて東北新幹線に乗り換えて青森まで。二度の便宜乗車体験者ははずいいないだろう。

その4 夏の北陸合宿の時のこと。当時は越後湯沢でほくほく線經由の特急列車乗換えて富山に行くのがメインルートだった(北陸新幹線未開通のため)。東京駅で集合したところ北陸方面豪雨のため、越後湯沢からの特急列車は運転見合わせ。合宿中止も考えたが、復旧の見込みありという情報が入ったので合宿続行。越後湯沢まで新幹線で行き、そこからほくほく線普通列車で直江津まで(顧問はなんとか席を確保)。直江津に着くと、特急はまだ運転していないが普通列車は運行という情報があり、普通列車に乗って富山駅まで。

このようなアクシデントがあるたびに部員が情報収集・対策の検討をしてくれたおかげで事故なく合宿を行うことができた。紙面を借りて時の部員達に感謝したい。

◎天気図ノート 千代田区の公立中学校で非常勤講師をしていた時のこと。ベテランの理科教師から「天気図を一例に貼つていくと、高気圧や低気圧などの動きを説明するのに都合がいいよ」というアドバイスを受けた。そこで、明治中学で実施することになった。真面目な生徒はコメントもしつかりした内容で優秀なノートをつくってくれた。

一方、新聞から天気図を切り取り、ノートに貼るのは保護者!という生徒もいたようだ。時代が流れ、新聞をとらない家庭が出てきたため天気図ノートの中止。それにかえて雲レポートを開始。自分自身が雲や空の現象の写真を撮影していたこともあり、それを生徒にもやらせてみた。内容は、月の終わりに雲の写真とその説明を書いてレポート用紙1枚にまとめるというもの。下を向いてスマホを見ないで、上を向いて空を眺める...自然観察の第一歩という意味も込めて実施した。虹・稲妻の他、美しい朝焼け・夕焼け、降雪珍しいものでは、種子島でロケット打ち上げによつてできた夜光雲等々、教材としても使えるようなものが集まった。自分が撮影したものをつくか紹介してみよう。太陽と月は画像を加工して貼り合せたもの。

◎鎌倉 私学研修会でお世話になった先生から「退職の十年前から退職後にやることを考えよう」と言われた。住んでいる所が茅ヶ崎なので、「それでは鎌倉散策を始めよう」ということになった。鎌倉の神社仏閣ばかりでなく、ハイキングコース(結構アップダウンが激しい)を歩き植物の観察、季節の花の撮影、地層見学、海で蜃気楼の観察などを始めた。もちろん、昼食は現地となるので古民家カフェなどの散策も行った。2020年度はコロナの影響で三月以降訪れていないが、いずれ再開を!と考えている。ここで鎌倉の写真を。

以上、思いつくまま書いてみた。今年度幹事学年の皆様にはコロナ対応で大変かと思いますが、「コロナの中の総明会」実施をお願いしたい。

令和3年3月退任
則茂雄先生ご退任インタビュー



明治高等学校中学校に勤務して34年。さまざまな思い出があるが、思いつくまま書いてみたいと思う。

◎ノリ棒 奉職した時は靴べらを使い、「則茂雄」として恐れられていた。靴べらを使い始めたのは、台東区立中学校で非常勤講師をしていた時に専任の先生が使用されていたのをまねて使い始めたもの。弾力があり、かつ角の部分を使うとそこその威力があつた。棒にかえたのは、足に使うものを頭に使うのは...と考えたことから。靴べらも棒も破損すること更新したので、最新のものは5年ほど前から使用。退職にあたり、図書館に寄贈。

◎鉄道研究部 明治高校を五年かけて卒業したE君から有志鉄道の顧問を引き受けたのがきっかけ。その後、目度く部活動に昇格。引き続き顧問することになった。生徒達の熱意により文化祭では度々賞を受けることとなった。合宿では、めつたに体験でき

ないことを複数体験することができた?)

その1 夜行寝台列車(今は無き「富士」と「はやぶさ」)を利用して九州方面に行った時のこと。明方、寝台の外から体をつく者がいて目覚める。車掌だった。車掌曰く「関西地区での人身事故のためこの列車は予定より遅れて走行しています。このままこの列車に乗って大分まで行くと、乗り継ぎになつている熊本行き特急気動車に乗れません。小倉で電車特急に乗換えると乗り継ぎができます」と言われた。生徒を起し、訳を話して小倉で乗り継ぎ。事故による遅延のため、特急の自由席に乗車可とのこと。無事乗り継いで熊本到着。

その2 往復寝台列車富士を利用して別府方面に行った時のこと。朝、部員が「大変です。東海地方が豪雨のため、我々が乗る富士が連休となります」早速別府駅で事情を話すと、「とりあえず小倉まで行ってそこで聞いてください」。小倉駅についてところで旅行を手配してくれた旅行業者に電話をする。「帰りの寝台特急券を払い戻しをして新たに新幹線の切符を買うか、便宜乗車と言つて払い戻しはしないで新幹線の自由席を利用する方法があります」と言われる。払い戻し+新たに新幹線切符購入だと、余分に費用がかかる場合もあるとのこと便宜乗車を選択。夕方、無事に東京駅到着。

その3 冬合宿で青森・函館周辺に行った時のこと。上野発夜行寝台特急あけぼの(上越線・羽越本線・奥羽本線經由青森行き寝



太陽の周りにできた暈



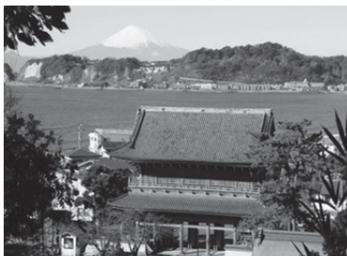
月と金星



最大の太陽と最小の太陽



最大の月と最小の月



めいしゅんかい

明駿会 昭和36年卒 向殿 政男

午年生まれ駿馬と駿河台を掛けて命名した明駿会は、これまで2年に1回開催してきましたが、このコロナ禍で開催を中止しています。何といてもほとんどが今年で79歳になるのですから、コロナには注意です。しかし、高齢者の特権で、ほとんどはワクチンを既に2回打っている人が多く、そろそろ皆、動き出さなくてはならず出しています。

明駿会には、色々と仲間を集めて活動しているグループが多く、その中でも最も盛んで長く続いているのは、「明駿会ゴルフ」です。石川守也君が幹事役を引き受けてくれています。昨年は、コロナ禍の中、10月に中山カントリークラブで第46回を開催しました。写真は、その前の年の春季の44回のもので13名が参加して、まったく元気な駿馬たちです。歳を取ったら、仲間が集まること、好きなことをやること、これに尽きますね。その最たるものが、この明駿会ゴルフでしょう。

1993年11月13日に同好の士が参集し、千葉廣済堂CCで第1回コンペを開催して来ましたが、喜寿を超え同好の士が年々減少し残念です。年2回の再会を楽しみにゴルフを楽しんでいます。



にねんにいっかい

二年に一会 昭和38年卒 三浦 昭生**喜寿迎え私たちの同期会も取り戻すMeijiのエールを**

母校を卒業して早60年、77歳の喜寿。昭和38年卒の「二年に一会」(会長・三浦昭生)です。卒業の翌年に第1回総会を開催してから会名のとおり「2年に1回」これまで一度も欠かさず開催してまいりました。学生時からスタートし半世紀も続いていられるのは同期生の頑張り。開催ごとに当番幹事を選びテーマを決めて引き継がれているからです。平成2年、総明会の幹事学年を拝命して仲間の絆はさらに強くなり、60歳の還暦、猿楽町校舎でのサヨナラ授業。平成20年以降は毎年開いています。母校創立100周年の平成24年は卒業50年、第30回記念は横浜・中華街。令和元年は後期高齢者のスタートでした。(写真は第33回 明大リパティタワー)

残念ながらコロナ禍には勝てず、昨年は中止。本年も懇親会は中止の方向で同期生全員から近況報告を受け取り冊子にまとめ誌上第36回「二年に一会」とする予定であります。幹事学年の後輩諸兄におかれましてはコロナ禍にめげず、活動テーマ「エールーリカバリーだ Meiji!」でエールを送ってください。本会も同期生にエールを送り、早く元の生活を取り戻せることを祈念し「二年に一会」を続けてゆきます。最後に連絡先を記し同期会報告とします。(文責・服部 紀夫)

〒135-0005東京都江東区高橋14-20-801 関戸 淳一
TEL/FAX 03-3631-2008 Mobile 090-4390-9355 E-mail sekido-e@amail.plala.or.jp



さんきゅうかい&いいなかい

39会&一一七会 昭和39年卒 佐藤 仁

昭和39年の卒業の年の春、生徒会本部OBが中心となり銀座の歌茶屋に集まったのが始まりの「一一七会」(創立記念日1月17日にちなんだ名称)以来毎年必ず新年会を兼ねて1月下旬に同期の北村君のお店、日本橋東洋地下一階「畔居」に57年間継続して集ってきました。同期のメンバーの固い絆と定例会場が日本橋という最高の場所に同期の北村君のお店がある等好条件にめぐまれましたが、なんと集って来る我々同期の熱い思いがあってこそ57年間も続けてきたと思います。39会も「一一七会」のメンバーが中心に3~4年に1回は必ず開催しています。

途切れず開催して来た「一一七会」が今年はこのコロナ禍残念ながら未だ開けません。なんとしても年1回の開催を途切れないうち今年中の開催をしたいと思っています。同期は皆、後期高齢者、無事に2回のワクチン接種を済ませてなんとか今年中に集まれればと願うばかりです。

39会の同期は来年77才になります。来年秋には是非「喜寿を祝う会」として39会を盛大に元気にまた日本橋東洋の2Fに集まりたいと思います。写真は今年4月に実施した第68回39会ゴルフコンペ(年2回開催)於中山C. C.、元気な9名が集まりました!



OB・OG 活動報告

OB・OG

ACTIVITY REPORT

2021

めいらくかい

明楽会 昭和31年卒 佐藤 健一

コロナ禍の中、2年間にわたり同期会開催が出来ず困っている次第、総明会総会、ゴルフ大会等一堂に会えず先輩、後輩の顔見せも遠ざかっている今、先細りとなって来る我々には淋しい限りです。元気な我々老人仲間には此の2年間開催出来ずにいる中、多くの仲間が他界して去き早くコロナの終息を待っている次第、何十年と続いている年1回(毎年11月第1金曜日開催)の同期会も2年間開催出来ず1日も早く再開を望んでいます。

我々は人生2度世界の大恐慌(第二次世界大戦・今回のコロナ禍)を乗り越えてきた我々に此の試練を我慢しています。

本年も東京開催の2回目の夏季オリンピックを迎えることも長寿の特典と喜んでおります。1日も早く総明会の開催を心より待ち望んでいます。我々「明楽会」も早期に開催出来る事期待してやみません。

一人でも多くの会員の長寿を望む事は会員各位が再会して過去を振り返り未来へ向けて話に花を咲かせることだと思います。来年こそコロナも終息して元気な姿での再開を期待してやみません。

此の時期に大変ですが会の益々の発展にご尽力頂いている総明会幹事学年諸氏に敬意と感謝を表します。1日も早く総明会運営が平常に戻る事を期待してやみません。

きゅうかい

旧雨会 昭和34年卒 秋山 義昭**アナログ名簿かデジタル名簿か? 「旧雨会」には永久保存版名簿がある。**

Covid-19禍で、7月12日に4回目の緊急事態宣言の発令。東京五輪は1都3県の全会場で無観客開催が決定しました。開催まで11日間前の時点での決定である。我々「旧雨会」は“安心・安全”で開催するために、今年も中止せざるを得ないのが現状です。

昨年の4月には50名の予約をして、記念すべき「旧雨会・傘寿の会」を開催すべき準備を進めていたのですが、新型コロナウイルス禍で中止の決断をいたしました。総明会の活動報告を見てみると、投稿に参加している上位の学年では、私どもの先輩は2学年のみになってしまった。総明会にエールを送るということですが、いつのまにか大先輩になってしまっているのですね。

なぜ我々の学年がまとまっているのかの源は、保存版旧雨会名簿(A4判・16P・4色)にあります。名簿は読みやすくレイアウト、大きな文字、懐かしい猿楽町の校舎、お世話になった各組恩師の写真及び思い出話など、思い出がぎゅぎゅ詰まっております。デジタル化が進み、同期会名簿を作成するにあたっては、名簿のみをPCに打ち込み、それをプリントアウトして使用するのが一般的ですが、それではただの住所録になってしまふ。個人情報漏洩の危険もあります。心こもった、記念になるアナログ名簿の作成をお勧めします。旧雨会の名簿の作成については、編集には力を入れて、デザインにつきましてはエディトリアルデザイナーに依頼して1年がかりで制作したものです。フォーマットを参考にすれば流用は可能です。まだ余丁が若干ありますので、名簿作成に意欲的な総明会の学年に、一冊限定で差し上げます。それと、同学年で名簿を「何処に仕舞ったか」お忘れになった方、下記宛に連絡ください。最後に「ゴルフ会・旧雨会」の両幹事でありました福島正太郎氏が2020年9月4日逝去いたしましたことをここに報告いたします。ご冥福をお祈りいたします。(2021年7月14日・記)



【明治高校昭和34年卒】旧雨会担当窓口 秋山義昭
連絡先: ☎164-0011 中野区中央4-42-5 Tel.Fax/03-3382-4187 メールアドレス aki3583@gmail.com

おとこざかくらぶ

男坂倶楽部 昭和44年卒 藁谷 豊**70歳の手習い**

男坂倶楽部 藁谷です。私達男坂倶楽部の仲間は去年も落第を出さずに、全員古希になりました。古希を迎え何かをしたいと思っていましたが、その時に目の前に浅間山がありました。

突然浅間山に登りたいという欲求に駆られ、中学からの友人である岩瀬君に相談したところ、気持ちよく受け入れてくれ、又同じく中学からの友人佐藤通義君と共に浅間山行きを考えてくれました。しかしながら浅間山は噴火中のため、登れないことがわかりました。

そこでやむを得ず予定を変えて浅間山の並びにある黒斑山(標高 2404 m)に登る事になりました。登山は中々厳しいのですが友人2人に助けられ、無事に山頂につきました。そのあと蛇骨岳(標高 2366 m)まで足をのぼし、山頂でのお昼ご飯となりました。お昼ご飯はコンビニのおにぎりでしたがどんな高級レストランの食事よりもおいしかったです。

その後も武甲山や棒ノ折れなど楽しい山登りを友人達と楽しんでいます。今年の目標は富士山です。日々トレーニングを重ねて山頂でのおにぎりを楽しみに登ってみたいと思っています。男坂クラブの皆さん、一緒に登ろうよ。



ししのかい

獅子の会 昭和45年卒 吉田 亮一

我々昭和44年度卒同期会である獅子の会は、平成23年4月に自分たちの還暦の祝いを神田明神にて行いました。次は令和2年に数え年で古希を迎えるため、明治高校卒業後50周年にちなみ、やはり神田明神に集合する予定で、比留間君はじめ多くの同級生が準備を進めていましたが、新型コロナ感染のため残念ながら、昨年、本年と延期を余儀なくされました。しかし今のコロナ禍においても、めげることなく来年に向け、健康やそれぞれの立場で仕事を維持し、必ずや来年は神田明神へ行けることを信じ、日々頑張っています。

70歳の古希を迎える年齢になると、やはり日々身体的な問題が出現して来ております。吉田は明治高校卒業後、昭和45年に日本医科大学へ進み昭和51年医師になり、現在浴風会病院の名誉院長という肩書きで、日々診療をしています。毎月第3木曜日の午後は、明治高校関連の患者さんの外来を実施しています。同級生ばかりでなく、配偶者や後輩、それらの方々の知人も受診しています。専門は脳神経内科のため、まずは皆さんに脳のMRI検査などを受けて頂いておりますが、実際の外来では、脳血管疾患や認知症の原因となる高血圧、脂質異常症、糖尿病など生活習慣病を多く診療しています。

現状はまだ医療機関はもとより、飲食など多くの業界が苦戦しています。ワクチン接種の普及や研究中の治療薬の実用化、感染に関する皆さんの予防対策などにより、コロナに負けない通常活動が可能になる事を願っております。



めいちょうかい

明潮会 昭和46年卒 大島 均

国難のコロナ禍、先ずは総明会ホスト学年の隆明会、総明会役員のご尽力に心よりエールを送ります。今年我が明潮会は卒50年、来年古希を迎える事になりました。人生の約80%を経過し余命は少なくなって参りました。残された時間はすべて自分のものではあります。大事に有意義に過ごしたいと思っております。

明治高校で得たものはたくさんありますが、何と言っても素晴らしい友と出会えた事です。その友を思う気持は還暦を過ぎた頃より高まった気がします。子供も独立し孫もでき仕事からも解放された今、青春時代を送った懐かしい友との絆を再確認したい気持ちでしょうか。明潮会の行事に参加してくれる仲間も増えてきました。3度程十数人で我家の屋上にてスカイツリー、隅田川の花火を目でながらバーベキューで盛り上げた事がありました。酒屋まぐろ屋が居るので飲食には困りません。援団OBも複数含まれていたのが終わりには必ず校歌でエールを頂きました。母も一緒に腕を振り感激の涙を流し明治を出して良かったと喜んでおりました。声高らかに響き渡り近所迷惑と2度目からは室内のエールに変更したエピソードもありました。各会の横の繋がり、又総明会の縦の繋がり、明治には紫紺魂で結ばれた良き伝統があります。コロナと言う大きな壁に各会、総明会も活動中止を余儀なくされてはおりますが、終息後には一同に会しエールを交換したいと念願しています。それ程先にはならないはずですが、それまでは免疫力を高め心身共に健康を保ち明治の会でスクラムを組み力一杯前進したいと思います。明潮会も昨年4代目の会長が誕生しました。その新会長を中心に1年でも長くかけがえのない友と会を継続できるように結集して行きたい! 皆さんご協力の程宜しくお願い致します。

めいゆうかい

明優会 昭和40年卒 阿部 正行**明優会に思う事**

およそ30年前に総明会幹事学年を拝命しました。発起人となった同期より召集がかかり、上野のとあるホールに確か92名の同期が集まり、その時に一人2万円の寄付を徴収されました。それを元手に実行委員長の荒木君を中心に会合を重ね、椿山荘にて総明会総会・懇親会が開催されました。予想以上の会員が集まり、お土産の明治のロゴ入りベスト(照田君の会社で製造)が足りなくなった程でした。

その後それまで小規模で開催された同期会が、活発に行われ、更に旅行・ゴルフの会である期楽会も立ち上がりました。実行委員会発足時に集めた資金を有効に使い、今でも1年1度の明優会・2度のゴルフの会は続いています。私共の同期は個性派ぞろいで、喧々諤々と議論はしますが、決まればワンチームで行動を起こすと言う学年です。集まればいろいろな話題に花が咲きます。この先何年続くのかは判りませんが、私は毎年友人の顔を見るのが楽しく、出来れば5年・10年と続く事を願っています。

若い会員の人達も幹事学年担当後、また一つ違った同期の付き合いが始まると思うので、46歳の年を大切に迎えてくれる事を願っています。



よんいちめいゆうかい

四一明友会 昭和41年卒 廣瀬 準

いつも大変お世話になっております。

コロナ禍の中でも頑張っている皆様に敬意を表しております。同期会につきましては長く中断し、大変残念に思っています。

「エールーリカバリーだ Meiji!-」の交流もなく、あまり私の仲間から連絡もない状況です。本当に申し訳ございません。



えむよんじゅういち

M41 昭和42年卒 伊藤 謙一**2022年こそ 元気に開催しよう!!**

予想もしなかった同期会2度の中止!

緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の繰り返し、さらにオリンピック・パラリンピックの開催を控えた大変な状況となっております。しかしワクチン接種の進展などで、何とか年内には混乱状況は解消出来ると願っています。そこで2022年度には、安心してそれぞれの総会・同期会等が開催されることを念じております。元気に「エールーリカバリーだ Meiji!-」と叫びましょう。

我々M41同期も卒業50年以上が経ち、70歳を超え足元が少しずつ不安の方も増えつつ、一方まだ十分に活力溢れている方もいらっしゃいます。

そのため幹事団で議論を戦わせた結果、開催時間を従来の夕方から午後1時といたしました。また会場もJR御茶の水駅、地下鉄 新お茶の水駅近くの設定を考えております。開催時期は今のところ6月上旬を予定しておりますが、詳細はいつもの往復はがきにてお知らせいたします。是非多くの参加(前回30名ですが、今回50名以上)を期待しております。

幹事団: 朝貝省吾・伊藤謙一・倉又光仁・後藤孝男・佐藤茂和・町田菊男・村西一郎



だんしこうこんじょうぐみ

男子校根性組 昭和52年卒 **佐藤 大英**

総明会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。令和3年度を迎えまして、私達は依然としてコロナ禍に見舞われています。今年幹事学年の掲げたテーマは「エールーリカバリーだ Meiji!」だそうですですが、リカバリーできるのは何時のことやらと、不安に駆られているところがございます。嘘と誤魔化しの政治にさしたる期待も持たず、優秀ともいわれていた公務員も、もはや一片の正義感・倫理観の感じられない有様で、巷で言われている上級国民や、一握りの富裕層によって食べ物にされている日本の行く末が本当に心配です。哲学教育のない日本は、もはや野蛮人の国となってしまいました。ノブレスオブリージュという考えがいつの間にか消え去り、拝金主義的な世の中が作られてしまいました。

1960年代に、銀幕に現れた無責任男、植木等さんが歌っていた「金のない奴は俺とこへ来い、俺もないけど心配するな、見ろよ青い空、青い海、そのうち何とかなるだろう」当時は、多くの人は貧しかったけれど、戦争もないし、高度成長社会到来で、そこはかたわい明さが漂っていたような気がします。根底には、信頼に足る国家があったのではないかと想像します。

今、62歳を迎え同窓会の構成の中では、先輩よりも後輩の方が遙かに多くなり、高齢者として懇親会には着席で参加できる歳になってしまった私は、優秀な後輩たちによる、良い日本の再生、リカバリーを期待するしかありません。

明治魂とは、どんなことを指すのかは私には良くわかりませんが、「正義の鐘を打ちて鳴らさむ」と校歌が締めくくられている学び舎の学生生徒として、どうぞ正しい生き方をさせていただくよう切に希望いたします。

めいせいはい

明誠会 昭和54年卒 **志村和哉**

54と言えば、沖縄八重山の「みんな織」が思い浮かびます。「いつ(五つ)の世(四つ)までも末永く」という思いを込めた五つと四つの洒落た緋柄の織物です。我々54年卒の明誠会も、みんな織にあやかかって、「いつの世までも同級生」の深い絆で繋がっていかれたと思います。

この4月1日をもって、同期全員が還暦を迎えた明誠会の面々、定年やら年金やら介護やら、自身の健康やら問題も山積ですが前を向いて歩いていきたいですね。さて我々が生まれた60年前は、どんな時代だったのでしょうか。流行語は「家つきカーつきババア抜き」、ヒット曲は橋幸夫の「潮来笠」、映画は「ベンハー」「独裁者」「太陽がいっぱい」が公開されました。令和天皇の浩宮様も、1学年先輩ですが昭和35年の2月生まれです。それ故に、明誠会には「浩」がつく名前が多いのです。

それでは時系列で、当時の出来事を振り返ってみようと思います。ざっとかいつまんでみましたが、色んなことがありました。もちろん生まれたての赤ちゃんに当時の記憶はありません。それでも、どこか懐かしく思ってしまうのはなぜでしょう。

あれから60年、この国も我々も成長してきました。この先はどんな出来事を見つめ、そしてどんな人達と出逢うのでしょうか。いずれにせよ穏やかで、でもワクワクした日々を送りたいですね。そして「いつの世までも末永く」。

1960年(昭和35年)	9月10日	12月2日
4月：タカラが「ダッコちゃん」発売。180円でした。	日本でカラーテレビの本放送開始。	石原裕次郎と北原三枝が結婚。
4月12日：日産「セドリック」発売。2004年まで生産された。	10月2日：大洋が6年連続最下位からセ・リーグ優勝。	12月4日：都営1号線の増上と浅草橋間が開業、京成電鉄と日本初の地下鉄と郊外電車の相互乗り入れ開始。
4月23日：麒麟麦酒が缶ビール発売。	10月12日：日本社会党の浅沼喜久郎、暗殺事件。	12月12日：日米コカコーラボトリング設立。
6月1日：ロッテ「ケールミントガム」発売。	10月15日：日本シリーズ、大洋が大海を4連勝で下す。	
4月30日：ソニーが世界初の「トランススタテレビ」を発売。	10月24日：「ベルマーク」運動が始まる。	1961年(昭和36年)
6月1日：ロッテ「ケールミントガム」発売。	11月：九州場所で大鵬が初優勝、大関に昇進する。	1月15日：横浜マリニタワー開業。
6月20日：日本専売公社「ハイライト」発売。	11月1日：花王石鹼が日本初の住宅用洗剤「マイベツ」を発売。	1月20日：ジョン・F・ケネディ、第35代アメリカ大統領に就任。
7月1日：興羽化学工業が「クレソップ」発売。	11月1日：ダイハツ「ハイゼット」発売。	2月21日：日活のスター赤木圭一郎、事故で死亡。
7月19日：日本初の女性大臣、中山マサ子(山本マサ子)誕生。	11月19日：巨人の監督に川上哲治が就任。	3月28日：東京清浄局が路上に設置していたゴミ箱を撤去。
8月1日：森永製菓が日本初の「インスタントコービー」発売。	11月29日：ラジオ東京が東京放送(TBS)に社名変更。	
8月25日：ローマオリンピック開幕。	12月	
	石川島播磨重工業発足。	

めいしようかい

明翔会 昭和56年卒 **吉田 英晃**

令和3年度も都内では、緊急事態宣言が発令されコロナの猛威が世の中を駆け回っている現状です。今年度も幹事学年「隆明会」はそんな中、総明会総会準備と会報準備で大変奮闘し大いに活動されていることと思います。今年の総明会のテーマ「エールーリカバリーだ Meiji!」と聞き、コロナ禍において励ましの応援歌であることに強く共感させられました。私たち昭和56年卒「明翔会」は、来年で60歳の還暦を迎えます。それに伴い、コロナ禍ではありますが、人生の節目の年として還暦の総会・懇親会を予定しております。14年前に私たちも皆様と同じように総明会の幹事学年として同期が集まり、総明会の総会・懇親会を開催しました。その後毎年楽しい同期会『明翔会』を行っております。現状、コロナ禍でも我慢の限界を迎えている仲間も多くいると思います。今、コロナワクチン接種が急ピッチで行っている最中、何とか来年にはコロナ前の状態に戻ることを願っています。

私も今年の1月に不幸にもコロナに感染してしまいました。感染ルートは不明です。その間、家族にも職場にも多大なご迷惑を掛けてしまいました。後遺症が無かったことだけが幸いでした。総明会の皆様方もくれぐれも手洗い、うがい、消毒を心掛けてコロナ感染しないように切にお祈りしています。最後に『隆明会』の更なる活躍と総明会のメンバーのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

よなよなどうしようかい

四七四七同志酔会 昭和47年卒 **廣野 宏士**

昭和47年(1972年)卒業の四七四七同志酔会です。ホスト学年は、平成11年(1999年)に務めさせて戴きました。会場は、日比谷の帝国ホテルで、430名という多数のご光臨を賜りました。ご来賓の皆様の中には、高校の教職員の方々(もとより)、大学の三長[当時、明治大学は三長制(理事長、総長、学長)を施していました]、国会議員(野党党首)等々、錚々たる方々のご出席くださいました。この場を借りて、改めてお礼申し上げます。あれから22年の月日が経ったわけで、正に『駒の隙を過ぐるが如し』の感があります。

ホスト学年にあたり、我々は2つのスローガンを打ち立てました。『40歳を過ぎてからの、人間関係の再構築』、『同級生同志、お互いがお互いの人生にエールを送り合おう』これを合言葉にしながら1996年頃から準備に入りました。ホスト学年を終えた今でも、このイズムを忘れずに、同級生の交流は続いています。しかし、月日の経過は、非情なものです。実行委員として、共に汗した鈴木信夫君、南島孝君は、既に鬼籍に入りました。実行委員の他にも、彼岸へ旅立った同級生はおり、寂しいかぎりです。同窓会は、思い立った時に、不定期に開催しています。2013年には、明治大学・紫紺館で「還暦を祝う会」(約80名の出席)を開催しました。

同級生諸君、あと数年で我々は「古稀」を迎えます。祝う会を催したいと考えています。ここ2年は、コロナウイルス蔓延の影響で、会うこともままならず、忸怩たる日々が続いていますが、笑顔で会える日を楽しみにしています。どうか、その日までお体を大事に過ごしてください。

めいしかい

明紫会 昭和50年卒 **町田 純一**

私達明紫会は、2002年の総明会幹事学年の前年に結成し、以来毎年6月前後に同期会を開催しております。ここ数年は、同期の窪寺弘匡が経営する中野のハワイアン・パブ「マハロア」に集まり、懐かしいキャンディーズやピンクレディのコピーバンドを呼んで皆で盛り上がっていました。会の最後には応援指導班の三森動がリーダーを、吹奏楽班の私が楽器演奏をして、皆でスクラムを組んで校歌を歌って明高時代を懐かしんでいました。

しかし残念ながら皆様と同様に、昨年・本年と2年続けてコロナ禍のため懇親会を開催できず、残念な思いをしています。私達の学年も本年度で早や65歳、前期高齢者になります。若い時とは体調が違ってきていることを、自覚せざるを得ない年齢です。明紫会で同期と騒ぎ、総明会で同窓の皆さんと親しむ時間が、ますます貴重になってきました。本年度のテーマは「エールーリカバリーだ Meiji!」とのこと。飲食店はじめ経営者の皆様は、現在大変なご苦労をされていると思います。コロナの不安が払拭され、明紫会で、総明会で、再び皆様と共にスクラムを組んで校歌を歌える日が早く来ますように、それまでは明高精神で頑張りましょう！

めいめいはい

明々会 昭和51年卒 **島田 一**

明々会は、第39回総明会(2003年11月)の幹事を拝命した頃から強い結束が醸成されて行きました。より多くの同期を集めようと声をかけ、吉田義人氏による記念講演、浅草サンバカーニバル優勝チームによるアトラクションなどを実現するために懸命となり多くの汗をかきました。また、総明会の先輩方の暖かいご支援も忘れられません。今年の総明会幹事の隆明会の諸君にも、熱いエールを贈りたいと思います。

萩原秀紀明々会会長の下、明々会も回を重ね、浅草神社で還暦を祝い、長寿御守を授かりました。ハッピーリタイアする者、ワークライフバランスを考える者など、仕事でも第二の人生を迎え、さらには井家上哲史君が総明会会長に就任し、ますます明々会メンバーでの交流が盛んになろうとしていた矢先でのコロナ禍。明々会総会、総明会総会が中止となる状況の中、明治高校硬式野球部のコーチに山田真也君が就任するという明るい話題がありました。人間力ある選手の育成に期待をしています。

明々会はこれから20年も30年も、明治中学・高等学校OBとしての誇りを胸に、そして明々会の名称の由来である「明るく」をモットーに人生を楽しんで行こうと思っています。総明会が我々の人生を豊かにしてくれた。

頑張れ!! 井家上総明会会長! 頑張ろう!! 全ての総明会会員!

とうこんかい 闘紺会 昭和60年卒 渡辺 智郎



総明会の海賊たち

コロナ禍で楽しみにしていた同期会も昨年・今年と中止。行き場のないストレスの蓄積も限界に到達しています。

そのような中、同期を中心に多学年にわたる同窓の皆さんと、海釣りに勤しんでおります。“総明会の海賊たち”と銘打ち(非公認)、密を避け、ソーシャルディスタンスを守り、船上に集いし同期の織田・服部・阿部・植村・矢澤の各君を筆頭に先輩・同期・後輩の交友の輪を広げております。

先日昨年の幹事学年、明鐘会の伏原事務局長が参戦。東京湾のマダコを釣ってまいりました。釣り好きの伏原君もマダコは初めてのことながら、なかなか大きいサイズを四杯釣り上げ、ご満悦。大変な環境の中で総明会幹事学年の活動お疲れ様でした。男子校根性組の石黒先輩ご夫婦をはじめ、明心会・島村先輩・赤堀先輩、新世輝の横山君、昭和戊辰乃会・小柳君・田嶋君・浅見君、平成改元会の瀧君など幅広い年代の総明会員と、大海原での同窓会を繰り広げています。釣果はもちろんおなじみの闘紺会同期・新小岩の玉寿司 手東大将の手により、刺身に焼き物に煮つけにと新鮮さと包丁さばきが相まってこれまた杯が進むこと進むこと。北は鹿島港から東京湾、西は相模湾茅ヶ崎まで幅広く、アジ・キス・マゴチ・タコ・ワラサ他、多くの魚をターゲットに、今後も続けていきたいと思っております。ご興味をお持ちの方、これから海釣りを始めたい方、下記までお気軽にご連絡をお待ちしております。是非ご参加ください!!

昭和60年卒 闘紺会 渡辺智郎 watanabetomoo@gmail.com

めいえんかい 明猿会 昭和62年卒 志摩 哲

中国で新型コロナウイルスが発生したというニュースを耳にしたのが一昨年の年末。すぐに終息するだろうとあまり気にも止めていなかったあの時から、早一年半。世界中いろいろと大変な状況です。収入減、失業、夫婦喧嘩etc…中にはもっと大きな影響を受けている方もいらっしゃるかもしれません。新型コロナの影響について“私も然り”と続けたいところですが、私はそのもっと前に収入源も、一度ではない失業も、大きな夫婦喧嘩も経験しました。

北陸金沢に移住し四半世紀以上過ごす中で、よくまあ家族と家のローンを抱えて決行したものだとは今では多少笑っている“転職”を8回。専業主婦と子供二人、義母との生活を護る為に大きな課題であった“収入”には悩まされましたが“Wワーク”で補填。家にいる時間、家族と顔を合わせる機会、会話は減りましたが、夫婦喧嘩もなくなり大きな不自由無く生活を送ることができています。今からもう一度おなじ経験をしろと言われたら尻込みしますが…。とは言え、もし一人であったとしたら不可能であったであろうここまでやってこられたのは、今まで私に関わってくれた方々のおかげ。なんだかんだと付き合ってくれている家族のおかげだと感謝しています。人間大切な誰かの為ならば普段なら考えもしない行動を起こすことができるものなののでしょうか。

現在は今の仕事を続けながら、家の外溝での家庭菜園と山に借りた畑での野良仕事を楽しんでいます。更には豊かな自然をもつと楽しむために“いしかわ自然学校インストラクターズスクール”を受講し、将来自然の中で“半自給自足生活”をするための準備を楽しんでいます。

しょうわぼしんのかい 昭和戊辰乃会 昭和63年卒 木内 和助



コロナ禍の転職と明高ネットワーク

私事ではありますが、昨年11月に転職をしました。きっかけは明治中学の同級生から一緒に仕事をしませんか?という誘いをいただいたからです。食品関係の仕事から、全く畑違いの建築業界への転職でコロナ禍ということもあり不安もありましたが、社長である彼のサポートもあって、工務店という未経験のジャンルでも楽しく仕事をさせていただいております。

その中で、相談を受けた案件の中に湯島の「つる瀬」様の照明交換のお引き合いがあり、明治高校の大先輩でもあります田邊社長にご挨拶に伺い、自分も明高出身だということをお伝えしたところ、他社からもお見積をとっているという事で、私もなかなかまだ要領が掴めず不手際もあったと思いますが、最終のお見積をご提出する前に「俺はおたくに(仕事を)出そうと思っているんだよ」というお話をいただきました。田邊社長のお人柄と総明会のネットワークの素晴らしさに改めて自分も同じ学校の出身者である事のありがたさを実感しました。照明交換した店舗を一緒にご確認いただき、とても明るくなってよかったというお話も頂き、ご満足いただいていると思います。それ以来、時々会社帰りにつる瀬様でお土産を買って帰るようになりました。家族にも大好評で先輩が美味しい和菓子を作っているということとそこで仕事を頂けたことが、転職で一変した新しい生活が楽しいものとなりました。これからも慣れない業界ではありますが、いろいろなご要望を形にしていければいいなと思っています。

めいこんかい 明魂会 昭和57年卒 菊池 正純

コロナ禍の中で感じたこと

この原稿を書いている今、新型コロナウイルスの新規感染者数が前週比で増加傾向にあることから第5波の到来が危惧され、また2020東京オリパラ開催の是非について議論が沸騰しています。この会報が皆様の目に触れる頃にはどういった状況になっているでしょうか。

在宅の増えた昨今、新聞を読む時間も増えています。先日、「指導法」に関するコラムに目が留まりました。この30年で、犬の寿命が飛躍的に伸びた。その要因として、室内で暮らす犬が増えたこと、そして厳しく叱って服従させるしつけから、とにかく怒ってはいけぬ、いいことをしたら褒めるという人間の接し方の変化が考えられる。また、ラグビー大学選手権9連覇を成し遂げた帝京大学の岩出監督は、学年の隔てをなくしたフラットな指導を行っており、この「体育会イノベーション」と呼ばれた指導法は、多くの種目で浸透しつつある。一方で社会全般には、かつて機能した「若い時の苦労は買ってでもしろ」といった考えが根強くあるが、個人が何の障害もなく、自分の能力を最大限発揮できる社会に向けて変化していく必要がある、といった内容でした。私は職場で、若い後輩たちを「昔ながらの叱咤激励」で指導していますが、なかなか理解が得られないとき、自分自身の変革が必要なのか戸惑っています。翻って、同窓会活動においても、諸先輩が永年育まれてきた伝統を守りつつ、新しい息吹を受け止め、若い世代の同窓生が生き活きと行事に参加できる環境を醸成することがますます大切になると改めて感じます。毎年、拙宅の庭のモミジの木にコトが巣を作ります。今年も、世間の騒ぎに関係なく2羽のヒナがすくすくと育っています。明けぬ夜はない…コロナ禍が過ぎたのち、多様な世代の総明会の会員各位が一同に会することのできる日が一日も早く戻ることを祈っております。

めいわかかい 明輪会 昭和58年卒 門川 隆之



明輪会は、昭和39年(1964年)に開催された第1回東京オリンピックの前後に生まれた学年の同期会です。2010年の総明会幹事を機会に、毎年、総会・懇親会、年2回の同期会ゴルフコンペを開催してまいりました。高校生の時には一度も会話したことのない人も、今では旧知の友のように楽しい時間を過ごしています。

残念ながら、昨年は新型コロナウイルスの影響で総会・懇親会は開催できませんでしたが、ゴルフコンペだけは感染症防止に十分配慮しながら、2020年11月に鹿沼CC、2021年3月に山形GCで開催いたしました(写真は2020年11月)。

今年には日本でもワクチン接種が始まります。日本社会が1日も早く元の日常に戻れば、同期の総会・懇親会も再開したいと考えています。

最後に幹事学年である「隆明会」のご活躍と、総明会会員みなさまのご多幸を祈念して、近況報告とさせていただきます。

めいしんかい 明心会 昭和59年卒 伊東 稔

まずは高校生中学生の皆さんや教職員の皆さま方におかれては長きにわたるコロナ禍となり大変なご苦労があるとお察しします。日常のご努力に感謝いたします。学校が一日でも早く平時に戻ることを願ってやみません。

私は明治中学高校の6年間、バスケット部に所属しておりました。練習でくたくたになって帰宅する毎日でした。大会では勝ったり負けたりするごとに嬉し泣きや悔し泣き、厳しかった合宿も今となればいい思い出です。今、満足に部活動ができない後輩の皆さんを想うと自分はなんて恵まれていたことでしょうか。

同期の会である『明心会』のメンバーは今年で56歳になります。さすがに56歳にもなると皆なかなか貫禄がついており、会話といえば、嫁さんの愚痴や子供の話題は卒業し専ら健康の話題になってきました。このあとは孫の話にでもなるのでしょうか。去年からは感染防止のため集まりも中止続きですが世の中が落ち着いてまた集まることを楽しみにしています。

私の在学中である昭和54～59年頃の明治中学高校といえば男臭い時代の終盤であったと思います。迫力のある個性的な生方、言うことを聞かないヤンチャな生徒も大勢いました。今回、寄稿の話をしていただき色々なことが懐かしく思い出されました。

今高校生、中学生の皆さんには先の見えないコロナ禍の中、大変なご苦労をされていることと思いますが、どうか未来に夢を持ち続けていかれることを心から願っています。

めいしょうかい

明鐘会 平成5年卒 安藤 高利

「エールリカバリーだ Meiji! -」

昨年の幹事学年を務めさせて頂きました「明鐘会」です。昨年はコロナ禍で分からない事だらけの中、先輩諸兄や先生方のご指導の中、何とか隆明会に「前へ!」と法被を引き継ぐ事ができました。改めて御礼申し上げます。

幹事学年を務めさせて頂いた結果、同期の繋がりがより強固になりました。そんな中、お世話になった鈴木康巳先生、星野先生、則先生のご退職の話を聞き、星野先生に最も迷惑をかけた同期が当時の謝罪を兼ねて、令和3年3月16日にご卒業のお祝いにて明治高校へお伺いしました。アポなしの突撃訪問です。

お会いできなかった花束を守護さんに渡すだけでもと訪問しましたが、快く迎え入れていただくことができました。学校では当時お世話になった先生方にもお会いする事ができ、本来の目的であった星野先生への30年越しの謝罪も無事にお伝えすることができました。先生との会話では、あっという間に昔の記憶が戻るとともに、時間も過ぎて行きました。30年越しの謝罪での、私たちのリカバリーは大成功でした。

隆明会からのコロナ禍からのリカバリーに向けたエールはしっかりと明鐘会に届いています。幹事学年の隆明会の皆様、総明会役員及び事務局の皆様への感謝とますますのご活躍とご多幸を心より祈念して、近況のご報告とご挨拶とさせていただきます。

しえんかい

紫縁会 平成7年卒 櫻井 勝也

我々の同期会の名称が、卒業して27年たちますが、ようやく決まります! (予定)。

寄稿時はまだ正式発表前です。幹事より5.15予定の総明会役員・幹事学年とのZoomミーティングにて報告して、正式確定の運びとなっています。その名は、「紫縁会(しえんかい)」。

同期の実行委員長である藤田央さんを中心に、金子敦史さん、久保康高さん、千賀貴生さん、長谷川海平さんの幹事グループが、明治高校平成7年卒・赤い上履きの会」facebookグループを通じて、21年4月に、同期メンバーへヒアリングをおこなってくれました。名前には、「過去・現在・未来」の想いが込められています。

「過去」紫紺の縁で集まった仲間たちの会。「現在」コロナ禍、2年連続で総明会の懇親会や、我々同期の集いが休止になり、来年こそはできるようになってほしいという想い。「未来」いつまでも母校を支援していく気持ちを忘れないという想いが込められています。

Facebookで53名、一部重複しているLINEで22名(21年5月現在)のつながりを、実行委員長は100名まで増やそうと、21年に入り、メンバーに発破をかけています。

この会報を見たけど連絡網に入っていない同級生の方、

藤田央さん(応援団OB) fujita.hss@gmail.comまで連絡をお願いします!!

きょうがくかい

共楽会 平成23年卒 三浦直人

中高時代は歴史研究部に所属していたこともあり、同級生とも、NHK大河ドラマの話題で盛り上がるが多かったように記憶しています。今年の大河ドラマ「青天を衝け」も、もちろん興味深く視聴しております。

さて、すでにご存知の方も多いかと思いますが、何とこの作品に、明治中高の卒業生がご出演なさっているとのこと。「こいつあおかしれえことになってきた」と、「胸がぐるぐるしている」今日この頃でございます。同期生というわけではなく、面識等も全くないのですが、テレビを観て、「快なり!」と嬉しくなったので、勝手に紹介させていただきます。

俳優・小日向春平さん。いわゆる「一会桑」勢力(一橋・会津・桑名)の一角をなし、「高須四兄弟」(慶勝・茂栄・容保・定敬)の1人としても知られる、桑名藩主の松平定敬を好演しています。ちなみに、定敬の兄である会津藩主・松平容保を演じているのは、春平さんの実兄・星一さんで、こちらも明治大学の卒業生とのこと。春平さんは、出演発表の際、「実の兄弟だからこそ活かせる強みを存分に発揮できるよう心がけています」(NHKドラマHPより)とコメントしています。

春平さんとお兄さんのインタビューは、明治大学広報誌『明治』第90号(2021年7月)で読むことができます。同インタビュー記事は、「明大生のための情報サイト MEIJI NOW」にも、転載されています(ちなみに、全くの別件ですが、同サイトの「先輩のコト」コーナーには、明治中高同期の体験記がいくつも載っているのので、2011年卒の皆さま、是非探してみてください!)。

へいせいかいげんかい

平成改元会 平成元年卒 田中 潤二

第41回 卒業記念 明治大学付属明治高等学校

今、原稿を書きながら楽しんでいる東京オリンピック。開会式直前になって、関係者の若き日の“武勇伝”が大問題となって開催が危ぶまれる事態に発展したが、この一連の混乱は平成改元会としては他人事として受け流すことができない。我々が「聞きたいか俺たちの武勇伝?」とのんきに口ずさんで言えることは、「人の弁当を早弁した」「先生にバスケットボールをぶつけた」「先生のチョーク箱にすごいモノを入れて驚かせたら心臓が止まりそうになった」「水がタッパリ入った袋を3階から落として下の教室を水浸しにしたけどシラを切り通した」「卒業式の真っ最中に爆竹をぶっ放した」くらいまでが限界。

同期会の中では笑い話としてきたことは、うかつに口に出せない時代になったことを認識しなければならない。青春の1ページとして、永久に個々の記憶に留めておくべき時かもしれない。もちろん、この会報に掲載したら、取り返しのつかないことになること必至だ。我々にとっては生きにくい時代になったと同時に、あの時代にYoutubeやTwitterがなくて良かったと、心の底から感謝しなければならない。来年こそは行いたい同期会では、あの頃の武勇伝を語るのは危険なので、未来志向の会話を楽しみたい。

めいじんかい

明仁会 平成3年卒 山口 一郎

いつかそれほど遠くない未来の話...

某月某日 清島温水プールの帰りにふと思立って、元浅草の「南部屋五郎右衛門」のお店をのぞいて見る。案の定、石渡さんがいた。ひとしきり近況を話したところ、ノリで志村先輩のところに行っちゃいましょうか、ということになり「志村製作所」へ。これまた、運良志村先輩がいらっしゃって3人で思いの外、盛り上がる。それで更にノリで、じゃあ久しぶりに下町ご近所会でもやる? いいですねー、となる。

某月某日 ということで早速、暑気払いを名目下町ご近所会。急なお誘いだったにも関わらず、20人近く集まる。場所はもちろん永瀬先輩の森下「みの家」。夏の桜鍋も良いものです。ねー、などと言いつつお酒が進む進む。

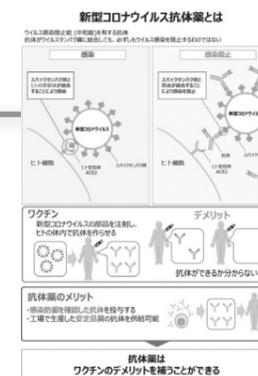
某月某日 毎年9月第二週土曜日と決めている明仁会同期会。今年は阿部先生、岸先生、松田先生にご参加いただき、同期も30人以上が集まって盛況。締めは元応援団・廣田がリーダーを務める校歌斉唱。二次会、三次会へと続き、来年の日程を決めて解散。幹事の熊田、お疲れ様でした。

某月某日 待ってました、今日は「総明会」総会・懇親会。今年は誰に会えるか、それと懇親会の企画は何かしら? 楽しみだなー、では行ってきます! と、コロナ禍で総明会活動が行いにくい現実から離れて、当たり前の日常を想像してみました。この様な状況下で、今年のテーマである「エールリカバリーだ Meiji! -」は本当に心に沁みます。幹事学年を務めてくださった隆明会の皆さんに心から感謝致します。一日も早くお互いが対面でエールを送りあえる時が来ます様に。

かいかん だすこいじゅく

快汗、だすこい塾 平成4年卒 高木 基樹

平成4年卒の高木基樹と申します。私が所属している福島県立医科大学医療トランスレーショナルリサーチセンターでは、医薬品に関連する研究を行っています。新型コロナウイルスが世界で猛威をふるい始めた2020年2月から、独自の技術を用いて、新型コロナウイルスに対する予防薬・治療薬の研究開発を始めました。昨年末より世界で新型コロナウイルスのワクチンの接種が進み、その有効性が確認され、新型コロナウイルス感染症の収束に向けて、世界が歩み始めました。しかし、全世界にワクチンが行き渡るには、まだ時間が掛かります。また、ワクチンは万能ではありません。ワクチンを使用できなかったり(15歳以下の方、他の病気のためワクチン接種ができない方など)、効果がなかったりする方(ワクチンにより新型コロナウイルスに対する免疫ができない方)が多くいます。さらに、ワクチンの効果がない新たな変異ウイルスが発生するかもしれません。そのために、有効な治療薬や予防薬が必要です。私たちの研究グループでは、新型コロナウイルスに対する抗体(感染や重症化を防ぐ免疫物質)を薬にする研究開発を行っています。新型コロナウイルスに感染して回復した方からウイルス感染を防ぐ抗体遺伝子(設計図)を見つけ出し、その遺伝子から抗体を作製しています。その成果が着実に出ており、抗体を薬にできる前段階まで辿り着きました。いち早く、皆様のもとへ、この薬が行き渡るように、そして新型コロナウイルスの世界的な終息を目指し、日夜、研究開発を進めています。



けんしんかい 剣道部OB・OG会 見心会 幹事長 羽田郁雄 昭和52年卒

今年度は新型コロナウイルス感染を考慮し、見心会の活動はすべて中止といたしました。総会も初めて中止となり、文書での報告という形をとらざるを得ませんでした。次回こそは総会を開催し、先輩方との再会を心待ちにしております。今回の原稿は、昨年からの剣道部の顧問に就任した剣道部OBの内田修平君(平成22年卒、本校国語科教員)から剣道部の現状を報告いたします。

【剣道部現状報告】 2020年から猛威をふるった新型コロナウイルスによって、昨年度は数か月に及ぶ学校休業の措置が求められた。学校が再開された後も、部活動は勿論、学校全体のあらゆる教育活動には多くの制約が伴った。その年のインターハイや五大学付属剣道大会は中止となり、当時高Ⅲであった部員諸君をはじめ、誰もが先行きが見えない不安な日々を過ごさなければならなかった。今年度は、高体連や中体連主催の大会は開催できているものの、合宿は勿論、コロナ前のような活動はできていない。マスクをつけながらの稽古も、すっかり当たり前になってしまった。そんな状況においても、部員諸君は目標の達成に向けて主体的に稽古に励んでいる。今年度は、新たに中学6名、高校2名の新入部員を迎え、合計で31名の体制となった。同学年同士でアドバイスし合う姿や、先輩が後輩を気にかけて面倒を見る姿はよく見られる光景の一つだ。普段の稽古では素振りや足さばき等の基本を一つ一つ確認し、基本稽古の後には地稽古や試合稽古を行っている。その成果の一つとして、6月に行われた中体連第九ブロック予選大会では、男子個人1名と男子団体が都大会進出を決めた。また、中学に入学してから剣道を始めた生徒も、自分から果敢と攻めて打ち込んでいく試合を展開することができた。制約や我慢を強いられる中であっても、できることはたくさんあり、工夫次第でいくらでも楽しく充実した活動にできるということ、身をもって学んだ部員諸君を頼もしく感じている。

明治大学付属明治高等学校中学校剣道部 顧問 内田 修平(平成22年卒)

めいせつかい スキー部OB会 明雪会 岡田 正 平成6年卒

高校で覚えた競技スキーの魅力に取り憑かれ、大学4年間もほぼスキー漬けの日々を送ったにもかかわらず、いまだにその楽しさが忘れられないまま45歳を過ぎた今もまだ競技スキーを(細々とですが…)続けています。もっとも、さすがに昔ほどムキになってやるのは怪我が怖いので、決して無理せず“安全運転”を心掛けながら滑っている程度ですが、この楽しさだけはまだまだやめられそうにもありません。ここ数年は仕事の忙しさもあって、1シーズンに2日程度のポール練習と、草大会1~2レースに出るのがやっとの状態ながらも、時間と体力の許す限りまだまだ続けていきたいと思っています。

そんな“中年”競技スキーヤーの私ですが、たまたま2年ほど前に行った菅平スキー場でのポール練習で、なかなか上手な中学生・高校生たち5~6名が同じコーチに教わっていたのですが、聞けば、なんと明治中学・高校スキー部の生徒たちとのこと。まさか高校卒業から25年以上たって我がスキー部の後輩たちと一緒に練習ができるとは…と、この偶然にすごく感激したことがありました。

昔と比べスキー人口が大きく減少している中で、こうしてかなり年の離れた後輩たちと同じポールの中で練習できたことはとても刺激的な出来事だし、こんな繋がり方もスキーをやっていたからこそ。これからも、昭和・平成・令和と世代を超えながらもスキーを通じてOB・OG・現役メンバーが繋がっていければ、と願っております。

めいすいかい 水泳部OB会 明水会 芳澤 徹 昭和63年卒

私が柴犬を飼い始めて間もない時、「柴、いいだろ?」と孫自慢するお爺ちゃんのような表情で私に話しかけてくださった大先輩が昨年に虹の橋を渡られた。先輩も柴犬を飼っており、会う度、柴犬初心者の方はアドバイスをいただき、犬友でもあった先輩でした。

初めてお会いしたのは私が総明会の幹事学年の年で、卒業以来疎遠だった明水会に寄付広告のお願いのため役員会に挨拶にうかがった時でした。大先輩ばかりで、仕事でも経験したことのない緊張の中、諸先輩方は共通の話題等、何か会話が続くよう気遣いをしていたおかげもあり、色々な話をした中の1つが犬の話で、しかも同じ柴犬ということもありお互い写真を見せ合ったりして、お決まりの“うちの子自慢”となりました。

それからは、うちの犬を気にかけていただき、私も先輩に犬の成長を報告するのがルーティーンとなりました。部活や水泳の話、先生・先輩の悪口以外の話題で親子ほどの年の離れた老人とオジサンが犬の話でお酒を飲める心地よい場所、それが私にとっての明水会でした。そんな明水会も、もうすぐ100周年を迎えようとしています。若い力が足りません。まだ明水会に参加していない特に平成卒業の水泳部の方、是非同期・先輩・後輩を誘ってもうすぐ迎える創部100周年を一緒に祝いましょう。



応援団OB会 幹事長 光岡 孝之 昭和63年卒

隆明会の皆さま、新型コロナウイルス感染症による影響に伴い多くの活動が制限されている中、第57回総明会の幹事学年としての活動、本当にありがとうございます!

弊会も例年であれば、6月のOB総会、春・夏・秋の野球応援、紫紺祭、紫紺の下に、春・夏の合宿など、現役の活動に合わせてOB・OGが交流する場があるのですが、それも叶わぬ状況が2年続き、ただただ通常の活動に戻ることを祈るばかりです。

ただ、このような状況下でも年1回OB会報は毎年発行し続けており(今年で第32号)、現状唯一の交流機会となっています。現役の活動状況や卒業生の進路、会の取り組みなど、今年も約400人のOB・OG会員・関係者・現役団員に届けることができました。本年度の団長(高Ⅲ)からは「前を向き、向上心を持って成長する」という大変力強い抱負も寄せられました。総明会幹事学年の本年度の活動テーマは「エールーリカバリーだ Meiji! -」。

我々からも故第5代OB会長、田村正彦先輩(昭和30年卒)の詩をエールとして送ります。

**『明高応援團』 明治あるところに 常に応援團在り 応援團の征くところ 團旗あり
栄光の大團旗 翻々と翻る 團旗こそ明治の象徴 そこに集う人々 正に明治魂の継承者**



放送班OB会 宮田 健 昭和57年卒

放送班OB会のうち、故田村晴彦先生に教えを受けた有志で、毎年先生の眠る港区三田の長久寺へ墓参りと懇親会を行っています。命日(5月17日)に近い5月の第3土曜日、田町駅前のコーヒー店前に16時に集まるのが恒例です。

昨年、オンラインでの墓参り&懇親会に挑戦しました。今年も終息の兆しは見えず、昨年に引き続いてオンライン墓参りとすることにしました。昨年、三田の花屋さんが休業中で花を供えられなかった反省を踏まえて、花は地元から持参することに。スタッフとして4名でお寺に向かいます。

オンライン墓参りは、まだまだ馴染めないのか参加は1名でしたが、今後集まれるようになって、遠方からでも参加できるように継続してみようかと思っています。

懇親会も、引き続きリモートで開催! 隙間時間で参加してくれたOBもいて、6名が参加し、楽しい時間を過ごしました。

これからも、放送班OBに限らず、田村先生にゆかりのある方にはリアルでも、リモートでも気軽に参加して頂きたいと思えます。次回は令和4年5月21日(土)です。リモート参加希望の方はご連絡ください。お待ちしております!



めいきゅうかい 野球部OB会 明球会 会長 一泉 二郎 昭和51年卒

日頃からの明球会へのご支援に感謝申し上げます。今回は、いつも野球部を応援して頂いております栗田 茂 氏(S44年卒)に野球部への思いを語って頂きました。栗田さん、素晴らしいお話を有難うございました。写真はゴールドングラブに囲まれた栗田氏です。

以下は栗田さんのお話です……………

野球に対し興味があったく無い学生生活でした(写真部でした)。世界中が野球をしていると思っていた。アルミ加工メーカーに勤め、たまたま日本で初めての金属バット製作担当に! ただ高野連の認可もなく、変形アルミパイプでした(総重量1.5キロ)。そのうちリサイクルの評価があがり、認可をとり、ミズノ以外アシックス、ゼット、SSK、久保田運動具(スラッガー)など大手30社と契約、キャンプ用品はスポーツ問屋のオリジナルで注文を受け、ホームセンター、防衛省・ボーイスカウトなどに販売。真面目に13年間サラリーマン、その後独立…金属加工、スクラップ、材料販売をし、現在に至る。

☆会社が私についてこれないことを理由に辞めた(^_-)☆
☆自慢は辞めた会社の社長を含め、いまでも付き合いがある。(30年前までは訪問すると必ず栗田専用の湯のみでお茶がでた。)仕事上甲子園に出場しそうな学校にはメーカーと同行訪問・バットの売り込みでした。そんな日々が続くと野球がとて身近になり、プロ・ノンプロ・アマチュアに限らず野球を愛する人が好きになりました。きっと一泉君とは話が尽きないと思います。・また会うのを楽しみにしています…。明高大好きな栗田 茂より



地理研究部OB・OG会 松浦 毅 平成3年卒

地理研OB・OG会では本来は2020年に総会ならびに懇親会を行う予定でしたが、コロナ禍により延期を余儀なくされ、今に至っております。懇親会は毎回50名以上の参加者を集めて盛大に開催されていたものの、開催周期が定まっていなかったことが課題でした。そのため、2018年に地理研創立70周年を記念して開催された総会にて、総会ならびに懇親会は2年に1回行うこととしたばかりでしたので、大変残念に思います。



そのような中、地理研OB・OG会が2009年に組織として立ち上げられて以来、会長を務められていた大塚和哉先輩(S32年卒)が2021年2月4日に急逝されました。(享年81)大塚会長は世代を超えた交流に心を砕かれ、地理研OB・OG会の礎を築いていただきました。コロナ禍収束の暁にはこれまでどおりお元気な姿で再会できると信じて疑いませんでしたので、いまだに信じられない思いでいっぱいです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

ところで、地理研の現役部員たちの近年の活躍は目覚ましく、環境地図作品展入賞については昨年の会報で触れさせていただきましたが、今後もコンクールへ積極的に挑戦していきたいと、顧問の由井先生と部員たちは意気込んでいます。

また、今年は10名の中1新入部員を迎えることができたようで、今後の活躍がますます楽しみです。OB・OG会としても現役部員たちの活躍に今後もエールを送りたいと思っています。

フェンシング部OB・OG会 中村 信也 昭和45年卒

〈東京オリンピックでボランティア活動〉

新型コロナの感染が拡大し、賛否両論がある中で開催されました東京オリンピック2020では、フェンシングのエペ男子団体が悲願の金メダルを獲得したことは記憶に新しいところであります。このフェンシングの会場となりました幕張メッセでボランティアに従事しましたフェンシング部OBは、浜野衛OB(S38年卒)と中村信也OB(S45年卒)、近藤喜之OB(S50年卒)の3名でした。浜野OBは試合前の練習場でのサポート、中村OBは試合前の用具検査、近藤OBは試合会場でのリザルトを担当しました。



幕張メッセの会場にてボランティアのOB3名

無観客となりました今大会ですが、フェンシング競技の期間中、我々ボランティアは担当業務の時間外であれば、会場内で試合観戦ができるため、エペ団体決勝は幸運にも観客席での観戦となりましたが、日本選手の果敢な闘いを目の当たりにし、史上初の金メダルが決まった瞬間には鳥肌が立ち、自然に涙が出てきました。その後の表彰式では国歌斉唱と国旗掲揚が行われ、歴史的瞬間に立ち会うことができました。



現役学生3名と横山顧問、コーチ陣

今回のボランティアでは、選手と間近で接触する機会が多かったのですが、オリンピックに出場するフェンサーは、すべて紳士・淑女であることも痛感しました。今後も明中・明高フェンサーの活躍を皆さんと共に応援していきたいと思っています。

ヤマダ大感謝祭 三保谷 建介 平成6年卒

「ヤマダ大感謝祭」は平成31年4月に神田錦町の居酒屋「魚海船団・神田司町本店」で第9回が催行され、コロナ禍の影響により昨年予定されていた紫紺館での第10回の開催が延期。そして本年4月にも規模を大幅縮小した会合も企画されましたが、3度目の緊急事態宣言で立ち消えとなってしまい、誠に残念な状況が続いております。

山田先生ご自身はお元気で過ごしております。休日には少人数で趣味のゴルフに出向かれ、ニューノーマルを楽しんでいらっしゃるご様子との事です。詳しくは本誌の山田先生のインタビュー記事をご覧ください。見通しが立たない状況ではありますが、事務局一同は常にヤマダ大感謝祭を催行したい気持ちで一杯であります。

今後の予定等最新情報につきましては主にFacebookでお知らせ致します。

詳しくは三保谷建介(mihoya@mtb.biglobe.ne.jp 携帯:090-8740-5574)までお問い合わせ下さい。

バスケットボール部OB・OG会 小柳 貴裕 平成元年卒

男子・女子バスケットボール部OB/OGでは現役の高校生・中学生を支援するために

1.現役の指導協力 2.春/夏合宿での指導協力 3.大会での応援 の3つをメインに行なっております。

現役の支援はOB/OGが個別に実施するのも良いのですが、「OB/OGが一致団結することで持続的支援が可能になる」をモットーにOB/OG同士の親交を深めるべく毎年以下のことを実施しています。

・バスケットボールトーナメント(秋)

OB/OGガチンコトーナメントを実施(18歳から50歳代まで参加)、トーナメント終了後は選抜メンバーで現役高校生とも対戦

・ゴルフコンペ(秋) バスケをしないOB/OGも参加できるよう開催

・OB/OG総会(冬) 新OB/OGを紹介し、縦のつながりを深めながら会食

引退後もさらなるつながりを深めようということで2017年度から開始したのが

・OB/OGチームを発足し、チームでの区民大会への参加 夏のシニア大会(40歳以上)・・・前島先生も特別参加

昨年は新型コロナウイルスの影響が大きく、一切活動ができませんでした。ただ同期や後輩とはLINEやFacebookのグループを活用して連絡を取り合っています。今年は9月ごろにシニア大会も開催される見込みがあり、ワクチン接種も進んで活発な活動ができると期待しております。たとえ活動が制限されるとしてもオンラインなど駆使して、バスケットボール部はOB/OG一丸となって、現役の「リカバリー！」を支援していきます！！

バレー部OB・OG会 事務局長 樋田 哲次 昭和52年卒

高校男子部13年ぶりの関東大会出場へ

バレー部OB・OG会では、一昨年度後半に引き続き、昨年度も集会ができませんでした。役員で、オンライン会議を2回開いた位です。その会議では、卒業生に対して「卒業を祝う会」が開けないので、それに代わるものと考え、今年と昨年と高校3年生に記念品を贈ることにし、若手役員の方によりヨーロッパ製のボールペンを、卒業式後の最後の練習日に、女子には石田元伸OB・OG会長が、男子には私樋田が母校を訪れ、贈呈しました。(下の写真は、男子高校3年生・大学1年生に渡した時の写真です)



年度が替わり、関東大会予選で高校男子部が東京都予選を勝ち抜き、見事第5位の栄誉を取得し、13年ぶり9回目の関東大会に出場することになりました。OB・OG会としては、チームには横断幕を、選手個人には試合用の短パンを贈り、本大会の活躍を期しました。しかし、関東の壁は厚く、初戦の埼玉・春日部共栄高校に力及ばず敗れました。

今後も、名将山中先生(男子部顧問)、知将牧野先生(女子部顧問)ご指導の下、更なる活躍を期待いたします。

バレー部OB・OG会 HP: <https://meikouvolley.jimdofree.com/>

(HPは、石田会長と同期(S51年卒)の齋藤健司氏が協力して作成しています)

歴史研究部OB・OG会 西場健介 平成3年卒

今年は『歴研通信』第100号の発刊に向けて、現役部員各位が準備を進めており、Zoomミーティングが各世代4回に分けて催されました。その目的は3つ。

- ① 「歴研の歴史」を記録し、後世に残すため。
- ② 現役部員各位が、オーラル・ヒストリーの方法論を学ぶため。
- ③ 現役部員各位が、先輩方と交流するため。

OB各位へのインタビューでは、大学2年生のOG(コーチ)が司会を務め、現役部員が聞き取る形式を取り、研修旅行や紫紺祭、顧問の先生など当時の思い出や印象に残っている事柄を中心にお話しいただきました。当時の部活動の状況や写真・資料など、画面を通して共有し、思い出話にも花が咲き、「歴研の歴史」が1本に繋がっていくことを実感出来た様子でした。あわせて当時の部活動に関して寄稿をお願いさせていただいた先輩方の思い出話も楽しみに致したいと思います。



コロナ禍で総明会総会・懇親会が今年も催されないことは非常に残念でなりません。OB・OGと現役部員各位が顔を合わせる事が出来たはずの紫紺祭へ足を運ぶことが出来ないことも無念ではありますが、今後これも「歴研の歴史」の1ページとなります。皆さんで校歌を高らかにご一緒出来る日を期待したいと思います。

令和3年度活動報告

総明会 専務理事
衛藤 雅一

令和3年度は、昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響でオンラインによる理事会の開催、評議員会につきましては書面によるご報告という形で総明会活動がスタートいたしました。

学校関係では、卒業式の縮小開催が継続され、「総明会賞」の授与も直接行うことができませんでした。入学式も同様に縮小開催となり出席することができませんでした。

対外的な活動につきましては、明大中野高校校友会「武陵会」との懇親会、PTA O B会の「白駿会」も中止という状況でした。

総明会の恒例行事であるチャリティーゴルフコンペ、班クラブOB・OG会、明朗会も昨年同様、やむなく中止とさせていただきます。このほか、今年度は2年に一度の会長及び副会長の改選期を迎えたため「会長及び副会長選出委員会」が発足し、5月には郵送による「会長及び副会長の選出」の告知を行い、6月に立候補者の届出書を締め切り、選出既定に従い選出委員会による候補者の選出が行われました。7月の理事会では、選出委員会から理事会に候補者選出結果が報告され審議が行われ候補者の承認が行われました。

このように令和3年の総明会活動は、重要な審議事項がある年となりました。どうか、総会の開催を行い審議・承認をいただくことができれば幸いです。

広報委員会 活動報告

広報委員会 委員長
関川 一浩

新型コロナウイルス感染症により、会員の皆様にご家族、関係者各位におかれましては、大変なご苦勞いかほどかとご推察申し上げます。昨年来からの新型コロナウイルス感染症拡大により発令された度重なる緊急事態宣言の中でしたが、広報委員会は、「紫紺の詩」M「ホームページの運営」を柱に活動をしました。

しかしながら、昨年同様、従来実施していた会議室で集合しての打合せや外部へ赴いての取材等が困難であるため、毎月1回のリモート会議、共有サーバーやチャット活用により限られた行動範囲の中で、総明会本部とも連携を取りながら皆様に情報発信する活動を行なっています。

「紫紺の詩」発刊活動

毎年幹事学年活動テーマを中心に編集活動を行っておりますが、今年度の幹事学年「隆明会」は、「エールリーカバリー」だ「meiji」をテーマに掲げ特集企画記事を組んでいます。世情にあったタイムリーなテーマでもあり、幹事学年の会員皆様に対する思いの詰まった記事が掲載されており、また冒頭にも記載しましたが、限られた活動範囲の中での編集にも拘わらず、従来と変わらぬ内容になっていますので、幹事学年の意気込みも感じながら最後まで是非目を通してください。人と人との接触に規制がある中、取材協力をしていただきました皆様、各OB・OG報告の寄稿にお

いただくことができるよう理事会として検討を重ねてまいりました。その結果、10月23日（土）には評議員会を開催、11月14日（日）には、2年ぶりに総明会総会を開催する運びとなりました。

平時であれば、総会終了後には懇親会を開催いたしますが、このようなコロナ禍の状況です。本年は、総会のみを開催とさせていただきます。ご了承ください。

また、本年度幹事学年の「隆明会」も「エールリーカバリー」だ「meiji」をテーマに掲げ「紫紺の詩」発行、11月に開催予定しているオンライン就活会の準備を進めております。

新型コロナウイルス対応2年を迎え、総明会会員の皆様の健康を第一に考えた活動を進めてまいりましたが、11月には、幾つかの制約がありますが第57回総明会総会を開催させていただきます。また、当日会場にお越しいただくことができない皆様のためにライブ配信もさせていただきますので、新方式の総会にご参加いただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、一日も早く新型コロナウイルスが終焉し、総明会活動が一日も早く正常化することを期待するともに、会員の皆様方にご家族の皆様方のご健康を祈念し令和3年度の活動報告とさせていただきます。

いは、例年とほぼ同数の寄稿が寄せられましたこと、御礼申し上げます。

「M」発刊活動

平成23年卒から平成31年卒までの13人（林田こずえさん、高橋凌士さん、三浦直人、朝倉貴紀さん、土屋弦さん、岩田滯夏さん、坂本駿太さん、塩出研史さん、垣日菜子さん、高波菜生さん、井畔杏里紗さん、橋本大輝さん、小林麻衣さん）で活動を行ってまいりました。若手会員の皆様にも総明会活動を理解していただけるよう、オンライン形式で議論を重ねました。皆様のお手元にお届けいたしました「M」第6号では、明治中高同窓会誌ならではの視点から、漫画アニメ・ゲームを特集いたしました。また、学校からの帰り道、とりわけルートごとの思い出に焦点を当てた特集記事もあります。

「ホームページ」の運営

島村担当理事を中心に、総明会活動、現況等をタイムリーに情報を発信してまいりました。最後になりましたが、このような状況下にも拘わらず、寄稿取材・インタビュー・情報提供にご協力をいただきました会員の皆様、並びに学校関係者各位に御礼を申し上げますとともに、無事発刊できましたこと、心より御礼申し上げます。

総会委員会 活動報告

総会委員会 委員長
栗本 宜長

令和3年度の活動も昨年に続き、新型コロナウイルスの影響を大きく受けています。昨年度は、総会・懇親会ともに中止となりました。今年も3密を避けるため懇親会は実施しないことを決定し、総会については万全の対策を施して2年ぶりに実施する方向で準備をしています。（6月20日時点）開催場所は、日比谷コンベンションホールを予定しており、例年とは違う初めての施設となりますので、当日の運営がスムーズに滞りなく行えるよう幹事学年「隆明会」と結めの作業を推進しています。

その幹事学年「隆明会」は、「エールリーカバリー」だ「meiji」を活動テーマに掲げ、リアルでの打合せ等が制限される中、リモートを中心に様々な準備を進めてくれています。定例会もリモートで実施し、各学年がリモートで行う同期会も積極的に参加し、不自由が強いられる中で幹事学年の役割をしっかりと果たされています。こうした状況下では、なかなか新しい事や話題を収集し、会報などへ反映することは難しいと思いますが、コロナワクチンの開発者を卒業生の中から見付けて取材するなど、例年に引けを取らない活動内容となっております。

最後に総会準備の話題に戻りますが、当日の会場への誘導を始め、総明会旗の手配、看板や音響など、準備することはまだまだあります。また、今回は当日の映像を

総務委員会 活動報告

総務委員会 委員長
光岡 孝之

平成6年卒 隆明会の皆さま、新型コロナウイルス感染症により多くの活動が制限されている中、第57回総明会の幹事学年としての活動、心より感謝いたします。

総務委員会は、皆様と直接活動を共にするようなことが殆どありません。どちらかというと総明会運営における縁の下の活動をしており、主な活動は以下の通りです。

- ・ 評議員会の会場設営、案内状の送付、集計
- ・ 評議員会及び総明会総会の議事録作成
- ・ 学年、班クラブOB・OG会懇親会（暑気払い）の企画、運営
- ・ 役員忘年会の企画、運営

残念ながら昨年、本年と各開催ができない状況ですが、終息後に向けた活動の準備をしております。

この場を借りて、「班クラブOB・OG会」について少し説明をさせていただきます。すでに幹事学年を経験されている方々はご存知とは思いますが、特に調布校舎の卒業生の皆さんには馴染みのない名称かと思えます。

総明会と同窓会組織で、評議員会を審議機関として運営しており、評議員会は評議員で構成されます。

ライブ配信する予定もありますので、幹事学年をバックアップしてコロナ禍の総会が安全に行えるよう、開催予定日の11月14日まで万全の準備をし、安全な総会が実施できるよう努めて参ります。



評議員は、各学年から選出された代表者2名学年評議員と、実はもう一つ、在校中に所属していた班、クラブなどいわゆる部活動の「OB・OG会組織（団体）」から選出された評議員（各団体1名）で構成されます。後者を総じて「班・クラブOB・OG会（評議員）」と呼んでいます。なお、団体が総明会に参加するかは各団体の任意となっております。

これまでも総明会は、学年だけではなく、特に先輩後輩との関係性が強い班クラブOB・OG会にも積極的に参画いただき、運営してきました。猿楽町校舎時代の班クラブでもOB・OG会が組織されていた、活動実態がないなどの理由で参加していない団体もあります。一方、調布移転後に新設されたクラブに対してはこれまでご案内ができていませんでした。今後、学校関係者のご理解・ご協力を得ながら対応していく方針です。

調布に移転し10年以上が経ちました。コロナが終息したら班クラブの仲間でお会いとか、後輩たちを応援しようなど、クラブ単位でOB・OG会を組織しようということがあれば、支援策も用意してありますので、総明会までご相談ください。

組織委員会 活動報告

組織委員会 委員長
鵜飼 友義

新型コロナウイルス感染症の拡大から1年以上が経過し、コロナ対応にもある程度慣れ始めて来たものの、当委員会の活動は、本年も、なかなか難しいものとなりました。

昨年11月、明治高校より、本年2月実施の高校3年生対象の総明会説明会を、感染症対策の観点から、あらかじめ収録したものを生徒に視聴させることで説明会に代えさせていただいた旨の依頼がありました。Zoom等のオンラインコミュニケーションツールにも、ようやくなんとか慣れきたというところに動画の作成…。誰かYouTubeの卒業生いませんか!?と本気で思いました(笑)。しかし、そんな困難にも決してめげることなく、特に若手の活躍により、また、井家上会長の「挨拶動画も頂戴し、素晴らしい動画を仕上げる事ができました！」

この動画は2月16日(火)、明治高校でクラス毎に学生たちに視聴されました。我々は、直接、学生たちの反応を見ることはできませんでしたが、きつと活動内容や思いは伝わったことでしょうか！

また本年も例年であれば3月開催のクラス幹事食事は対面で行うことはできませんでした。しかし、4月4日(日)、昨年同様、オンライン形式、そしてこれまた昨年同様、高校を卒業したばかりの大学1年生に加え、大学2年生にも参加してもらい、2年連続の「直近2学年クラス幹事Zoom交流

会」を開催いたしました。大学1年生からは

単位の仕組みや取得方法、オンライン授業、留学、バイトとの両立、サークル・ゼミ等、大学生活についてのことはもちろん、なんと、「同窓会の開催方法について」という、強い同期愛を感じる質問まで飛び出しました！

後輩思いな大学2年生に本年も感謝するとともに、大学1年生が非常に前のめりに参加してくれた上、「来年またやりたいです！」とまで言ってくれました。オンラインで直接会えないものの、学生の熱気が不思議と肌で感じられ、両学年の学生・組織委員がひとつになれたと感じられた素晴らしい会になり、さらに、未来に繋がるような手応えまであり、会報を執筆している今なお、ワクワクした思いでいっぱいです！

そして、来る11月28日(日)、オンライン就活会が開催されます。現在、幹事学年の隆明会とともに、組織委員一同、鋭意、準備を進めております。昨年の経験や反省を活かし、パワーアップした就活会をぜひご期待ください！

未だ、新型コロナウイルスが猛威を振るっており、みなさまにおかれましては、非常に不安な日々をお送りされていることと思います。みなさまのご健康を祈念いたし、すとともに、コロナに負けず、来るコロナ後、みなさまとお会いできることを、そして益々の総明会の繁昌を願ひまして、活動報告とさせていただきます！

名簿委員会 活動報告

名簿委員会 委員長
鴨下 裕彦

名簿委員会では、毎年会員の皆様へお届けしております会報「紫紺の詩」の発送をはじめ、評議員会やゴルフ、明朗会等への宛名シール、情報の提供を行っております。

昨年度から感染拡大がはじまった新型コロナウイルスは1年以上経つ現在も影響を及ぼし続けており、大勢が集まる総明会活動はずっと自粛しております。各学年の同期会も班クラブのOB・OG会も中止や延期が当り前の状況になってしまいました。

この原稿を書いている時点では、ご高齢の方々から始まったワクチン接種も順次進んでおりますが、英国型やインド型などの変異株の感染者も増えております。その中で開催の準備が進んでいる東京オリンピックなどまだまだ予断を許さない状況です。

飲食関係のお仕事をされている同窓の方々は、もう1年以上大変な状況だと思っております。

このコロナ禍が収まり、堂々と飲みに行ける時が待ち遠しいです。その時は、たくさん仲間を誘ってこの間の苦勞を肴にしたい酒を堪能したいものです。

そんな時が来たとき、仲間を集める為にも会員の皆様の名簿が大事なのです。

住所変更・宛名シール出力等の連絡先
総明会事務局長 昭和61年卒 新世輝 土田正昭
メールアドレス：toei@beach.ocn.ne.jp
FAX：03-3664-0033

※口頭での誤認防止のため、恐れ入りますがFAX、メールでのご連絡をお願いします。
 ※また、同期会の宛名シール出力は、1回1,000円となります。ご了承ください。

企画委員会 活動報告

企画委員会
ゴルフ担当理事
小柳 貴裕

昨年の今ごろ新型コロナウイルスは年内には落ち着き、来年の春にはチャリティーゴルフ大会が再開されると信じていました。ところがいつまでも先の見えない状況が続き今年の開催も見送ることが濃厚となりました。企画委員会としては「やっとなんぼ」皆さんとお会いして初めて活動らしいことができる委員会です。今年はあるため「チャリティーゴルフ大会」について深掘りしようと思います。

これまで25回を数える「チャリティーゴルフ大会」ですが、四半世紀も前の話。当時、明治大学ではO.B.P.T.A.先生らが集まりゴルフコンペをしていたらしく山浦晟暉氏(総明会顧問)が総明会にも取り入れるべきと発案。尾島育四郎氏(第7代総明会会長)を先頭に比留間竹郎氏(獅子の会)を幹事とし誕生しました。冠こそ「ゴルフ大会」ですが当初より一人千円100人集めて10万円を目標に学校へ寄付をされていたそうです。その精神は現在も受け継がれています。その後、第五回ゴルフ大会より総明会組織改正により現在の企画委員会が発足され「チャリティーゴルフ大会」として現在まで続いている次第です。

諸先輩方の精神を受け継ぎ、みなさまと楽しい時間を共有し母校へも貢献できるように頑張っていきたいと思っております。

来年こそはみなさまとお会いできることを楽しみにしております。

《総明会 チャリティーゴルフ大会の歴史》

	開催日	開催コース	参加人数	寄付金	個人戦優勝者(敬称略)	グロス	学年対抗優勝
第1回	1995・1・24	ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎	82名	10万円	不詳	不詳	不詳
第2回	1996・3・22	おおむらさきゴルフ倶楽部	82名	10万円	S46年卒 壇 直樹	不詳	S45年卒 獅子の会
第3回	1997・4・1	武蔵丘ゴルフコース	93名	10万円	S44年卒 栗田 茂	不詳	S41年卒 41明友会
第4回	1998・4・2	セゴビアゴルフクラブ イン チヨダ	96名	10万円	S41年卒 佐藤正見	不詳	S41年卒 41明友会
第5回	1999・4・4	筑波学園ゴルフ倶楽部	140名	10万円	S46年卒 斉藤公義	88	S47年卒 四七四七同志酔会
第6回	2000・3・25	スプリングフィズゴルフクラブ	約100名	不詳	S44年卒 田島 実	82	S44年卒 男坂倶楽部
第7回	2001・5・13	ザ・カントリークラブ グレンモア	約100名	不詳	S44年卒 田島 実	74	S43年卒 紫讃会
第8回	2002・6・2	飯能くすの樹カントリークラブ	約100名	不詳	S49年卒 下田敬一	不詳	S49年卒 翼明会
第9回	2003・6・1	イトーピア千葉ゴルフ倶楽部	不詳	不詳	S34年卒 尾島雄三郎	88	S44年卒 男坂倶楽部
第10回	2004・5・5	潮来カントリークラブ INコース 潮来カントリークラブ OUTコース 潮来カントリークラブ サウスコース	90名	10万円	S36年卒 村上 誠一 S43年卒 荻 誠一 S44年卒 田島 実	不詳	S43年卒 紫讃会
第11回	2005・5・5	潮来カントリークラブ INコース 潮来カントリークラブ OUTコース 潮来カントリークラブ サウスコース	75名	6万円	S49年卒 竹沢 啓 S50年卒 衣笠 学 S51年卒 小井戸功	不詳	S50年卒 明紫会
第12回	2006・6・4	富士OGMゴルフクラブ 出島コース	98名	6.5万円	S46年卒 塙 直樹	83	不詳
第13回	2007・6・3	富士OGMゴルフクラブ 出島コース	82名	不詳	S44年卒 伊藤安正	不詳	不詳
第14回	2008・6・1	イトーピア栃木ゴルフクラブ	113名	10万円	S44年卒 栗田 茂	82	S44年卒 男坂倶楽部
第15回	2009・6・7	サンヨー72カントリークラブ	90名	7.7万円	S44年卒 岩淵善美	88	S44年卒 男坂倶楽部
第16回	2010・6・6	成田の森カントリークラブ	97名	7.2万円	S60年卒 山口達明	87	S60年卒 鬮紺会
第17回	2011・9・19	成田の森カントリークラブ	106名	16.9万円	白駿会 大森清貴	77	S54年卒 明誠会
第18回	2012・6・2	唐沢ゴルフ倶楽部 三好コース	120名	12万円	S60年卒 小林克敏	96	S44年卒 男坂倶楽部
第19回	2013・6・1	千葉新本ゴルフ倶楽部	141名	14.1万円	S56年卒 斉木麻州男	90	S46年卒 明潮会
第20回	2014・6・1	プレステージカントリークラブ	129名	13万円	S63年卒 菅 和禎	81	S46年卒 明潮会
第21回	2015・5・9	真名CC・ゲリープレーヤーコース	118名	12万円	S46年卒 斉藤公義	77	S44年卒 男坂倶楽部
第22回	2016・5・29	ムーンレイクゴルフクラブ 茂原コース	167名	16万円	S59年卒 永井 建	77	S54年卒 明誠会
第23回	2017・5・27	城里ゴルフ倶楽部	104名	10.4万円	S60年卒 山口達明	82	S60年卒 鬮紺会
第24回	2018・5・12	ムーンレイクゴルフ倶楽部 鶴舞コース	115名	11.5万円	S55年卒 村田修司	89	S45年卒 獅子の会
第25回	2019・5・25	米原ゴルフ倶楽部	115名	11.5万円	S55年卒 養田克己	80	S55年卒 紫魂会

幹事学年サポート協力金の御礼とご報告

この度は、「幹事学年サポート協力金」にご協力賜りまして誠にありがとうございました。皆様方の温かいご支援に、あらためて心から厚く御礼申し上げます。

例年幹事学年は、特集を中心とした会報制作や懇親会の企画運営を通じて総明会活動全般をサポートするとともに、各学年の同期会に出席させて頂き、総会・懇親会への参加ご案内や会報広告の募集・寄付のお願いなどの活動で世代を越えたつながりに大きく貢献してくれています。

今年の幹事学年「明鐘会(平成5年卒)」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、会報広告の募集・寄付のお願いを総明会本部

指示で中止し、皆様方とお会いできる機会が制限され、活動資金の少ない状況での活動となりました。それでもオンラインによる就活会を初めて実施し、例年通り会報を制作しました。令和2年の会報の制作費用は、緊急的に総明会の一般会計予算から拠出させていただきました。

本年(令和3年)の幹事学年である「隆明会(平成6年卒)」も、昨年に引き続き会報広告の募集・寄付のお願いを本部指示で中止しましたが、総明会本部として会員の皆様へ「幹事学年サポート協力金」のご支援を頂くこととし、評議員と顧問の皆様へお願いを郵送、またホームページを通じて各会員の皆様へご案内をさせて頂きました。その結果、以下のように皆様から130万円を超えるご支援を賜りました。本「幹事学年サポート協力金」につきましては、その全額を次に示す「隆明会」の活動資金に充てさせていただきます。

- 「会報」制作費用
- 「同期会、OB・OG会のオンライン開催サポート」の受付及びサポート費用
- 「オンライン就活会」の開催費用

このような状況に置かれながらも、幹事学年隆明会は「エールーリカバリーだ Meiji! -」をテーマとし、「世代を越えたつながり」を大切に「Web同期会開催のサポート」「就活会の開催」「会報の制作」と見事な活動成果を出すことができました。

これも皆様方のお支えがあったことと深く感謝し、重ねて皆様方の温かいご支援に心から厚く御礼申し上げます。

会長 井家上 哲史

総明会 会員各位	令和3年6月吉日
幹事学年サポート協力金(寄付)のご案内	
総明会会長 井家上 哲史	
総明会会員の皆様におかれましては、新型コロナ感染拡大による終息の気配も見えない中、仕事に、ご家庭に、引き続き影響が及んでいることと思います。	
例年幹事学年は、会報特集の企画をはじめとした会報制作、懇親会の企画運営を通じて総明会活動全般をサポートするとともに、各学年の同期会に参加させて頂き、総会・懇親会のご案内や参加のお願い、及び会報広告の募集・寄付のお願いをさせて頂きながら、世代を越えたつながりに大きく貢献してくれています。	
昨年(令和2年)の幹事学年である「明鐘会(平成5年卒)」は、皆様ご承知のとおり、新型コロナウイルスの影響により、皆様方とお会いできる機会が制限され活動資金の少ない状況での活動となりました。それでも初めてのオンラインによる就活会を実施し、総明会会員の皆様及び母校の現況、そして自分たちの思いを伝えたいとの一心で、会報制作を行いました。このような緊急性を考慮して令和2年の会報の制作費用は、総明会の一般会計予算から拠出させていただきました。会計報告(会報掲載)でもお分かり頂ける通り、総明会予算収入は限られています。例年であれば皆様方からの広告収入・寄付収入で支えて頂き、総会懇親会を開催し、会報を制作しております。	
令和3年は「隆明会(りゅうめいかい 平成6年卒)」が幹事学年として活動を始めておりますが、緊急事態宣言の再発動等、その活動は昨年同様制限されたものとなっております。このような状況に置かれながらも、「エールーリカバリーだ Meiji! -」をテーマとし、コロナ禍でも出来ることを行うべく、幹事学年は多くのメンバーが団結し、WEBでの会合を重ね、爾々と準備を進めております。すでに「世代を越えたつながり」を大切に、皆様方のWEB同期会開催のサポート役を申し出ていただいております。また、会報も例年と同じ時期に発行できるようにその制作作業に取りかかっております。就活会においては昨年同様オンラインにて、そして総会についても、対面での開催に向け準備をしております。	
そこで、本年度は、幹事学年の活動資金のサポートを目的として下記の要領で協力金(寄付)のご案内をさせていただきます。何卒ご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。	
1.使途 令和3年幹事学年「隆明会(りゅうめいかい平成6年卒)」の活動資金 (現在進行中の活動) ・「会報」制作 ・「同期会・OBOG会のオンライン開催サポート」の受付及びサポート準備 ・「オンライン就活会」の開催準備	3.納入期限 令和3年8月10日
2.納入先 銀行名 三菱UFJ銀行/大塚馬町支店 口座種類 普通 口座番号 2172099 口座名義 総明会 田中 重幸 (ソウメイカイ タナカシゲユキ)	4.問合せ先 総明会 会計 田中重幸 TEL,047-712-8170(ひまわり会計) FAX,047-712-8171 E-mail tanaka@himawari-kaikei.com
なお、ご寄付いただいた方のお名前は2021年総明会会報誌において「ご寄付者一覧」として掲載させていただきますので、ご質問頂きました方は、別紙ご記入頂き「氏名」「卒業学年」「寄付金額」「連絡先電話番号」などを別紙にてFAX又はE-mailにてお知らせ下さいますようお願い致します。 大変恐縮ではございますが今般の状況をご賢察の頂き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。 以上	

幹事学年サポート協力金の受付は、2021年8月10日をもって締め切りとさせて頂きました。

幹事学年サポート協力者一覧

明潮会	昭和46年卒	金2万円
明紫会	昭和50年卒	金3万円
明誠会	昭和54年卒	金3万円
明心会	昭和59年卒	金3万円
關紺会	昭和60年卒	金1万円
新世輝	昭和61年卒	金1万円
昭和戊辰乃会	昭和63年卒	金8万円
明愛会	平成2年卒	金3万円
快汗、どうこい塾	平成4年卒	金6万円
隆明会	平成6年卒	金3万円
山浦 晟暉	昭和29年卒	金20万円
山崎 敬生	昭和32年卒	金3万円
吉田 信行	昭和37年卒	金3万円
尾島育四郎	昭和41年卒	金3万円
関谷 芳久	昭和44年卒	金3万円
中河 孝樹	昭和44年卒	金3万円
吉田耕太郎	昭和45年卒	金5万円
近藤 敏彦	昭和50年卒	金5万円
山崎 秀樹	昭和50年卒	金5万円
吉武 孝生	昭和50年卒	金1万円
井家上 哲史	昭和51年卒	金10万円
岡本 雅仁	昭和51年卒	金1万円
志村 和哉	昭和54年卒	金1万円
島村 武史	昭和59年卒	金2万円
田中 重幸	昭和59年卒	金1万円
平野 一哉	昭和59年卒	金20万円
土田 正昭	昭和61年卒	金1万円
尾崎 博之	昭和63年卒	金1万円
安川 琢哉	昭和63年卒	金3万円
小柳 貴裕	平成元年卒	金3万円
石渡 浩司	平成2年卒	金1万円
遠藤 克彦	平成2年卒	金1万円
遠藤 清貴	平成2年卒	金1万円
神谷 克彦	平成4年卒	金1万円
南谷 吉貴	平成5年卒	金3万円
合計		134万円

総明会(明治大学付属明治高等学校同窓会) 会則

第1章 総則

第1条 本会は、総明会と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の結束と親睦を図り、且つ母校のためにこれを賛助することを目的とする。

(事業及び会計処理)

第3条 本会は、前条の目的を達成するための事業を行う。

(役員)

1 母校に対する賛助活動を推進すること。
2 会員名簿を整備、管理すること。
3 会報などの広報物を発行すること。
4 同期会の結成を助成し、奨励すること。

5 班部OB会の開催を助成し、奨励すること。

6 その他、本会の目的を達成するために必要なこと。

② 前項に定める事業はすべて一般会計として処理する。ただし、会長は、理事会の議決と評議員会の承認を得て、前項1号ないし6号に定める一部もしくは全部を特別会計として処理することができる。

(事務局、所在地)
第4条 本会の事務を行うために事務局を設ける。

② 事務局は、明治大学付属明治高等学校内に置く。

第2章 会員

(会員資格)

第5条 本会は、旧制、新制明治中学校、明治

(入会金及び終身会費)

第6条 会員は、入会の時に入会金及び終身会費を本会に納入するものとする。入会費及び終身会費の額ならびにその徴収の方法は、理事会が明治大学付属明治高等学校校長(以下「校長」という)の同意を得て定める。

(特別会員)

第7条 母校の教職員であるもの及びその職にあつたものを特別会員とする。

② 特別会員は、本会が行う事業に参加することができる。

第3章 役員

(役員の種類及び定員)

第8条 本会に理事10人以上20人以内及び監事2人を置く。

② 本会に会長1人、副会長3人以内、専務理事1人、事務局長1人、会計1人を置く。

③ 必要であれば、本会に常務理事を若干名置くことができる。

(役員を選任)

第9条 会長及び副会長の選任は、別に定める「会長及び副会長選出規定」に基づいて選定し、理事会及び評議員会の承認を受け、総会の決議をもってこれを選任する。会長及び副会長はその就任と同時に理事となる。但し、任期中途で会長及び副会長を補充すべき場合は、「会長及び副会長選出規定」に準じて選定し、理事会及

(会長等の職務)

第11条 会長は本会を代表し、会務を総理、

び評議員会の承認を得て選任することができる。この場合は選任直後の総会において承認を得るものとする。

② 会長及び副会長以外の理事並びに監事(以下「会長選任役員」という)は、会員の中から、会長が選任する。会長選任役員は、選任後最初の評議員会の承認が得られなかったときは、選任されなかったものとみなす。これにより会長選任役員のないようになり、会長は欠員のないようになり、役員を選任しなければならない。

③ 専務理事、常務理事及び事務局長並びに会計は、副会長の同意を得て、会長が理事の中から選任する。

④ 役員の内、任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

⑤ 会長は、副会長の同意を得て、いつでも会長選任役員を解任することができる。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員の無いように直ちに役員を選任しなければならない。

⑥ 理事は評議員を兼務できない。

第10条 本会の会務の執行は、理事会がこれを決する。

② 理事会は理事をもって構成する。

③ 理事会は会長がこれを招集する。

④ 理事会の議長は、会長又は会長が指名したものがこれにあたる。

⑤ 理事会の議事は、出席理事の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

⑥ 理事は書面により理事会の決議に加わることができる。

⑦ 監事は、理事会に出席し意見を述べることができる。

(会長等の職務)

第11条 会長は本会を代表し、会務を総理、

び評議員会の承認を得て選任することができる。この場合は選任直後の総会において承認を得るものとする。

② 会長及び副会長以外の理事並びに監事(以下「会長選任役員」という)は、会員の中から、会長が選任する。会長選任役員は、選任後最初の評議員会の承認が得られなかったときは、選任されなかったものとみなす。これにより会長選任役員のないようになり、会長は欠員のないようになり、役員を選任しなければならない。

③ 専務理事、常務理事及び事務局長並びに会計は、副会長の同意を得て、会長が理事の中から選任する。

④ 役員の内、任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

⑤ 会長は、副会長の同意を得て、いつでも会長選任役員を解任することができる。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員の無いように直ちに役員を選任しなければならない。

⑥ 理事は評議員を兼務できない。

⑦ 理事は、理事会に出席し意見を述べることができる。

(会長等の職務)

第12条 本会の会務の執行は、理事会がこれを決する。

② 理事会は理事をもって構成する。

③ 理事会は会長がこれを招集する。

④ 理事会の議長は、会長又は会長が指名したものがこれにあたる。

⑤ 理事会の議事は、出席理事の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

⑥ 理事は書面により理事会の決議に加わることができる。

⑦ 監事は、理事会に出席し意見を述べることができる。

(会長等の職務)

第13条 会長は本会を代表し、会務を総理、

び評議員会の承認を得て選任することができる。この場合は選任直後の総会において承認を得るものとする。

② 会長及び副会長以外の理事並びに監事(以下「会長選任役員」という)は、会員の中から、会長が選任する。会長選任役員は、選任後最初の評議員会の承認が得られなかったときは、選任されなかったものとみなす。これにより会長選任役員のないようになり、会長は欠員のないようになり、役員を選任しなければならない。

③ 専務理事、常務理事及び事務局長並びに会計は、副会長の同意を得て、会長が理事の中から選任する。

④ 役員の内、任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

⑤ 会長は、副会長の同意を得て、いつでも会長選任役員を解任することができる。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員の無いように直ちに役員を選任しなければならない。

⑥ 理事は評議員を兼務できない。

⑦ 理事は、理事会に出席し意見を述べることができる。

(会長等の職務)

第14条 定時総会は毎年1回開催し、臨時総会が必要なときに開催する。

② 総会は、会長がこれを招集する。
 ③ 総会の招集は、本会が発行する会報に掲載し、もしくはその他の方法で会員に通知して行う。
 (総会の議事)

第15条 総会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項のうち理事会が提案し、評議員会が必要と認めた事項を総会における審議事項として決議する。
 ② 総会の議長は、会長又は会長の指名したものがこれにあたる。
 ③ 総会の議事は、出席会員の過半数でこれを決し、可否同数の時は議長の決するところによる。
 (懇親会の開催)

第16条 懇親会は、会員の懇親を目的として毎年1回開催する。
 ② 懇親会の開催に関する事項は、理事会が決定し、評議員会の承認を得て、会長が会員に通知する。この通知は、総会の招集通知に準じて行う。

第5章 委員会
 (委員会の設置)
 第17条 本会は、第2条の目的の達成及び第3条の規定に掲げる事業の遂行のために必要な事項を調査、研究、審議し、または実施する機関として委員会を設けることができる。
 ② 委員会は、会則に定めるほか理事会の決議により設置する。
 ③ 委員会は、委員長1人及び委員2人以上をもって構成する。
 ④ 委員長は、理事会の承認を得て会長がこれを委嘱し、委員は、会員及び特別会員の中から会長の同意を得て委員長がこれを委嘱する。
 ⑤ 委員会は、委員長がこれを主宰する。
 ⑥ 委員長は、その就任と同時に理事となる。

① 事業遂行基金を支弁して行う事業を検討するため、本会に基金事業委員会を設置する。第17条4項の定めにかかわらず、この委員会は委員長1人と委員8人をもって構成し委員長は理事の中から委員長が選任する。
 (経費)
 第25条 本会の経費は、入会費(ただし基金組入れ分を除く)、終身会費及び寄付金(ただし基金組入れ分を除く)並びに一般会計に属する財産から生じる果実その他特別会計に属さない収入をもって支弁する。

(予算)
 第26条 会長は、会計年度の終了する前に、理事会の承認を得て翌会計年度の予算を作成する。翌会計年度の予算は、評議員会の承認を得て、総会に提出してその承認を得なければならない。② 前項により、会長は、その会計年度の最後に開催される評議員会に翌会計年度の予算を提出し、その承認を得た場合は、翌会計年度の初めから総会開催の日までの間、その予算を執行できるものとする。
 (決算)
 第27条 本会の収入支出の決算は、監事がこれを監査し、会長がこれを総会に提出して報告しなければならない。② 基金特別会計の決算報告においては、財政基盤基金と事業遂行基金を区別し、それぞれの収支の概要及び

第6章 評議員及び評議員会

(評議員)
 第18条 本会に、卒業学年毎に2人以内の評議員を置く。同期会は、同期会の会員のうちから評議員を選任して本会に届けるものとする。また、総明会に登録した班部OB会毎に1人の評議員を置くことができる。評議員を選任した場合は、本会に届けるものとする。

② 同期会が結成されていないか、もしくは同期会において評議員を選任できない事情があるときは、会長は、当該学年のために同学年の中から仮評議員を選任できる。
 ③ 総明会に登録すべき班部OB会が結成されていないか、もしくは班部OB会に評議員を選任できない事情がある場合は、評議員を置くことができる。
 ④ 同期会の評議員と班部OB会の評議員は兼任できない。

(評議員の職務)
 第19条 評議員及び仮評議員は、評議員会に出席するほか、本会の事務のうちその属する学年もしくは同期会及び班部OB会の関係で必要な事務を処理する。
 ② 評議員及び仮評議員は、適宜代行者を選任して評議員会への出席、その他の事務処理を代行させることができる。
 ③ 評議員会の議長は、会長もしくは評議員の中から会長が指名したものが

第10章 補則

(特別決議)
 第28条 本会の会則の改正は、総会における出席会員の4分の3以上の多数による決議によらなければならない。

(届出)
 第29条 会員は、氏名、住所及び職業を変更したときは本会に届け出るものとする。
 ② 同期会は、同期会員名簿及び役員名簿を本会事務局に届け出るものとする。
 ③ 班部OB会は、OB会名簿及び役員名簿を本会事務局に届け出るものとする。

附則
 (経過措置1)
 第1条 (年会費同期会)
 前回の会則の改正が施行された平成11年1月1日以前に会員となった者で構成される同期会(以下「年会費同期会」という)が納入する年会費については、次に会則改正のあるまで改正前の第7条の定めによるものとする。
 第2条 (年会費)
 同期会の納入する年会費は、第25条の定める経費に支弁する。
 (経過措置2)
 第1条 (年会費班部OB会)
 班部OB会は、本会を運営する費用に充てるための年会費を納入するものとする。年会費の額及びその納入方法は、評議員会で定める。
 第2条 (年会費)
 班部OB会の納入する年会費は、第

あたり、その進行は事務局長が行う。
 ④ 評議員会の議事は、出席評議員、仮評議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第7章 同期会
 (同期会)
 第21条 会員は、学年ごとに同期会を組織するものとする。
 ② 同期会は、同期会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。
 ③ 同期会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。
 ④ 同期会は、同期会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

第8章 班部OB会
 (班部OB会)
 第22条 会員は、在学中在籍した班部ごとに班部OB会を組織することができる。
 ② 班部OB会は、OB会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。
 ③ 班部OB会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。
 ④ 班部OB会は、OB会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

第9章 会計

(会計の種類と会計年度)
 第23条 本会の会計処理は、一般会計と特別会計に区分して行い、特別会計はこの会則に定めのある場合の他、理事会において特に定めた会計に関する会計処理、一般会計は特別会計を除いたすべての会計処理とする。

25条の定める経費に支弁する。
 (施行期日)
 この会則の改正は、平成18年12月3日より施行する。
 (参考)
 改正前第7条(年会費)
 同期会は、本会を運営する費用に充てるための年会費を納入するものとする。年会費の額及びその納入方法は、評議員会で定める。

総明会会長及び副会長選出規定
 会則第9条1項に基づき、会長及び副会長の選出は本規程により行う。
 (選出委員会の設置、解散、委員の選出)
 第1条 会長及び副会長の選出を行う場合は「選出委員会」(以下委員会という)を設置する。

② 委員会は役員改選又は補充の時期に合わせて、十分な期間を考慮し、理事会が設置する。
 ③ 委員会の構成は、委員長1人、委員6人とする。委員の選出は理事会及び評議員会で各々3人とする。委員長は会長が指名したものがこれにあたる。
 ④ 委員会の解散は、総会において会長及び副会長が選出された時点とする。
 (会長、副会長の選出、承認について)
 第2条 委員会は、会長及び副会長の選出にあたり、推薦及び立候補を受け、その者をもって候補者とする。
 ② 候補者の中より、会長及び副会長候補者を選出する。選出においては全員一致を原則とするが、定員に絞り込まない場合は、その状態で選出終了とする。
 ③ 理事会は、委員会より選出された候補者の承認を行う。
 ④ 評議員会は、理事会で承認された候

② 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
 (基金)
 第24条 理事会は、本会の財政基盤を安定させ、また第3条に定める事業の遂行資金を形成するため基金を積立てる努力をしなければならない。

② 基金は、特別会計(以下「基金特別会計」という)で処理する。
 ③ 入会費、寄付金のうち理事会で基金に組入れることを決議したものと、並びに基金へ組入れることを目的とする寄付金(以下「特別基金」という)は、基金として基金特別会計に計上し、この会則に定めのある場合を除き支弁することはできない。
 ④ 基金は、財政基盤基金と事業遂行基金をもって構成する。
 ⑤ 基金への組入金金は、財政基盤基金の総額に満つるまで優先してこれに充当する。
 ⑥ 財政基盤基金の総額は、総会の決議により決定しもしくは変更する。この場合、第28条の定め(特別決議)を準用する。
 ⑦ 財政基盤基金は、原則として取崩すことができない。ただし、総会において承認を得た場合はこの限りではない。この場合、第28条の定め(特別決議)を準用する。
 ⑧ 基金のうち、財政基盤基金の総額を超える額を事業遂行基金とする。
 ⑨ 事業遂行基金は、第3条1項1号に定める事業もしくは理事会で決議した事業に支弁するため、理事会及び評議員会の決議によりこれを取崩し、当該事業のために支弁することができる。
 ⑩ 会長は、緊急に対処を要すると認め

た事項(以下「緊急処理事項」という)を、これを選任する。
 (理事会の承認)
 第3条 委員会より選出された会長候補者が1名の場合、理事会において過半数の信任をもって承認されたものとする。
 ② 委員会より選出された会長候補者が2名以上の場合、理事会において投票を行い、最も得票数の多い候補者を会長候補者として承認する。
 ③ 委員会より選出された副会長候補者が3名の場合、理事会において過半数の信任をもって承認されたものとする。
 ④ 委員会より選出された副会長候補者が4名以上の場合、理事会において投票を行い、得票数の多い過半数の信任をもって承認されたものとする。
 (会長、副会長の資格)
 第5条 会長及び副会長の資格は次の各号のいずれをも満たすものとする。
 1 総明会会員として20年以上在籍していること。
 2 評議員又は理事を経験していること。
 3 立候補届出締め切り時の年齢が70歳未満であること。
 この規定は、平成26年11月16日より施行するものとする。

前年度幹事学年挨拶

第56回総明会 実行委員長
平成5年卒 明鐘会

横尾 克久

今年の夏は本当に夏らしい夏だ。近年は異常気象ばかりで、例年が当てにならないが、今年は本当に夏らしい夏である。私の考える夏らしさは3つある。1つ目は、晴れの時間。1日の晴れている時間もそうであるが、1週間、1ヶ月という単位での晴れている日数だ。毎日夕立があるとか、晴れと雨が周期的に繰り返すというのは夏らしくない。夏の入りや夕立があるのはしばしばだが、盛夏になっても夕立つづきではちょっと寂しい。2つ目は晴れの質である。クーラーの部屋から外出することを躊躇してしまふ。ついつい日陰を意識的に探して歩いてしまふような、強烈な日差しである。そして、3つ目はタイミング、つまり梅雨明けと秋の入りの時期である。今年関東の梅雨入りは6月中旬とやや遅かったが、梅雨明けは7月20日頃、夏休み開始とともに関東では梅雨明けしたはずだ。青春時代も夏休みとともに部活練習が始まり、炎天下、水も飲めずに汗を流したことが懐かしい。今年はいつもの夏がやってきた。しかし、いつもの夏は今年も来なかった。ん？？

に部活の練習・合宿である。今年は暑い夏だが寂しい夏だ。しかし、本年幹事学年の総明会は、メンバー個々の高いパフォーマンスとチームワークが光る。この異常な夏においても、すばらしい足跡や結果を残してくれるであろう。前年度幹事学年一同、できるかぎり総明会を支援し、彼らの成功を祈念していきたい。来年こそはいつもの夏が戻ってくることを願っている。



次年度幹事学年挨拶

第58回総明会 実行委員長
平成7年卒 紫縁会

藤田 央

平成7年卒の皆さん。いよいよ来年は私たちが総明会の幹事を務める年となりました。総明会の幹事って何すればいいの？このように思う方が大半ではないでしょうか。卒業から28年たった代の方たちが、1年間、11月に行なわれる明治中学・高校の同窓会である総明会の総会・懇親会に向け、幹事として中心になって活動していきます。例えば、今、手に取っている会報の作成も幹事学年の方が代々作られています。45・46歳になって改めて、高校時代の体育祭や文化祭を創り上げた感覚で、この総明会行事を創り上げる。正に青春の思い出が蘇る1年間だと、歴代の先輩方の活動を見てきて感じました。来年は私たちが青春時代を再び呼び起こす番です。

さて、先日、同期会の名称を「紫縁会(しえんかい)」と決めさせていただきました。会の名称に込めた想いも同期会活動報告に書かれている通りです。地方に転勤中、海外赴任中、子育てが忙しい、奥さんが許してくれないとか皆さんの事情は重々承知しております。できる時にできることを皆が少しずつやってくれば、幹事学年の1年間は無事にやり遂げられると思います。むしろ、それらが1生の仲間として過ごし



ていく新たなステージの始まりではないでしょうか。新型コロナウイルス感染症拡大や緊急事態宣言により、総明会懇親会は2年連続中止に。私たちの同期会も開催できておりません。来年度の実行委員長を務める私には不安しかありませんでした。しかし、先日、本年度実行委員の総明会の先輩方のZoom会議に参加し、たくさんの励ましのお言葉をいただき、今は不安よりも「やりがい」を大いに感じております。総明会の幹事を経験されてきた先輩方、来年度の総明会行事へのご支援、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

本年度幹事学年挨拶

第57回総明会 実行委員長
平成6年卒 隆明会

三保谷 建介

総明会の諸先輩方、後輩の皆様、本年度幹事学年を務めさせていただきます隆明会でございます。本年1月に総明会の井上会長と土田事務局長のお立会いのもと、明鐘会の横尾実行委員長より伝統の半被引き継ぎを受け、隆明会の幹事学年活動が開始しました。コロナ禍は2年目に突入り、日々刻々と変化する社会の状況下で難しい対応を強いられている方々も少なくない事と拝察致します。総明会の行事は昨年同様多くの行事が中止となり、私共の活動は決起集会すらままならず、原則オンラインでの実施となりました。このような難局にあっても、オンラインならではの強みを生かして海外などの遠隔地に住む同期にも作業の協力を得たり、会報のインタビューをWeb会議で実施したりと、皆で知恵を絞り総力戦で臨んで参りました。また直接会うことが困難でありながらも、数多の先輩方から激励のお声掛け頂いて私共を導き、見守って頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。



チン接種等々の状況から、現時点においては、例年通り、寄付を募り、会報への広告掲載も実施する予定で我々幹事学年は後輩へ引き継ぎを致しますので、次年度幹事学年の紫縁会にも変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。私達が一刻も早く集団免疫を獲得し、再び懇親会で皆様方と肩を組んで校歌を斉唱する日が来ることを切に願います。ありがとうございます。

【編集後記】

実行委員長(平成6年卒) 三保谷 建介

幹事学年実行委員長として各委員会に目を配っていたつもりが、気付けば高木教授・栗田先輩・オンライン同期会・ヤマダ大感謝祭・幹事学年ご挨拶・編集後記と6本の記事を書いているのである。子供の頃から作文は苦手意識が強く、「過程」に関わる事すら無かったのに、より一層思い入れの強い会報を手にする事になりそうだ。同期の会報委員が一堂に会することは発足以来叶わず、総明会広報委員会の先輩後輩とも直接顔を合わせる機会も一度あるかどうかという稀有な状況でも会報が出来上がってしまうのは、とても不思議な感覚だ。

私の本業は飲食店で、取材を受ける機会も定期的にある。また私ひとりの映像写真事務所で各種媒体に映像写真や文章を出す小遣い稼ぎもしている。元々必要な取材プロセスは理解していたが、リアルで面会せずとも記事化が進むのはコロナ禍特有の事情とは言え、変革の荒波の只中にある事を実感させられる。

元々の作文の苦手意識は「興味の無いテーマを書くこと」の苦痛だったとあの頃を思い返す。興味のある題材ならスラスラ書けると気付いたのは社会に出た後だ。今回の記事はどれも悩むこと無く筆を進められたのは、勉強は嫌でも学校が好きだったお陰と改めて思う。会報編集にご協力頂いた皆様方には深く感謝申し上げます。

と言う訳で、近頃は昨年12月に映像写真事務所名義で共著した講談社「シー刊」平成令和新时代パトカー30年史(別冊ベストカー)「書店等でお取り頂けると私が感涙に咽ぶこと必至なのである。

会報委員(平成6年卒) 白井 智樹

大学卒業後、平々凡々な会社員として過ごしてきた私は、世の中で認められるような実績を積むこともなく、また、根っからの「陰キャ」体質から仕事の忙しさにかまけて同級生との交流もごく少数の年賀状のみであった。このまま母校に貢献するでもなく、関係も薄くなっていくばかりかと思っていた矢先、会報委員のお誘いを受けました。

コロナ禍から発生する様々なストレスに加え、今年はプライベートでも大きな変化があり、私のポジションは極めて低い状態でしたが、いつまでも愚痴を言っているも始まらないと思いつつも、当該活動に参加しました。今回の活動をする中で、明中明高で過ごした6年間が今の私を形作っている重要な期間であったという事を改めて感じました。特に恩師である並木先生へのインタビューでは、私が所属した部活の顧問でもあった事もあり、私は学校生活全体を振り返る事になりましたが、自由のびのびと積極的に物事に取り組みんで形にする事を学生時代に勉強させていたとき、それは今の仕事でも活かされています。

また、同級生とのやり取りからも刺激を受けました。みんな「おじさん」に進化したけれど、気持ちは若い時のまま。私も負けずたれませんが、楽しい思い出も沢山蘇って来ました。気が付いたらすっかり元気を取り戻した私がいきました。そんな私がほんの少し携わらせてもらった本誌が読者の皆様へのエールになることを祈っております。

会報委員(平成6年卒) 山本憲司

三保谷実行委員長からの鶴の一声から始まった会報活動であった。

私なんかで務まるのかと、一抹の不安を抱えていた中でスタートでもあった。

主な業務は、①同期会、班部OB・OG会報告書 ②退任先生インタビュー記事の添削であったが、携帯の文字変換機能との格闘でもあった。

皆さん熱い思いを込めて投稿していただけるので、杓子定規での添削は出来ず苦労した。主要メンバーと比較すると業務量は明らかに少なく、ワンポイントリリーフ的な位置付けに過ぎなかったとは思いますが、多少でもお役に立てたのであれば嬉しく思う。

このコロナ禍の影響もあり、在宅勤務が基本スタイルとなり、社会とは隔絶された状況に陥っているのではあるが、同期メンバーとはChatworkやZoomで繋がることもできたのは不幸中の幸いであった。

本来であれば、会報活動業務上業務後に軽く一杯のようなこともできれば良かったが、それについてはアフターコロナで味わねれば良いかと思う。

最後になりますが、関係各位には深く感謝申し上げます。

会報副委員長(平成6年卒) 大島昌彦

取材のため、計3回学校にお伺いしました。在学時とは異なる立地環境ですが、お世話になった先生方や後輩の皆さんとの交流を通じて、調布校舎に対する「母校感」が増した気がします。また、教員室あたりで感じる若干の緊張感は何とも言えない懐かしさでした。筆力不足にて文章のまとめには難儀しましたが、久々の同級生との共同作業は、得難い機会となりました。



会報副委員長(平成6年卒) 中村功児

コロナ禍で減少する本業の売上と反比例して増える作業量にメンタルを削られながら過ごしていたある日、日本への一時帰国も事実上不可能な状況下にも関わらず、委員長からの声掛けで会報委員会に参加。東京から直行便で6時間の距離に住んでいるとはいえ、会議はすべてオンラインだし、取材は無理でも校正の手伝いくらいはできるかなと思つて会報委員会に加わりました。また、時代の変化に伴いOB・OGの地理的活動領域は今後どんどん広がっていくであろうから、私のような委員の存在が当たり前のようになつてほしいという思いもあつての参加でした。

しかしながら、会報委員会の仕事には意外とアナログなものもあり、結局大事な場面ではそれほど役に立てなかったなと振り返つています。

「あのときこうすればよかった」と省みることはいろいろありますが、この経験を次世代の会報委員に引き継ぐ場が今後来ればよいなあと思つ、会報副委員長として最初で最後の原稿を終えたいと思います。

会報委員(平成6年卒) 藤瀬大輝

「三保谷(実行委員長)の為なら、一肌脱いでやるよ。」そんな軽い気持ちで受け入れた、隆明会会報委員長だった。コロナ禍での幹事学年の船出に幾ばくかの不安も抱えながら、諸先輩方から、「会報委員は大変だけど頑張れよ。」と声を掛けられ、そんな大変なところなのかと実感のないまま、過ぎていった令和2年の年末だった。令和3年に入ると早々に隆明会会報委員会は総明会広報委員会の傘下に入り、10月会報発行に向けてすぐに準備に入るよう指示が入ってきた。前年度からの引継ぎも盛ならぬ中、僅かな資料を元に作業を始めた。テーマ? 体裁? 台割? 依頼文? 自分のやつていることが、何なのか、どんな意味があるのか、正しいのか、間違っているのか、仏頂面のオンライン会議では、推し量ることもできず、迫りくる締め切りに、直前の修正も何度あったらうか。気づけば孤立無援の中に押し潰されていた。

「ごめん三保谷、俺もう駄目だ。」そう思った。すると、最初は、会報委員会の仲間たちが、次に、隆明会執行部の仲間たちが、いつしか総明会役員の先輩方が、最後には広報委員会の先輩方が、気づくと総明会の大勢の仲間たちが一肌脱いで会報制作を支えてくれた。

今年の会報は、総明会の先輩方、後輩達が、互いに「エール」を送りあって編み上げた一冊だと思う。

「ありがとう。」と一言で言うには複雑な気持ちだが、一区切りが付き安堵の気持ちで今これを書いている。

第57回 総明会実行委員会 「隆明会」平成6年卒

実行委員長 三保谷建介	式典委員長 井上 裕貴	ゴルフ委員長 内田竜太郎	会報委員 片木礼次郎 白井智樹 豊村健二 古川学司 山本憲司 山本英隆
実行副委員長 熊木 達朗	式典副委員長 高橋 豊	ゴルフ副委員長 大掛 勇人 中村 勲	就活会委員長 井上 琢磨
事務局長 三谷 知弘	寄付広告委員長 桜井 崇之	会報委員長 藤瀬 大輝	就活会副委員長 岡田 正 田所 保浩
会計 山本 基樹	寄付広告副委員長 高橋 一徳 田所 保浩	会報副委員長 大島 昌彦 中村 功児	



お礼とお詫び

この会報誌発行にあたり、多くの総明会の皆様から、ご寄稿及び貴重なお写真の提供をいただきました。広報委員会一同心よりお礼申し上げます。紙面の都合上、全てを掲載することができませんでした。この場を借りてお詫び申し上げます。また、文章中においても、万人が読みやすい表現に統一をはかるため、広報委員の責任で割愛・表現の変更をさせていただきました。広報委員全員で文章を校正致しましたが、至らぬ点もあるかと思ひます。何卒ご了解いただきます様お願い申し上げます。

※本誌掲載の記事、写真、イラスト、図表の無断転載は固くお断りいたします。乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

住所変更時のお願い

総明会では、総明会会報・総明会からのお知らせが皆様のお手元に、1通でも多く確実に届くよう各学年の評議員を通じて総明会会員名簿の管理を行っております。お引越し等で住所が変わられた方はお手数ですが、右記総明会事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

連絡先
総明会 事務局長 土田 正昭
TEL 03-3664-0810
FAX 03-3664-0033
(勤務先:株式会社東栄 代表取締役)
E-mail:toei@beach.ocn.ne.jp

発行: 明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会・総明会

〒182-0033 東京都調布市富士見町4-23-25

明治大学付属明治高等学校内

TEL.042-444-9100

http://www.meiji-soumeikai.com/

編集長: 藤瀬 大輝

表紙: 豊村 健二

アートディレクター: 田嶋 慎治 (昭和63年卒)

制作進行: 田嶋 慎治 (昭和63年卒)

印刷: ふじ・プリント

2021年10月1日発行

※表紙イラストは、幹事学年の隆明会が在学時の思い出をイメージしたものです。

